松本市文化財調査報告№200

長野県松本市

AGATAMACHI

県町遺跡

—第14次発掘調査報告書—

信州大学附属図書館
定期刊行物

2009.3

松本市教育委員会

長野県松本市

AGATAMACHI

県町遺跡

—第14次発掘調査報告書—

2009.3

松本市教育委員会

序

県町遺跡は、松本駅前のあがたの森通りの東端、国指定重要文化財の旧松本高等学校本館・講堂が所在するあがたの森公園一帯を中心とする遺跡として古くから知られています。松本の中心市街地に接する本遺跡周辺は、昭和55年以降、さまざまな開発に伴い13次にわたる発掘調査が行われ、弥生～平安時代にまたがる大規模集落遺跡であることが判明しています。

平成19年、県町遺跡の一部にあたる県１丁目に、大型マンション（ポレスターあがたの森）を建設することが株式会社マリモにより計画されました。このため、松本市は株式会社マリモから委託を受け、県町遺跡を記録保存する目的で緊急発掘調査を実施することになりました。

発掘調査は、同年12月６日から翌年３月27日にかけて行われました。厳冬期の調査は、土壌の凍結と積雪により発掘が困難な期間もありましたが、関係者の御尽力により無事終えることができました。調査の結果、平安時代を中心とする集落址をはじめとして、弥生時代～中世にわたるさまざまな遺構・遺物を発見することができました。これらは地域の歴史を研究していく上で、たいへん貴重な資料となりました。

開発事業に伴う発掘調査は、私たちの豊かな生活とひきかえに遺跡の破壊を前提とするものですが、今回の発掘成果が松本の歴史の解明に少しでも役立つことを願います。

一昨年、松本市は市制施行100周年を迎えて、歴史をふりかえるさまざまな記念事業が行われました。しかし、私たちの郷土はわずか100余年で形成されたわけではありません。それ以前の遙か悠久の昔から、先人たちの歴史の営みは続いてきました。本遺跡を含めて市内で行われた埋蔵文化財の発掘成果が、郷土の歴史を振り返るための一助となり、次代を担う子供たちに先人たちが遺した文化や伝統を伝えるよすがとなれば幸いです。

最後になりましたが、今回の発掘調査にあたり多大な御理解と御協力を賜りました株式会社マリモ、地元関係者のみなさまに厚く御礼を申し上げます。

平成21年３月

松本市教育委員会　教育長　伊藤　光

例　言

1　本書は、平成19年12月６日から平成20年３月27日にかけて行われた、松本市県１丁目1530－４に所在する県町遺跡の第14次発掘調査報告書である。

2　本調査は、マンション「ポレスターあがたの森」建設事業に伴う緊急発掘調査であり、株式会社マリモより松本市が委託を受け、松本市教育委員会が発掘調査・整理作業等を実施した。

3　本書の執筆分担は次のとおりである。

内田陽一郎　第Ⅲ章第２節１（C区）、３節３　　関沢　聡　第Ⅰ章、第Ⅲ章第３節２、第Ⅳ章

直井雅尚　第Ⅲ章第３節１　　宮島義和　第Ⅱ章、第Ⅲ章第２節１（B区）・２・３、第３節４

吉井　理　第Ⅲ章第１節、第２節１（A区、C区157住）・４

4　本書の作成・編集にあたっての作業分担は次ぎのとおりである。

遺物洗浄・接合：白鳥文彦、前沢里江、百瀬二三子

土器実測・トレース：竹内直美、竹平悦子、中澤温子、八板千佳

金属製品保存処理・実測・トレース：洞澤文江

石器実測・トレース：内田陽一郎

遺構図調整・整理・トレース：村山牧枝

図版組：（遺構）村山牧枝　（遺物）内田陽一郎、洞澤文江、八板千佳

写真撮影：（現場写真）内田陽一郎、三村竜一、宮島義和、吉井　理　（遺物写真）宮嶋洋一

総括・編集：関沢　聡、吉井　理

5　図中で用いた方位記号はすべて、真北を指している。

6　本書の中で使用した遺構名の略称は次のとおりである。

第○号竪穴住居址→○住、第○号竪穴状遺構→竪○、第○号土坑→土○、第○号ピット→P○、第○号溝状遺構→溝○、（住居内）第○号ピット→P。

7　本書の中では遺構・遺物の細部を以下のスクリーントーンで表した。

焼土範囲：　炭化物範囲：　粘土範囲：　貼床範囲：

土 師 器：△　　黒色土器Ａ：▲　　須 恵 器：○　　灰釉陶器：□　　緑釉陶器：■

金属製品：●　　石　器：＊

8　土器・陶磁器の実測図において断面図の白抜きは弥生土器・土師器・黒色土器Ａ、スミ塗りは須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・磁器を表している。

9　遺構・遺物の記述で用いた古代・中世土器の種別・器種・時期区分等は、以下の文献に拠っている。

（財）長野県埋蔵文化財センター　1990　『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書４　―松本市内その１―　総論編』

10　本調査における出土遺物及び測量図・写真等の諸記録は松本市教育委員会が管理し、松本市立考古博物館（〒390-0823　長野県松本市大字中山3738番地１　TEL：0263-86-4710　FAX：0263-86-9189）に保管・収蔵されている。

目　次

序
例言
目次
第Ⅰ章　調査の経緯 …… 2
　第１節　調査に至る経過 …… 2
　第２節　調査体制 …… 3

第Ⅱ章　遺跡の環境 …… 5

第Ⅲ章　調査結果 …… 6
　第１節　調査の方法 …… 6
　第２節　遺構 …… 7
　　１　竪穴住居址 …… 7
　　２　竪穴状遺構 ……11
　　３　土坑・ピット ……13
　　４　溝状遺構・自然流路 ……14
　第３節　遺物 ……18
　　１　土器・陶磁器 ……18
　　２　金属製品 ……33
　　３　石器 ……33
　　４　木製品 ……34

第Ⅳ章　総括 ……35

図版目次

第１図　調査地の位置 …… 3
第２図　調査範囲 …… 4
第３図　遺構配置図(A～C 区) ……36
第４図　遺構配置図(C 区南側) ……37
第５図　基本土層図 ……37
第６図　溝状遺構土層図 ……37
第７図　竪穴住居址(1) ……38
第８図　竪穴住居址(2) ……39
第９図　竪穴住居址(3) ……40
第10図　竪穴住居址(4) ……41
第11図　竪穴住居址(5) ……42
第12図　竪穴状遺構 ……43
第13図　土坑(1) ……44
第14図　土坑(2) ……45
第15図　土器・陶磁器(1) ……46
第16図　土器・陶磁器(2) ……47
第17図　土器・陶磁器(3) ……48
第18図　土器・陶磁器(4) ……49
第19図　土器・陶磁器(5) ……50
第20図　土器・陶磁器(6) ……51
第21図　土器・陶磁器(7) ……52
第22図　土器・陶磁器(8) ……53
第23図　土器・陶磁器(9) ……54
第24図　土器・陶磁器(10) ……55
第25図　土器・陶磁器(11) ……56
第26図　金属製品・石器 ……57

表　目　次

第１表　土坑一覧表……16
第２表　土器・陶磁器観察表……24
第３表　金属製品一覧表……34
第４表　石器一覧表……34

第Ⅰ章　調査の経緯

第１節　調査に至る経過

県町遺跡は松本駅の東方1.4 km に所在する集落遺跡で、昭和55年以降、13次にわたる発掘調査が行われ、弥生～平安時代にまたがる大規模集落遺跡として知られている。

平成19年、広島市西区庚午北１丁目17番23号に所在する株式会社マリモ（以下、「マリモ」）は、松本市県１丁目1530－４の土地（面積1,720.31㎡）に、鉄筋コンクリート造地上５階建（建築面積781.33㎡）のマンション「ポレスターあがたの森」と併設立体駐車場の建設を計画した。当地籍には、松本市内で唯一残存するウィリアム・ヴォーリス設計による洋館があったが、今回のマンション建設により解体された。事業予定地は県町遺跡の範囲に該当するため、松本市教育委員会（以下、「市教委」）は埋蔵文化財保護に関する協議をマリモ側と行った。その結果、予定地内で試掘調査を行い、埋蔵文化財の有無を確認することとした。

試掘調査は平成19年11月19～20日にかけて、事業地内のマンションと立体駐車場予定地に３本の試掘溝（トレンチ）を設定して行った。その結果、すべてのトレンチで平安時代の遺構・遺物が確認された。市教委は試掘結果に基づきマリモ側と再度協議を行い、地下への掘削で埋蔵文化財が破壊される部分については発掘調査による記録保存をはかることにした。

記録保存は、マリモから松本市が委託を受け、市教委が行うこととし、平成19年度に発掘調査（12月６日～翌年３月27日実施）、平成20年度に整理作業と報告書刊行を行うことにした。

今回調査に伴う文書記録等は以下のとおりである。

平成19年

11月30日　「土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出書」

12月３日　「県町遺跡に関わる保護意見書」

「埋蔵文化財発掘調査委託契約書」

業　務：発掘調査

期　間：平成19年12月３日～平成20年３月31日

12月10日　「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）」（19教文第５－380号）

平成20年

３月28日　「埋蔵物発見届」・「埋蔵文化財保管証」・「発掘調査終了報告書」

３月31日　埋蔵文化財発掘調査業務委託に伴う「完了報告書」

「埋蔵文化財発掘調査委託契約の一部を変更する契約書」

変更内容　委託料の金額変更

４月１日　「埋蔵文化財発掘調査委託契約書」

業　務：整理作業・報告書刊行

期　間：平成20年４月１日～平成21年３月31日

４月21日　「埋蔵物の文化財認定及び出土品の帰属について（通知）」（20教文第26-11号）

10月14日　「出土文化財譲与申請書」

10月24日　「出土文化財の譲与について（通知）」（20教文第27-28号）

平成21年

３月31日　「埋蔵文化財発掘調査委託契約の一部を変更する契約書」

変更内容　委託料の金額変更

第２節　調査体制

調 査 団 長：伊藤　光（松本市教育長）

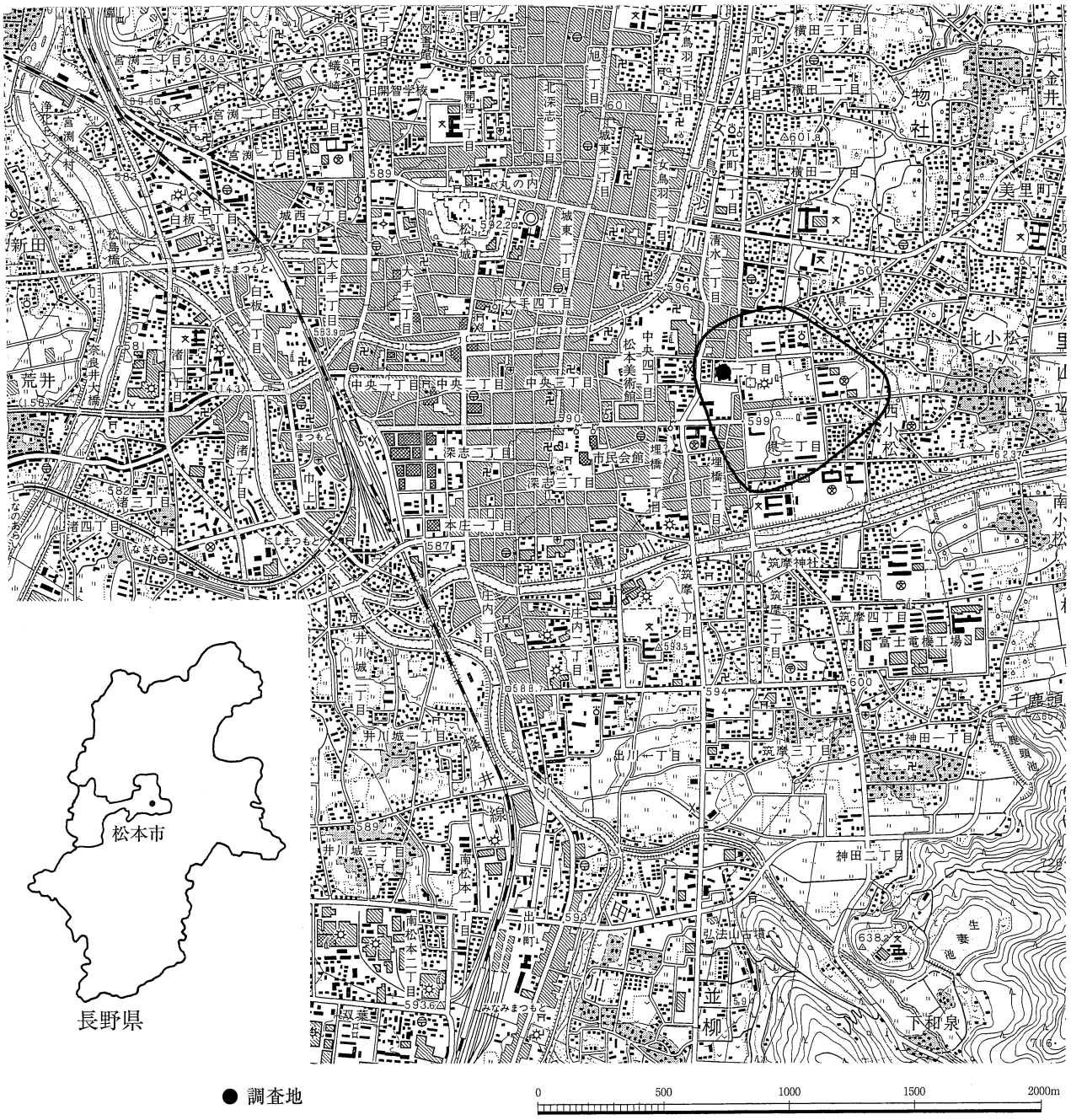
調査担当者：三村竜一、関沢　聡、宮島義和、内田陽一郎、吉井　理

調　査　員：三村　肇、森　義直

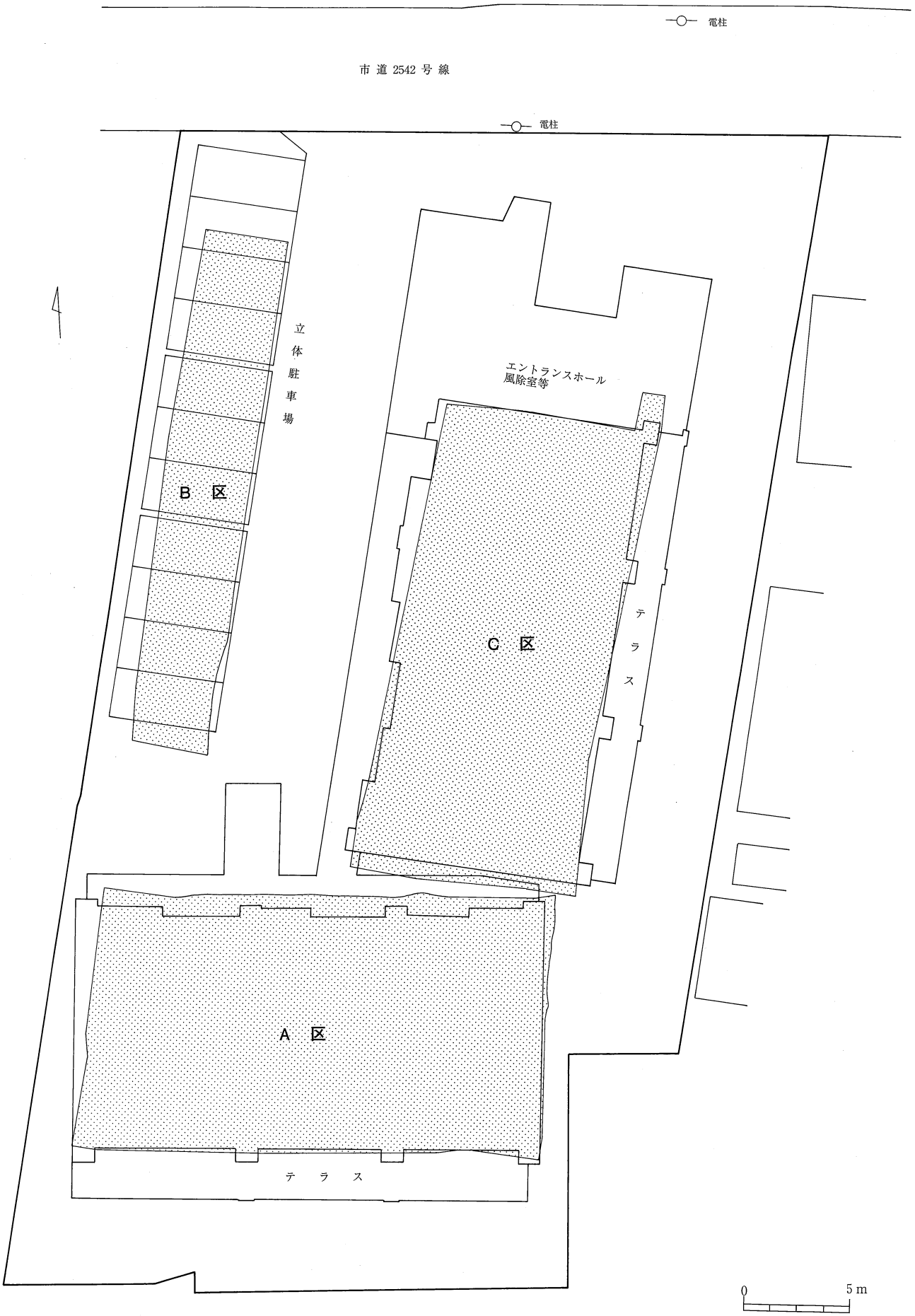
発掘協力者：（発掘作業）飯田三男、井口方宏、石川一男、今井太成、入山正男、折井完次、河野清司、笹井トキ子、中村恵子、古屋美江、待井敏夫、宮澤文雄、本木修次、百瀬二三子、渡辺順子

事　務　局：松本市教育委員会文化財課

宮島吉秀（課長　～平成20年３月31日）、小穴定利（同　平成20年４月１日～）、横山泰基（係長　～平成20年３月31日）、大竹永明（同　平成20年４月１日～）、直井雅尚（主査）、関沢聡（主査）、櫻井　了（主事）、柳澤希歩（嘱託）



第１図　調査地の位置



第2図　調査範囲

第Ⅱ章　遺跡の環境

1　地形・地質

位置と地形（第１図）

三峰山を源とする薄川は扇状地を形成して西へ流れる。途中、桐原の追倉沢と海岸寺沢により形成される小扇状地を取り込み、里山辺に至る。以後、女鳥羽川扇状地と複合して松本市街地に至る。県町遺跡は北の女鳥羽川、南の薄川に近接する扇端部に立地する。国土地理院の平成５年発行の１/25000地形図では、遺跡内を標高600ｍと605ｍの等高線が通過しており、南東から北西に１/60ｍの傾斜となっている。

本調査区は、県町遺跡の北西部に位置し、遺跡内でも標高の低い範囲に入る。扇状地を形成した薄川の河床は急勾配であり、しばしば大洪水を起こしており、遺跡内でも低い場所に位置する調査区はその影響を大きく受けたものと推定される。

遺跡の土層（第５図）

今回の３箇所の調査区（Ａ・Ｂ・Ｃ区）の土層柱状図を第５図に示した。Ａ・Ｂ区の基本土層は類似しており、土色はほぼ同じである。ただし、２層と４層が砂質を基調とするが、砂礫の混入の有無で若干の相違がある。Ａ区の遺構は３層を掘り込む土坑と４層を掘り込む住居址、５層を掘り込む溝（溝14）が確認できる。溝14は水が流れていた痕跡が認められ、洪水で洗い出されたレンズ状のシルト質の堆積がある。流れは緩やかであり、女鳥羽川の洪水と比較するとシルト質土の赤みが少なく、前述のように薄川の洪水によるものと判断される。弥生土器が一点出土しており、５層堆積後、弥生時代以降に洪水性の氾濫があり、その後に４層が堆積して安定した後、集落が形成されたものと推定される。

Ｃ区は極暗褐色粗粒砂の６層が確認できる。溝26は６層を削りこむ一過性の氾濫あるいは河川跡と考えられ、この時期薄川の活動が活発であったと推定される。その後、Ａ・Ｂ区と同様な５層が堆積する。弥生時代以前の堆積と考えられる。その上には、平安時代以降に多くの礫を含み大規模な薄川の洪水が起こった痕跡である４層（自然流路）の堆積が認められる。これによって５層とその上に堆積していた土層は洗い流されてしまった可能性が高い。３層はＡ・Ｂ区とは異なり黒褐色土の堆積となる。土質的にはにぶい黄褐色土の２層は、Ａ・Ｂ区の３層に対応するものと推定される。

2　歴史的環境

松本市県・中央・埋橋・里山辺にまたがる県町遺跡では縄文時代以前の遺構はほとんど確認されていない。その大きな原因として薄川の氾濫があげられる。弥生時代になると多くの遺構・遺物が出土している。中期を主とした在地系の土器のほか、後期後半の北陸系の土器も出土しており、遠隔地との交流も想定され、この地域を代表する弥生時代の遺跡として知られている。

古墳時代は中期を中心に住居址が検出されている。また、県塚１・２号古墳の存在などもあり、今後の調査に期待するところである。

奈良・平安時代は今次調査も含めて多くの住居址が検出されている。注目されるのは、緑釉陶器が多く出土している点である。また、今回と12次調査で出土した緑彩文陶、11次調査で出土した風字硯、皇朝十二銭のひとつ隆平永寶などの出土から有力な集落の存在が推定される。平安時代には筑摩郡に信濃国府が移転しているが、その所在地は不明である。県町遺跡の有力集落の存在は、信濃国府周辺域の視点で考えていくべきだろう。しかし、律令制の衰退とともに県町の集落の隆盛も終わり、中世以降については不明な点が多い。

第Ⅲ章　調査結果

第１節　調査の方法

調査地の設定（第２図）

調査対象地は東高―西低に緩やかに傾斜する地形で、以前の家屋は撤去され更地となっていた。対象地内３箇所を試掘調査した結果、平安時代の遺構・遺物が確認されたため、掘削が遺構検出面まで到達する２棟のマンションと立体駐車場部分について発掘調査をすることとした。

調査区は、南側の建物部分をＡ区、立体駐車場部分をＢ区、北側の建物部分をＣ区とした。なお、排土の処理が困難であったため、最初にＡ・Ｂ区を調査し、その後に両区を埋め戻してからＣ区の調査を行っている。最終的な調査面積はＡ区265.0㎡、Ｂ区96.8㎡、Ｃ区232.8㎡、合計594.6㎡となる。

調査方法

発掘調査は大型建設用機械バックホーで表土から遺構検出面直上まで掘り下げを行い、それ以降は人力による調査を行った結果、各調査区全域で竪穴住居址や土坑等が検出された。遺構番号は種類毎検出順に付している。

遺構検出後は各遺構の掘り下げを行った。土層の相違が判然とせず、遺構の重複や範囲を特定できない場合は随時トレンチを設定しながら掘り下げを行っている。この段階で、土層観察等の所見から遺構ではないと判断できたものついては欠番遺構とし、既に回収されていた遺物は検出面出土として荷札注記の振替を行った。

なお、調査期間等の制約があり、ピットについては竪穴住居・土坑等にかかる部分と土層観察用のトレンチにかかるものについて掘り下げを行っただけで、未掘の部分を多く残している。また、Ａ・Ｂ区の竪穴状遺構とＣ区の自然流路は壁崩落の危険性があり、安全管理上完掘することができなかった。

測量方法

平面測量は、当初Ａ区内南東に測量用基準点（NS０、EW０）を設定した後、磁北を基準に南北方向を設定し、基準点から３ｍ毎のグリッドをＡ～Ｃ区内に設定した。なお、調査終了後の測量により、補助基準杭（N 19、W 9）が国土地理院の旧平面直角座標第Ⅷ系でX＝25990.293、Y＝－46665.507（世界測地系X＝26341.818、Y＝－46946.914）であること、仮設定した南北方向が真北より西に７°31′12″振れていることを確認している。

標高については、Ｂ区南西に水準点（BM＝597.597ｍ）を設定した。

遺構図・出土遺物図の測量は簡易遣り方測量で行い、遺構配置図を１/100、土層・遺物出土・完掘図を１/20で作成した。

写真撮影

遺跡の景観・調査の進捗状況・遺構の状況・遺物の出土状態等は、35㎜一眼レフカメラによるカラー・白黒フィルムとデジタルカメラで適宜撮影を行った。

整理作業

遺構は調査終了後に現場で記録した写真・図面類の整理を行った。図面類は平面遺構・出土状況・土層図類の点検・照合を行い、報告書に掲載する遺構についてトレースを実施した。遺物は洗浄した後、遺構単位で接合・復元作業を行った。なお、土器は洗浄後に、注記を行い、土器・金属製品・石器類は台帳登録を行った。この後、遺存度の良好なもの及び特徴的な遺物については、実測・拓本・トレースを行った。

調査成果

発掘及び整理作業の結果、竪穴住居址21軒（奈良～平安時代）、竪穴状遺構６基（平安～中世）、土坑112基・ピット153基（古墳時代～現代）、溝状遺構25本（弥生～中世）の遺構と、弥生～中世にわたる遺物が確認された。その概要は巻末の発掘調査報告書抄録に掲載している。

第２節　遺構

１　竪穴住居址

遺構検出段階で土色の違いや遺物・炭化物の広がりに基づき、当初は23軒の竪穴住居址を認識した。住居址番号は１～13次調査の継続で付し、138～160住とした。その後、Ａ区138住は土層観察の結果から欠番とし、遺物集中箇所を土89に変更した。また、炭化物の広がりから住居と理解したＡ区143住も土層観察の結果、欠番とした。この結果、今回調査では21軒の竪穴住居址が検出されたことになる。

以下では、Ａ～Ｃ区の順に、各住居址の規模・平面形・カマド・ピット・遺物出土状況・時期について述べる。なお、遺物の出土については完形またはほぼ完形に近いもの、床面から出土したものを中心に記載した。各住居の土器群の組成等については次節の遺物の項で記している。

(1) Ａ区

第139号住居址（第７図）

Ａ区の東端に位置する。西辺は5.0ｍ、検出面からの壁高は20～25㎝を測り、方形を呈する。床面近くは硬化面をなす鉄分の集積が幾重にも重なって検出された。140・141・153・154住を切り、溝１・３、土69・83・88に切られる。

カマドは西壁中央に位置する張り出し石組カマドで、袖石は左右・奥壁の３辺が残存しており、左右は河原石、奥壁は角礫砂岩を使用している。特に奥壁は被熱による赤変が著しい。右袖は手前から１つ目と３つ目の底面が割れており、礫を据えるために打割による調整が行われたと推測される。住居外の西側にいくつかのピットが確認されたが、煙道と認められるピットは検出されなかった。

ピットは６基あるが、位置関係とピットの深さから柱穴と考えられるものはない。特殊なピットに炭化物がまとまって検出されたＰ$_3$がある。付近には焼土も検出されていることから、ここで火を使用していた可能性がある。

遺物は甲斐型杯(１)、須恵器杯、土師器杯、黒色土器Ａ杯、火打ち金具、磨石等が出土している。特にカマド内から出土した甕Ｂ(45～55)は破砕された状態でまとまって出土したことから、住居廃絶時に意図的に棄てられたものと考えられる。他、南西礫集中部の下からまとまって出土している。

本址の時期は６期と推定される。

第140号住居址（第８図）

Ａ区の北東端に位置する。検出された規模は3.2×1.9ｍ、壁高は30～35㎝を測る。住居西側の一部が確認できただけで北側～東側は調査区外に、南側は139住に切られており、平面形は不明である。141・154住を切り、139住と溝３・４、土88・91に切られる。

カマド・ピットは検出されなかったが、被熱痕のある礫が数点出土しており、カマド構築材であった可能性がある。

遺物は住居全体に散在しており、土師器、須恵器、黒色土器Ａの破片が少数出土している。

本址の時期は６～７期と推定される。

第141号住居址（第７図）

Ａ区の北東に位置する。長辺が4.4ｍ以上を測る隅丸方形を呈すると推測される。本址は検出面からの壁高が10㎝ほどと浅く、検出作業の段階で住居内覆土を大幅に削平してしまったとも考えられる。154住を切り、139・140住、土58・91、Ｐ54・83に切られる。

カマドは西壁に位置し、炭化物と焼土の集中が確認されたが、袖石等は検出されなかった。煙道と考えら

れる掘り込みも検出されたが、断定はできなかった。他に、中央付近で炭化物の集中が検出された。本址に帰属するピットは検出されなかった。遺物は鎖状の不明鉄製品が出土している。

本址の時期は５～６期と推定される。

第142号住居址（第８図）

Ａ区の南東端に位置する。本址は大半が調査区外にあり、西辺5.0ｍの隅丸方形を呈すると推測される。壁面で壁高は35～40cmを測る。溝７に切られる。

カマドの袖石は検出されなかったが、炭化物と焼土の集中が確認できたこと、西壁中央北寄りに張り出し部分が確認されたことから、西壁中央付近にカマドが構築されていたと推測される。本址に帰属するピットは検出されなかった。

出土遺物は少ないが、本址の時期は５～６期と推定される。

第144号住居址（第８図）

Ａ区の西端に位置する。西半分は調査区外にあり、東辺3.6ｍの隅丸方形を呈すると推測される。覆土は砂質土で、検出面からの壁高は35～40cmを測る。溝７を切る。床面は全体的に硬化しており、特に中央部は他所よりわずかに高く盛り上がっている。カマドは確認できず、調査区外の西壁にカマドが存在する可能性がある。また、本址東壁～南壁にかけて周溝が検出されている。

ピットは４基あり、位置関係から柱穴の可能性も考えられるが、いずれも深さ15cm程度で主柱穴と断定することは出来ない。遺物は角釘、砥石が出土している。

本址の時期は８期以降と推定される。

第153号住居址（第９図）

Ａ区の東端に位置する。南辺4.0ｍ以上の隅丸方形を呈すると推測される。検出面からの壁高は15～20cmを測る。139・142住、土66・69に切られる。

カマドは西壁中央に位置し、炭化物と焼土の集中が認められた。袖石は存在しないが、カマド構築材と考えられる礫が幾つか出土している。本址に帰属するピットは検出されなかった。

遺物はカマド内から土師器の甕破片がまとまって出土している。

本址の時期は６期を前後する時期と推定される。

第154号住居址（第10図）

Ａ区の東側に位置する。長辺4.5ｍ以上の方形または隅丸方形を呈すると推測される。検出面からの壁高は20～25cmを測る。139・140・141住、溝３、土83・96に切られる。

カマドは今回検出された住居で唯一、北壁中央に位置する。炭化物・焼土の遺存状態は良好で、最大20cmの炭化材が検出された。袖石は左右一つずつ残存し、黄褐色の粘土で固定されていた。

ピットは２基検出されたが、位置関係と深さから柱穴ではない。

本址の時期は６期を前後する時期と推定される。

(2) Ｂ区

第145号住居址（第８図）

Ｂ区の南端に位置する。規模は北辺が3.0ｍを測り、南側は不明であるが、不整方形または長方形を呈すると推定される。検出面からの壁高は16cmと浅い。竪４と溝11に切られる。

カマド・ピットは検出されていない。

遺物は黒色土器Ａ杯(93)が北辺中央からやや東寄りの壁際で逆位の状態で出土した。

本址の時期は５～８期と推定される。

第146号住居址（第８図）

Ｂ区の北西端に位置する。西側の大半が調査区外となるが、東辺3.4ｍの隅丸方形または長方形を呈すると推定される。調査区西壁の土層から壁高は40cmを測る。Ｐ87・88に切られる。

カマドは検出されていない。ピットは３基あり、位置関係と深さからP_1とP_3が主柱穴である可能性が高い。

遺物の出土は少ない。南壁際で軟質須恵器(95)が逆位の状態で出土した。また灰釉陶器皿(96)が出土している。

本址の時期は８期と推定される。

第147号住居址（第９図）

Ｂ区の中央北寄りに位置する。東側の大半が調査区外となるが、西辺約2.3ｍの方形または長方形を呈すると推定される。検出面からの壁高は24cmと浅い。撹乱に切られる。

カマド・ピットは検出されていない。

遺物は土師器の破片が少量覆土中にみられたのみで、本址の時期は不明である。

第148号住居址（第８図）

Ｂ区の北西部に位置する。住居の北東隅から南壁の一部までが確認できただけだが南北3.7ｍを測り、隅丸方形または長方形を呈すると推定される。検出面からの壁高は24cmと浅い。竪５、Ｐ96、撹乱に切られる。

カマドは検出されていない。ピットは３基ある。このうち位置関係からP_1とP_3が主柱穴の可能性はあるが、P_1は深さが12cm、P_3は10cmと浅く、断定することはできない。

遺物は、覆土および床面に散在している。北壁際で黒色土器Ａ杯Ａ(102)と土師器杯Ａ(100)が並んで正位の状態で出土している。

本址の時期は８～９期と推定される。

第149号住居址（第９図）

Ｂ区のほぼ中央に位置する。西側が調査区外にかかり、148住と撹乱に切られるため規模・平面形は不明である。検出面からの壁高は18cmと浅い。

カマド・ピットは検出されていない。

遺物は南壁際で砥石、土師器杯Ａ(111)が正位の状態で出土している。また北側148住の壁の近くで黒色土器Ａ杯Ａ(114)が正位の状態で出土している。

本址の時期は８～９期と推定される。

第150号住居址（第９図）

Ｂ区の中央に位置する。東・西側が調査区外となるため、南北4.2ｍを測るが、平面形は不明である。検出面からの壁高は25cmと浅い。151住、土80・82・86、Ｐ102、溝12、撹乱に切られる。

カマドは検出されていない。ピットは７基あり、このうち位置関係からP_4・P_6は主柱穴の可能性はあるが、P_6は深さが35cmあるのに対し、P_4は９cmと浅く、断定することはできない。

遺物は北東部で、黒色土器Ａ杯Ａ(116)が正位の状態で出土している。

本址の時期は７～８期と推定される。

第151号住居址（第９図）

Ｂ区の中央南寄りに位置する。遺構検出作業時に貼床を確認したもので、掘り込みの状況、住居の平面形等は確認できなかった。土79・80・82・86、Ｐ99～106・109～112・114・116～118、溝12に切られ、150住を切る。

カマドは検出されていない。なお、本址を切るとしたピットの中に、住居に伴うピットが混在している可

能性があるが、断定はできない。

遺物は土師器破片を中心に床面周辺から出土している。北東部に土師器杯ＡⅡ(124・125)が２点並んで逆位の状態で出土している。

本址の時期は14期を前後する時期と推定される。

第152号住居址（第９図）

Ｂ区の北西部に位置する。南・北側を146・148住に切られ、西側が調査区外となるため、東壁の一部が確認できただけで規模・平面形ともに不明である。検出面からの壁高は18cmを測る。前述の住居の他にＰ89・119に切られる。

カマド・ピットは検出されていない。

遺物は黒色土器Ａ、土師器、須恵器の破片が床面付近に散在している。黒色土器Ａ杯Ａ(131)が146住の壁近くで正位の状態で出土した。また黒色土器Ａの小型甕(136)が出土している。

本址の時期は７～８期と推定される。

(3) Ｃ区

第155号住居（第10図）

Ｃ区の北西端に位置する。北・西側は調査区外となり、南側は撹乱に切られているため、規模は不明、住居の南東部が確認できただけで、方形または長方形を呈すると推定される。検出面からの壁高は約30cmを測る。竪６、土116、Ｐ150・159・160に切られる。

東壁床面付近に炭化物・焼土が多く分布する部分があり、付近にカマドがあった可能性がある。ピットは３基検出された。

遺物は住居の南壁～東壁付近に覆土上層から下層までほぼ均一に出土している。中央付近の覆土中から他の住居址と比較して大型の礫・礫片が多数出土している。

本址の時期は８期と推定される。

第156号住居（第11図）

Ｃ区の北東に位置する。規模は4.0×3.4ｍで、隅丸方形を呈する。検出面からの壁高は24cmを測る。158・160住、土117を切り、土111～113に切られる。

カマドは西壁中央に位置し、５点の扁平円礫が袖石として直立または、ややカマド内に傾斜した状態で出土した。床面と推定される硬化面が中央部付近に観察された。

ピットは４基検出されたほか、カマド両脇に浅い凹みが各１箇所検出されている。このうち南側の凹みには被熱した礫・礫片が数点まとまった状態で出土し、この礫上から土師器杯(228)、黒色土器Ａ小椀(251)が逆位の状態で出土した。北側の浅い凹みは炭化物の混入が多く認められた。

遺物はカマドの両脇付近からまとまって出土し、南側から東側にかけて緑釉陶器破片(263)が覆土中から出土している。カマド付近と住居の北東部の覆土中から径30cm前後の礫・礫片が多数出土している。

本址の時期は10～11期と推定される。

第157号住居址（第10図）

Ｃ区の南端に位置する。自然流路、溝17・18・20、土102・121、Ｐ160・161に切られ、南側が調査区外にあり、平面形は不明である。炭化物の散らばり・遺物の出土等から切られ残った箇所を住居と判断した。長辺3.3ｍ・短辺2.4ｍ以上、検出面からの壁高は、16cmを測る。覆土は砂質で、硬化面は確認できなかった。

カマド・ピットは検出されなかったが、北東部に約0.8㎡の炭化物・焼土の集中が検出された。遺物は炭化物集中の南側から土師器、須恵器の破片が出土している。

本址の時期は７～８期と推定される。

第158号住居址（第10図）

Ｃ区の北側に位置する。156住、土119・120により両側が切られている。南北3.2ｍを測るが平面形は不明である。検出面からの壁高は20cmを測る。

中央付近の覆土中に炭化物の集中する部分が認められた。ピットは１基検出されている。

遺物は、中央付近にまとまって出土している。この北側で土師器杯(277・278)が正位で、中央付近では土師器小型甕(295)が出土している。

本址の時期は８～９期と推定される。

第159号住居址（第11図）

Ｃ区の北東端に位置する。当初、遺物は出土するものの土色・土質の識別が明確にできず、調査区の北・東壁にトレンチを設定し、土層観察の結果、住居址と認定した。住居の南西隅付近が確認できただけで、遺構の詳細は不明である。北側部分は試掘トレンチと撹乱により、本址の続きは確認できなかった。なお、調査区の北壁で焼土塊が分布する部分が確認されている。

遺物は西壁際で礫に混じって土師器杯・壺・甑、黒色土器Ａ杯(299)が出土している。

本址の時期は６～７期と推定される。

第160号住居址（第11図）

Ｃ区の東北に位置する。東側が調査区外となるが、西辺約3.1ｍの隅丸方形または長方形を呈すると推定される。検出面からの壁高は12cmを測る。156住、土111に切られる。

北壁の調査区端付近からカマドの袖石と推定される被熱した礫と炭化物が集中している部分があり、カマドであった可能性がある。ピットは１基検出されている。遺物は北壁側にまとまって出土している。

本址の時期は８～９期と推定される。

２　竪穴状遺構（第12図）

今次調査において竪穴住居とは異なる、規模の大きな掘り込み６基を竪穴状遺構として調査を行った。これらの大半は中世のやきもの破片が出土していることから、中世に帰属する遺構と推定されるものである。

遺構番号は、第14次調査を意味する14を最初に冠する４桁の数字で発見順に付すこととし、1401～1406までを付している。なお、本書中では竪穴状遺構の遺構番号を下１桁の数字で表記している。

第１号竪穴状遺構

Ａ区の中央北寄りに位置する。長径3.2ｍ×短径2.8ｍで不整楕円形を呈する。検出面からの深さは148cmを測る。竪２を切る。

覆土は４層ある。砂質土を基調とし、１・２層は焼土を含み、３・４層は礫が混入する。

掘り込み範囲の広さと深さからみると井戸を想起させるが、土90と土129のように底部や壁面に鉄分の沈着がみられず、水が溜まっていたことを示す痕跡がないため断定することはできない。

遺物はいずれも破片である。土師器杯、須恵器杯など平安時代のものもみられるが、中世の土師質土器と青磁鎬蓮弁文碗(13世紀初頭～中頃)が出土している。また、北宋銭の咸平元寶(初鋳998年)が出土している。

このように各時代の遺物が混在しているが、本址の時期は後述のように竪３の年代と竪２との切り合い関係から15世紀後半以降と推定される。

第２号竪穴状遺構

Ａ区の中央北寄りに位置する。竪１に南東部が切られるが、長径3.3ｍ×短径(1.7)ｍの不整楕円形を呈する。検出面からの深さは168cmを測る。竪３を切る。

覆土は10層ある。各層とも砂質土を基調とし、１～４層は焼土を含み、10層は礫が多量に混入する。坑の中央付近が水平に近い堆積がみられることから人為的な埋没と推定される。本址も掘り込み範囲の広さと深さから井戸の可能性があるが、竪１同様に水が溜まっていた痕跡がなく断定することはできない。

遺物はいずれも破片で、黒色土器Ａ杯のほか、土師器、須恵器が認められる。また、青磁蓮弁文碗(13世紀)が出土している。

各時代の遺物が混在しているが、本址の時期は後述の古瀬戸が出土した竪３を切ることから15世紀後半以降と推定される。

第３号竪穴状遺構

Ａ区の北西に位置する。竪２に南東部が切られるが、長径(2.5)ｍ×短径(1.2)ｍの不整楕円形を呈する。検出面からの深さは36cmを測る。

覆土は１層で、礫と焼土を多量に含んでいる。

本址は竪２に切られ全容は不明だが、掘り込みが浅く、竪１・２とは異なる。竪穴建物も想定できるが、平面形が不整でありピット等もなく判断することはできない。

遺物は、土師器、須恵器の破片のほか古瀬戸後期様式の天目茶碗が認められる。

本址の時期は古瀬戸後期様式後期（15世紀後半）と推定される。

第４号竪穴状遺構

Ｂ区の南端に位置する。東・南側が調査区外となるが、現存長(2.2)×(2.0)ｍの不整円形を呈する。検出面から72cm掘り下げたが、覆土が礫を多量に含む砂質土で崩落する危険があったため掘り下げを中止した。145住と溝11を切る。

本址は途中まで掘り下げた際の状況からみて、竪１・２同様に深くなることが予想される。壁面と底部の状況は不明だが、井戸の可能性がある。

遺物は、灰釉陶器、土師器甕Ｂ等の平安時代の土器片が出土しているほか、中世の非ロクロ成形土師質土器が認められる。

本址の時期は12世紀後半～14世紀中頃と推定される。

第５号竪穴状遺構

Ｂ区の北側に位置する。撹乱に切られているが、2.6×(2.5)ｍの隅丸方形を呈する。検出面からの深さは40cmを測る。148住と土90を切る。

覆土は２層ある。砂質土を基調とし、礫と焼土が含まれる。底面に浅いピットが２基検出されている点と、平面形、掘り込みの深さから、本址は竪穴建物の可能性がある。

遺物は多量の土器片が出土している。黒色土器Ａ杯・椀、土師器杯・椀、灰釉陶器椀・長頸壷など平安時代のものが目立つが、中世の東海系捏鉢Ⅵ類が認められる。

本址の時期は14世紀前半～中頃である。

第６号竪穴状遺構

Ｃ区北端に位置する。155住検出後数cm掘り下げた段階で覆土の差が認められ、155住を切る遺構として調査を行った。大半が調査区外にかかるが平面は不整形を呈し、規模は不明であるが東西3.4ｍ以上を測る。検出面からの深さは32cmを測る。覆土は単層で微量の礫が混入する。

遺物は破片が多数出土している。黒色土器Ａ杯、土師器杯・椀・甕Ｂ、灰釉陶器などがあり、中世の遺物は認められない。

本址の時期は７～８期と推定される。155住との時期差はほとんどないため、155住の埋没後短期間で掘り込まれたものと考えられる。

3　土坑・ピット（第13・14図　第１表）

本調査では穴が多数検出されている。このうち直径40cm以上を土坑、それ未満の穴をピットとして扱った。各遺構番号は第14次調査を意味する14を最初に冠する５桁の数字で発見順に付している。この結果、土坑番号は14001～14130、ピットは14001～14164を検出した。その後の調査で欠番とした遺構もあるので、最終的には、土坑は112基、ピットは153基を検出している。なお、本書中では土坑の遺構番号を下３桁の数字で表記している。土坑の平面形・規模・他遺構との新旧関係等については、一覧表を参照されたい。

本項ではこれらの中から特徴的な土坑・ピットについて図示し、主なものについて記述することにした。

(1) 井戸の可能性がある土坑

土90　Ｂ区の北側に位置する。竪５の下で検出された。南側を撹乱に切られるが、150×(100)cmの隅丸方形の土坑底面の中央部をさらに60×50cmの円形に掘り込まれており、その周囲に石を配している。検出面からの深さは100cmを測る。最下層には褐鉄分が集積しており、井戸の可能性が高い。遺物は土師器杯・甕、黒色土器Ａ椀、灰釉陶器椀などが出土している。

土129　Ｃ区の南端に位置する。不整な台形を呈し、検出面からの深さは169cmを測る。大量の礫が出土し、石組みがなされていた可能性が高い。壁面に鉄分が沈着しており井戸と推定される。完形の黒色土器Ａ皿B(399)、灰釉陶器壺(402)が出土しており、黒色土器には墨書「𠂤」がなされている。また礫下から石製帯飾りの丸鞆、底部から曲物底板と推定される木製品が出土している。

(2) 大型長方形土坑

土119　Ｃ区の中央北寄りに位置する。規模は227×168cmで検出面からの深さは48cmを測る。158住を切る。大量の礫と土師器杯・甕・甑、須恵器杯・甕・壺、灰釉陶器、黒色土器Ａ椀などが出土している。

(3) 隅丸方形・長方形土坑

土18　Ａ区の北西端に位置する。西側が調査区外になるが、短軸100cmの隅丸長方形の土坑と推定される。検出面からの深さは40cmを測る。土19・20を切る。白磁片(330)と棒状の鉄製品が出土している。

土89　Ａ区の東北端に位置する。当初は住居址として調査したが、調査区北壁の土層観察の結果、土坑と判断した。プランは推定であるが、検出面からの深さは25cmを測る。141住を切る。遺物は土師器甕・小形甕(351)、須恵器杯(350)、黒色土器Ａ杯(349)が出土し、特に土師器の甕破片が目立つ。

(4) 円形土坑

土32　Ａ区の南西寄りに位置する。規模は70×60cmで検出面からの深さは21cmを測る。埋土には炭化物、焼土の混入がみられるほか、釘と鉄滓が各１点出土している。

土37　Ａ区の中央部に位置する。規模は70×70cmで検出面からの深さは40cmを測る。溝５を切る。黒色土器Ａ椀・皿(332)、須恵器壺の破片などが出土している。

土64　Ａ区の南東に位置する。規模は70×60cmで、検出面からの深さは25cmを測る。底から壁は直に近い立ち上がりを呈する。底面付近から平石が出土している。遺物は黒色土器Ａ杯、須恵器杯が出土している。

土72　Ｂ区の北側に位置する。規模は80×(60)cmで、検出面からの深さは20cmを測る。土73に切られる。灰釉陶器、土師器杯Ａ、黒色土器Ａなどが出土している。墨書土器(339)が出土した。

土91　Ａ区の北東部に位置する。規模は30×30cmで検出面からの深さは10cmと浅い。土88に切られる。炭化物が全体的に散布していた。柱痕状の凹みが認められる。黒色土器Ａ皿(354)が完形で出土している。

土108　C区の中央部に位置する。規模は102×90cmで、検出面からの深さは31cmを測る。多量に拳大の礫が出土した。遺物は土師器杯A・甕、黒色土器A杯、須恵器杯・壺がある。

(5) 特殊な土坑・ピット

土21　A区の北西端に位置する、規模は60×(40)cmの楕円形を呈し、検出面からの深さは25cmを測る。土1に切られる。鉄滓が出土した。

土117　C区の北東部に位置する。規模は(162)×64cmの隅丸長方形を呈し、検出面からの深さは21cmを測る。156住に切られる。覆土中に多量の礫や土器が出土し、完形の須恵器杯A、黒色土器A椀・皿が出土している。

土130　C区の北端に位置する。規模は78×58cmの楕円形を呈し、検出面からの深さは8cmと浅い。柱痕状の凹みが認められる。

P27　今回の調査ではごく一部のピットが調査できたにすぎない。このうちP27は代表的な規模のもので36×36cmの円形を呈し検出面からの深さは22cmを測る。また、本址からは鞴の羽口1点と鉄滓2点(椀形滓1・木質付着の鉄滓1)が出土している。

4　溝状遺構・自然流路（第3・4・6図）

溝状遺構はA区11本、B区2本、C区12本、計25本、自然流路はC区で2本検出された。遺構番号は、第14次調査を意味する14を最初に冠する4桁の数字で発見順に付すこととし、1401～1426までを付している(溝9は欠番)。なお、本書中では溝状遺構の遺構番号を下2桁の数字で表記している。

溝状遺構は、A区とC区の南側に集中して検出されている。以下では、特筆すべき遺構について概略を述べる。

(1) 自然流路

C区中央部にて造成土除去後に検出され、規模が最大幅9.0m、最深1.0m以上を測る東高－西低の大型遺構である。覆土は薄川の氾濫により堆積した礫(90%以上)で主に構成されている。B区南部の撹乱が本址と同一である可能性は高いが、B区調査時には遺構としての認識がなかったために礫が検出された部分のほとんどが未調査である。

自然流路の掘り込み面が竪穴住居址などの遺構検出面相当層より高いことや出土遺物から、平安末期～中世までに起こった薄川の大規模氾濫によって形成されたものと考えられる。また、本址より上層からは中世以降の遺物は出土していない。

なお、C区東壁の土層観察により、上記の自然流路より古い時期の自然流路を観察している。

(2) 溝7（第6図）

A区の東端から西端までのびる東高－西低の溝状遺構で、東端で142住・溝8を切り、西端で144住に切られている。覆土は褐灰色土(上層)と鉄分を含んだ礫層(下層)で基本的に構成されており、本址の下層は砂礫層となる。緩やかな流水があったと考えられる。掘削・記録は部分的調査(調査区西端から3m間とT1・2)に留まっている。

(3) A区北西部とC区南側の溝状遺構群（溝3・4・13・14・15～26）

C区の自然流路の南側からA区の北西部にかけて、まとまって溝状遺構が検出されている。自然流路や

それ以前の氾濫によって形成されたと考えられるものである。これらの溝は覆土中に葉理や鉄分の集積層が確認できる。特にトレンチ１南部西壁の土層(写真図版７)において、灰色土・砂・砂利・礫の堆積の繰り返しが観察でき、北から南への流水が認められた。弥生～平安時代までに幾度となく起こった薄川の氾濫を裏付ける痕跡である。また、各遺構から出土している遺物は平安時代のやきものが多い。

溝状遺構群と調査区壁、竪穴住居址等の土層観察の結果から、溝状遺構を伴う河川の氾濫と集落の関係は以下のように推測される。

弥生～古墳時代は溝14・23・24・26を形成した薄川の氾濫が頻繁に起こっていた時期である。奈良～平安時代に入り地盤が安定したころ、141・153・154住が築かれ、大幅な年代差はなく139住が築かれた。その後、溝19～22が形成される氾濫が起こり、地盤安定後140住、土129が築かれる。140住廃絶及び土坑が廃棄された後に溝25が形成され、次いで自然流路、溝13・17・18を形成する大規模な氾濫が起こったと考えられる。以上のように、県町遺跡周辺は非常に氾濫の影響を受けやすい土地であり、居住域としては利便的ではなかった筈である。しかし、氾濫に遭うたびに住居を作り直し、生活していた痕跡が窺える。この土地に固執していたなんらかの理由が考えられるが、本次調査ではそれを明らかにすることはできなかった。

なお、特徴的な３基の溝状遺構については個別に記載する。

溝14　Ａ区の東端、154住下側に位置する。Ａ区東壁の土層観察中に確認できたもので、平面形は不明である。覆土は主に砂で構成されている。他遺構よりも１層下で検出されている。調査期間の都合により、全容を明らかにすることはできなかった。基本土層の第５層を削り込んでおり、弥生～古墳時代にかけて起った氾濫により形成されたものと推定される。弥生時代中期の土器(411)が１点出土している。

溝17　Ｃ区南端に位置する。浅く礫で構成された溝15除去後に検出された。溝19・20を切る。140住を切るＡ区溝13と同一の溝と考えられる。刀子が１点出土している。

溝25　Ｃ区の南西に位置する。検出規模は長3.0ｍ・幅1.2ｍ・深さ0.6ｍで楕円形状を呈する。覆土は礫含みのシルト質土の単層である。土129を切り、自然流路に切られる。上部が自然流路に削られているため、溝の最大長・幅・深さは不明である。上部から下部に至るまで散在的に礫が多数検出され、黒色土器Ａ杯(415)、黒色土器Ａ皿Ｂ(418)、須恵器杯(419・420)などが出土している。出土遺物は土129とほぼ同時期と考えられる。土坑が完全に埋まった後に覆土を削るように形成されていることや、遺物の出土状況から氾濫によって形成されたものと考えられる。埋没時期は８期～自然流路に伴う大規模氾濫までの期間と推測される。

第1表　土坑一覧表

土坑番号	図	区	平面形	規模（cm）			新旧関係		備考・出土遺物等
				長軸	短軸	深さ	本址より旧	本址より新	
1		A	方	(150)	(60)	50	土21		
4		A	円	60	55	40			
5		A	円	55	50	45			
6		A	円	70	60	45			土師器杯、須恵器甕
7		A	円	60	55	17			
8		A	楕円	75	65	15			土師器甕、須恵器杯、黒色土器A杯
9		A	不明	190	(20)	60	139住		土師器杯、黒色土器杯(古墳時代)
10		A	円	70	60	10	土11		
11		A	楕円	110	(50)	35		土10	土師器甕、黒色土器A杯
12		A	方	85	85	10		溝7	黒色土器A杯
14		A	円	100	85	8	土92		土師器杯、鉄滓
15		A	楕円	130	75	45	土93	土92	土師器杯、須恵器杯・甕・鉢
16		A	楕円	100	70	10			
17		A	円	48	42	15			黒色土器A杯
18	○	A	隅丸方	(120)	100	40	土19・20		白磁碗、鉄製品(棒状)
19		A	楕円	60	40	10		土18	土師器杯、黒色土器A杯
20		A	不明	(100)	(20)	25		土18	須恵器杯、黒色土器A杯
21	○	A	楕円	60	(40)	25		土1	鉄滓
22		A	円	120	100	20			土師器杯
23		A	方	75	50	45	土24		
24		A	方	70	(45)	(15)		土23	須恵器杯
25		A	不明	55	(50)	15		溝8	
26		A	不明	(50)	50	16			土師器甕
29		A	不明	60	(20)	45	土31		
30		A	楕円	84	62	5	土31		土師器皿
31		A	楕円	(70)	(40)	(10)		土29・30	土師器甕
32	○	A	円	70	60	21			土師器甕、須恵器杯、黒色土器A杯、釘、鉄滓
33		A	不明	75	(30)	45			須恵器杯
34		A	円	60	55	27			
35		A	方	140	110	35	溝7		須恵器甕
36		A	楕円	70	40	10			
37	○	A	円	70	70	40	溝5		黒色土器A椀・皿、須恵器壷、鉄滓
38		A	−	−	−	−	溝7		未掘
41		A	円	130	110	20			
42		A	円	62	50	8			
43		A	不明	(50)	(22)	15		竪1	
44		A	方	120	115	20			
45		A	円	60	50	15			
46		A	円	64	62	26			
47		A	楕円	(55)	40	5			
48		A	長方	100	65	20	土49		土師器杯・盤、黒色土器A杯・椀、灰釉陶器椀
49		A	不明	150	(95)	55		土48	土師器杯・甕、黒色土器A杯・皿、須恵器杯
50		A	円	52	48	20			
51		A	不明	48	(36)	55			
52		A	不明	50	(30)	35			
53		A	円	46	44	20			
54		A	円	50	50	15			
55		A	楕円	66	48	10			
56		A	円	70	60	15			
57		A	円	58	55	40			
58		A	円	65	58	20			土師器甕
59		A	不整円	60	50	10			
60		A	円	60	50	10			
61		A	不整円	85	45	−			未掘
62		A	円	50	40	20	土63		
63		A	円	40	(30)	20		土62	
64	○	A	円	70	60	25			須恵器杯、黒色土器A杯
66		A	不明	84	58	30			
69		A	円	68	62	20			「×」刻線が内面にある黒色土器A杯
70		B	不明	80	60	15			
72	○	B	円	80	(60)	20		土73	土師器杯A、黒色土器A、灰釉陶器
73		B	楕円	148	60	20	土72・74		土師器甕、灰釉陶器皿、かわらけ
74		B	不明	100	(32)	15		土73	黒曜石(剥片)
75		B	円	90	80	10			土師器甕
76		B	楕円	55	45	20			須恵器甕
78		B	不明	(35)	(25)	20		150住	
79		B	不明	90	(60)	25	150住		土師器杯・甕、黒色土器A杯
80		B	円	40	(40)	20	151住、土86		土師器杯・甕、黒色土器A杯
82		B	円	60	50	20	150・151住、溝12		

土坑番号	図	区	平面形	規模（cm）			新旧関係		備考・出土遺物等
				長軸	短軸	深さ	本址より旧	本址より新	
83		A	不明	250	(50)	75			
84		A	不整円	160	(88)	22		142住	須恵器高杯
85		A	不明	−	70	50			調査区南壁土層
86		B	不明	(120)	(40)	15	150住	土80	土師器杯・甕、須恵器杯
88	○	A	楕円	−	105	30	土91		土師器甕、黒色土器A椀・皿
89	○	A	隅丸方	−	70	25	141住		黒色土器A杯A、須恵器杯A、土師器甕片多数
90	○	B	方	150	100	100		竪5	土師器杯・甕、黒色土器A椀、灰釉陶器椀
91	○	A	円	30	30	10		土88	全体的に炭が散らばる　黒色土器A皿(完形)
92		A	楕円	80	50	20	土15・93	土14	土師器杯
93		A	不明	(75)	(45)	10		土15・92	
96		A	円	75	60	10			半割のみ　黒色土器A杯
97		C	楕円	104	86	8		土98	
98		C	円	58	50	25	土97		
99		C	円	62	58	13	土100・101		
100		C	楕円	(136)	26	8	土101	土99	
101		C	不明	(132)	(52)	9		土99・100	
102		C	方	96	92	15	157住、土121	溝16	
103		C	楕円	62	34	15			
104		C	不明	(76)	(27)	10		自然流路	
105		C	不明	(208)	(120)	19		自然流路	
106		C	楕円	(150)	20	5		自然流路	
107		C	不明	264	114	8			土師器杯、黒色土器A杯、灰釉陶器杯
108	○	C	円	102	90	31			多量の礫出土　土師器杯A
109		C	不明	(57)	(28)	13	160住	土110・118	
110		C	不明	−	−	−	土109		
111		C	不明	125	108	38	156・160住		
112		C	楕円	128	88	10	156住		
113		C	楕円	60	48	25	156住		
114		C	楕円	66	34	22			
116		C	不明	76	(53)	28	155住		
117	○	C	隅丸長方	(162)	64	21		156住	土師器杯A、黒色土器A椀・皿、緑釉陶器
118		C	不明	−	−	−	土109		現代のゴミ穴　ビニール・ガラス瓶
119	○	C	方	227	168	48	158住		多量の礫出土　灰釉陶器椀、土師器杯A
120		C	方	(240)	200	34	158住		ビニール、2又ソケット
121		C	不明	(232)	(104)	14	157住	土102、溝16	須恵器杯・甕、黒色土器A杯
122		C	円	58	(52)	18	157住、溝19・20	溝17	土師器甕
124		C	円	72	(44)	15		溝17、自然流路	土師器杯・甕、須恵器蓋
125		C	円	50	46	16	溝25		黒色土器A杯
126		C	不明	70	55	10			
127		C	楕円	77	43	13			土師器杯
128		C	円	53	47	17	溝24		
129	○	C	台形	149	127	169		溝25	黒色土器A皿、灰釉陶器、石製丸鞆、つき臼、曲物
130	○	C	楕円	78	58	8			

第３節　遺物

１　土器・陶磁器（第15～25図、第２表）

(1) 種別・器種・器形

弥生時代の弥生土器から中世の土器・陶磁器までが出土している。主体を占めるのは平安時代の土器・陶器であり、その他は客体的な存在にすぎない。弥生土器は高杯形土器（以下「形土器」は略す）の脚部(411)が出土しているが、おそらく遺構に伴わないもので、同遺跡の他地点には該期の集落址が発見されているので、そこからの搬入品ないし流れ込みであろう。古墳時代の土師器は、高杯、甕などの破片が認められ(468・472)、平安期の遺構に破壊された小規模な該期遺構に伴っていた可能性がある。土師質土器、青磁、白磁、古瀬戸、東海系陶器等の存在は中世の遺構があったことに起因する。以下では、主体を占める平安時代の土器・陶器を詳述する。

ア　種別

土師器、黒色土器Ａ（内黒土師器）、黒色土器Ｂ、須恵器、軟質須恵器、灰釉陶器及び緑釉陶器がある。緑釉陶器の中には緑釉緑彩紋陶が含まれている。

イ　器種・器形

（ア）土師器（黒色土器Ａ･Ｂを含む）の器種・器形

杯　杯Ａと杯Ｃがあり、杯Ａが主体となる。杯Ａは内面にミガキを有し黒色処理される黒色土器Ａと、内面にミガキを持たない土師器が混じっている。二次焼成等によって黒色処理が失われている物もあるが、これらはミガキを有するので判別できる。平底で底面に回転糸切痕を残す。在地の代表的な器種である。杯Ｃはいわゆる「甲斐型杯」と呼ばれるもので、わずかに伴う程度の量が存在する。橙色に仕上がる独特の焼成で、内面にミガキが施され、外面下半にケズリが行われている。杯Ａは口径の違いから時期分けが可能で、特に、平安時代後期になると口径が縮み器高が低くなって皿状の形態となる。これは「杯ＡⅡ」の表記で区別した。

椀　杯Ａに丈の低い高台を付した形状の椀と、半球状の体部に高台が付される小椀の２種がみられる。黒色土器Ａは内面にミガキを有する物がほとんどである。土師器はロクロナデのみで調整されている。

皿　茶托状に大きく広がる体部に、丈の低い高台が付された皿Ｂがほとんどで、わずかに底面に回転糸切痕を持った皿Ａがみられる。黒色土器Ａの皿Ｂはいずれも内面にミガキを有す。底面にも回転ケズリがなされている物が散見され、全体的に丁寧に作られている傾向が観取できる。１点のみ出土した黒色土器Ｂは内外面、高台内までミガキが施されている。

鉢　口径が18㎝を超える杯Ａの大形のもので、他の調査例からは片口のつく個体も報告されているが、今回の事例の中にはみられない。内面にミガキを有する黒色土器Ａがほとんどで、わずかに土師器が混じる。

盤　土師器にのみ見られる。大形の体部に透かしの入る高い脚部が付される盤Ａと、椀の体部が浅くなり、高台が丈高くなった形態を示す盤Ｂの２種がある。

甕　甕Ｂと甕Ｃがある。甕Ｂは平底・長胴形を呈し、胴部外面に縦のハケメ、口縁部内面にカキメ、胴部内面下半に縦の凹状調整がなされている。甕Ｃはいわゆる「武蔵型甕」と呼ばれるもので、薄手の器体に口縁部ヨコナデ、胴部外面ケズリが行われている。量的には甕Ｂが圧倒的に多く、甕Ｃは客体的な存在である。甕Ｂが在地を代表する甕と言ってよい。珍しいものとして、甕Ｂの内面にミガキ・黒色処理を行った口縁頸部破片がある(274・389)。長胴形をとらない形態になる可能性を指摘しておきたい。

鍋　甕が擂鉢形に外開する形態の極めて珍しい器種である。内外面にカキメを持つもの(321)と外面に縦のハケメを持つもの(369)がある。

小型甕　胴部外面にカキメを有する典型的な小型甕Ｄと、ロクロナデ調整痕のみのものがある。いずれも底面には回転糸切痕を残す。内面にミガキと黒色処理を有する黒色土器Ａの個体がわずかに認められる。

羽釜　少量であるが羽釜の破片が散見される。ロクロナデ痕を持たず、ナデによって器面調整が行われている。図化提示できたものは無い。

甑　微量であるが甑の破片がある。外面は甕Ｂによく似た縦のハケメが施されている。胴上部に凸帯が回っているのが判る個体がある(62)。

円筒形土器　円筒形、または角の丸い方柱形を呈す土器であるが、今回の調査では破片が少量のみ得られている。口縁部はヨコナデかハケメ、胴部外面は縦のハケメ、胴下端部にはケズリがあり、特徴的な点として胴部の内面に粘土紐巻上げ痕を顕著に残す。

（イ）須恵器の器種・器形

杯　断面が逆台形で高台の無い杯Ａと、箱形で低い高台が付される杯Ｂがある。杯Ａは体部にロクロナデの痕跡を顕著に残し、底面には回転糸切痕がみられる。杯Ｂの底面は回転ケズリがなされるものと、回転糸切痕を残すものの二者がある。今回の調査では杯Ａの方が量的に多い。

蓋　杯Ｂと組み合わされて使われたと考えられている蓋Ｂが出土している。破片ばかりで全形を知りうるものは無い。端部が屈曲し、宝珠つまみが付される形態をとるものと推定している。１点のみ環状つまみを有する椀蓋が出土している(194)。

高杯　脚部破片があるのみで、全形を知りうるものは無い

鉢　体部が内湾気味に開く、深めの形態を呈す。少量の出土のみである。

長頸壺　口縁頸部、胴部及び底部の破片があるが、全形を知りうるものは無い。底部破片のみのものは短頸壺と区別がつかないので「壺」とのみ表記した。胴部の外開から平瓶と推定したものがある(386)。

短頸壺　口縁部の破片をわずかに認めるのみである。

四耳壺(甕Ｄ)　特徴的な肩部破片がいくつか出土しており、その存在が判明した。もちろん、全形を知りうる物は無い。

甕　口径30cmを超えるような大形の甕の破片が多数あるが、復元・図示できたものは無い。

（ウ）軟質須恵器の器種・器形

杯　須恵器杯Ａに似た形態をとるが、あまりロクロナデ痕が顕著ではなく、内面見込み部と体部を分ける圏線の稜も不明瞭なものである。一応、還元炎焼成されているが、須恵器に比べて胎土が粗く、軟質である。杯Ａしか器形がない。

（エ）灰釉陶器

椀　内湾しながら大きく開く体部を持ち、底面には高台が付されている。底面は回転ケズリがなされるものが多い。施釉には刷毛塗りと漬け掛けがみられる。産地は東濃地域と推定される。

皿　椀よりも器高が低いもので、底面には三日月高台が付されている。底面は回転ケズリがなされるものが多い。施釉は刷毛塗りが主体である。産地は椀と同様であろう。

長頸壺　口縁部と胴部、底部の破片が出土している。口縁端部には折り返しの面を持ち、底面には高台が付されている。全形を知りうるものは無い。

平瓶　小形の口縁部破片とみられるものが１点出土している(449)。

小瓶　胴部、底部破片が出土している。底面には高台が付されず、回転糸切痕がそのまま残る。

ミニチュア　杯を模したと考えられるものが１点出土している。高台を持たず、底面に回転ケズリがある(92)。

（オ）緑釉陶器

椀　総数で11点の破片が出土しており、６点を図示している。器形が判るものでは、内湾しながら大きく開く体部片と底部片が得られている。底面には小さな高台が付されている。輪花を持つと推定される個体がある。胎土は硬質・軟質のものがみられ、釉調は草色から緑色を呈している。見込部に二重の圏線を持つものがある。高台の周辺部のみや破片での残存個体のなかには皿になるものもあろう。緑彩紋陶は、内面の口縁

端部から下に向かって濃緑の釉で花弁の下半分が描かれている。

(2) 土器群

遺構の重複が著しく、一括資料としての評価が芳しくないものもあるが、時期的に良好なまとまりを示すものもあり、土器群として捉えて全体の傾向について触れたい。

(ア) 住居址出土の土器群

第139号住居址出土土器群　総量で13,427ｇという多量の土器が出土し、65個体を図示できた。食膳具は土師器が少なく、灰釉陶器は皆無、主に黒色土器Ａと須恵器で構成されている。器形は杯Ａが主体で、わずかに須恵器の杯Ｂが混じっている。椀・皿はみられない。１個体のみだが土師器杯Ｃが出土している。食膳具の組成は土師器4.8%、黒色土器Ａ54.7%、須恵器40.5%という比率になる。煮炊具の出土量も多い。土師器の甕Ｂと甕Ｃが見られるが、量的には甕Ｂが圧倒的である。これらの組成から、平安時代前期、６期に遡る良好な土器群として捉えることができると考える。

第140号住居址出土土器群　総量で1,548ｇの土器が出土し、８点を図示できた。図示個体は食膳具が多く、種別は黒色土器Ａと須恵器に限られており、器形は杯Ａのみである。図示個体が少ないので限定的な判断になるが、平安時代前期、６期から７期の土器群として考えたい。

第141号住居址出土土器群　総量で1,732ｇの土器が出土し、14点を図示できた。食膳具は黒色土器Ａと須恵器で構成されるが、須恵器の方が多い。杯Ａと杯Ｂがみられるが、須恵器の蓋Ｂが伴っている。土師器杯Ｃが１点混じっている。甕Ｂは口縁頸部と底部のみであるが典型的な調整のものである。須恵器の比率の多さから判断して、平安時代前期、５期かそれに後続する時期の所産の土器群と考える。

第146号住居址出土土器群　総量で1,430ｇの土器・陶器が出土したが、５点を図示できたのみである。食膳具は黒色土器Ａ、軟質須恵器、灰釉陶器があり、須恵器は認められない。灰釉陶器は皿、他は杯Ａで、灰釉陶器の皿は体部下半に回転ケズリか行われている。灰釉陶器と軟質須恵器の共伴から、平安時代中期、８期頃に比定される土器群と推定する。

第148号住居址出土土器群　総量で2,726ｇの土器・陶器が出土し、12点を図示できた。食膳具に土師器、黒色土器、灰釉陶器、緑釉陶器があり、須恵器は認められない。土師器は杯、黒色土器Ａは杯と椀、灰釉陶器は椀である。緑釉陶器は輪花皿の口縁・体部(107)と椀または皿の高台部(108)が出土している。107は草色釉で外面の口縁直下から回転ケズリが行われており、胎土は土師器質である。108は須恵器質の胎土で釉は緑色、高台から底面まで施釉が施されている。食膳具の組成からみて、平安時代中期、８期から９期に相当する土器群と考える。

第149号住居址出土土器群　総量で974ｇの土器が出土したが、４点を図示できたのみである。土師器に杯と椀、黒色土器に杯があり、須恵器は認められない。図示個体が少ないので限定的な判断になるが、土師器の杯の口径からみて、平安時代中期、８期から９期頃に相当する土器群と考える。

第150号住居址出土土器群　総量で2,428ｇの土器が出土し、６点を図示できた。黒色土器Ａの杯と椀ばかりである。図示個体が少ないので限定的な判断になるが、平安時代中期、７期から８期頃に相当する土器群と考える。

第151号住居址出土土器群　総量で642ｇの土器が出土し、８点を図示できた。土師器と灰釉陶器で構成されているが、土師器の杯は型式変化を遂げて小形化した杯ＡⅡであり、灰釉陶器の椀も底面に回転糸切痕を残している。平安時代後期、14期前後に比定される土器群であろう。

第152号住居址出土土器群　総量で1,158ｇの土器が出土し、８点を図示できた。黒色土器Ａに杯と椀、軟質須恵器に杯がある。小型甕Ｄ(136)は外面はロクロナデだが、内面にはミガキと黒色処理が行われる黒色土器Ａで珍しい。黒色土器と軟質須恵器の共伴から、７期から８期にかけての所産と位置づけられる土器群と考えられる。

第153号住居址出土土器群　総量で2,166ｇの土器が出土し、16点を図示できた。食膳具は黒色土器Ａと須

恵器で構成されるが、須恵器の方が多い。器種は杯Aのみがみられる。土師器杯Cが1点伴っている。煮炊具は小型甕Dと器形不明の甕がある。須恵器の比率の多さから判断して、平安時代前期、6期を前後する時期の所産の土器群と考える。

第154号住居址出土土器群　総量で1,870gの土器が出土し、7点を図示できた。食膳具は黒色土器Aと須恵器で、器形は杯Aと杯Bがみられる。小型甕の159はロクロナデのみでカキメを持たず厚手で特殊な形態をとる。甕Bは典型的なものである。図示個体が少ないので限定的な判断になるが、平安時代前期、6期を前後する時期の土器群として考えたい。

第155号住居址出土土器群　総量で16,508gという多量の土器が出土し、65個体を図示できた。食膳具は土師器、黒色土器A、軟質須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器があり、須恵器はわずかに混入するのみである。器形は土師器に杯・椀・鉢・盤A、黒色土器Aに杯・椀、軟質須恵器に杯、灰釉陶器に椀・皿、緑釉陶器に椀がある。食膳具の組成は土師器24.1%、黒色土器A 33.3%、須恵器3.7%、軟質須恵器7.4%、灰釉陶器27.8%、緑釉陶器3.7%という比率になる。灰釉陶器は体部下半から底面にかけて回転ケズリがなされている。緑釉陶器の215は削り出し高台で、底面も施釉、篦描の直線状の刻印が入る。硬質な胎土で釉調はオリーブ色。214は緑彩紋陶で須恵器質の胎土に淡緑の地釉。濃緑釉を用いて花弁が描かれている。須恵器の蓋(194)は器面の色調が鈍い赤褐色で環状つまみが付される非常に珍しいものである。黒色土器175の体部外面に「平」、須恵器杯193の体部外面には則天文字状の墨書がある。煮炊具では、小型甕D(219)が外面はロクロナデだが内面にはミガキと黒色処理が行われる黒色土器Aで珍しい。貯蔵具の四耳壺は、耳部に孔を有さない形態のものである。本土器群は食膳具に土師器、黒色土器A、軟質須恵器、灰釉陶器が並存し、平安時代中期、8期の様相を示す非常に良好な資料と言えよう。

第156号住居址出土土器群　総量で6,536gという多量の土器が出土し、44個体を図示できた。食膳具に土師器、黒色土器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器があり、その大半を土師器が占めている。須恵器は混入品である可能性が高い。器形は土師器に杯・椀・盤B、黒色土器に椀・小椀、灰釉陶器に椀・皿、緑釉陶器に椀がある。灰釉陶器には底面に回転糸切痕を残すものがある。緑釉陶器の263は緑色の釉調に須恵器質の胎土を持ち、わずかに残る見込部に二重の圏線が巡っているのが認められる。264は須恵器質の胎土に草色の釉。他に1片、図化不能な小片があり胎土は須恵器質である。煮炊具の甕269は須恵器としたが、粗い粒子を多量に含む暗灰色の異質な胎土を持ち、薄く硬く焼き締められている非常に珍しい土器で、形態も在地では見ないものであり、搬入品の可能性を指摘しておきたい。土器群の時期は、土師器の杯の口径が10～11cm台になっており、盤Bや黒色土器Aの小椀を伴っている点などから、平安時代中期、10期から11期を充てたい。非常にまとまった好資料と言えよう。

第157号住居址出土土器群　総量で1,068gの土器が出土したが、6点を図示できたにすぎない。黒色土器Aの杯と椀があり、須恵器の食膳具はみられない。煮炊具の甕B(274)は外面調整は縦ハケメの典型的な形態だが、内面に横方向のミガキと黒色処理が施され、黒色土器Aの範疇に分類されてしまう珍しいものである。平安時代前期、7期から8期に位置づけられると考える。

第158号住居址出土土器群　総量で3,262gの土器が出土し、21点を図示できた。食膳具に土師器、黒色土器A、軟質須恵器があるが、軟質須恵器は1点に限られる。器形は土師器に杯・椀、黒色土器Aに椀・鉢、軟質須恵器は杯である。この組成からみると、平安時代前期から中期、8期から9期に相当すると考えるが、灰釉陶器が非図化資料も含めて1点もなかったことが不思議である。

第159号住居址出土土器群　総量で752gの土器が出土し、8点を図示できた。食膳具は黒色土器Aの杯と須恵器の杯Aのみである。煮炊具の甕Bは典型的な形態を呈す。本時群は平安時代前期、7期ないしはやや古い資料と考える。

第160号住居址出土土器群　総量で2,748gの土器が出土し、17点を図示できた。食膳具は土師器杯・盤A、黒色土器杯・椀、灰釉陶器椀・皿で構成される。須恵器の杯B底部が1点あるが混入であろう。煮炊具の

鍋は擂鉢形に開く体部の内外面にカキメが施される珍しいものである。灰釉陶器皿317の底面には「木立」の墨書がある。平安時代中期、８期から９期に位置づけられる土器群と考えるが、図示した灰釉陶器椀316の底面に回転糸切痕がある点に疑念が残る。

その他の住居址出土土器群　第142・144・145・147号住居址では、それぞれ354ｇ・70ｇ・238ｇ・18ｇの土器が出土したに過ぎず、第142号住居址で４点、第144・145号住居址で各１点の個体が図示できたのみである。第147号住居址では図示できるものが無かった。敢えて時期を想定すると、第142号住居址が５期から６期、第144号住居址が８期以降、第145号住居址が５期から８期、第147号住居址は不明である。

（イ）竪穴状遺構出土の土器群

第１号から304ｇ、第２号234ｇ、第３号36ｇ、第４号210ｇ、第５号1,770ｇ、第６号430ｇの土器・陶磁器が出土している。第１号から第５号までは平安時代の土器片群に混じって、中世の土師質土器と青磁片、古瀬戸片、東海系陶器片が出土している。第６号には中世の遺物は認められない。図示できた個体は第１号１点、第２号１点、第５号２点、第６号１点にすぎず、図示した遺物がすべて遺構の年代を示しているとは言えない。第１号から第５号が中世、第６号が平安時代前期、７期から８期に属すると考える。

（ウ）土坑出土の土器群

土坑は112基のうち、土器を出土したものが71基あり、ほとんどは100ｇ以下だが、100～500ｇが16基、500～1,000ｇが６基、1,000ｇ以上が３基あった。土坑出土の土器総量は17,312ｇになる。以下では図示できた個体が一定量ある土坑出土土器群について触れる。

土坑９出土土器群　総量で336ｇの土器が出土し、１点を図示できた。須恵器の蓋Ｂである。この他、図示できなかったが、非ロクロ成形の溝10の405に似た形態で内黒の土師器杯片がある。奈良時代中期、３期以前に遡ることができる資料と考える。

土坑15出土土器群　総量で196ｇの土器・陶器が出土し、東海系陶器の捏鉢の口縁部破片１点を図示した。中世13～14世紀代の遺物と考える。

土坑37出土土器群　総量で540ｇの土器が出土し、４点を図示できた。黒色土器Ａの皿と須恵器の壺類が図示できている。７期ないし８期の土器群と考える。

土坑72出土土器群　総量で506ｇの土器が出土し、５点を図示できた。黒色土器Ａの椀、灰釉陶器の皿、土師器の小型甕と円筒形土器が図示できている。灰釉陶器皿339の底面には「開」と推測される墨書がある。８期から９期頃の土器群と考える。

土坑89出土土器群　総量で614ｇの土器が出土し、４点を図示できた。黒色土器Ａの杯、須恵器の杯Ａ、土師器の小型甕Ｄと甕Ｂがある。６期から７期に相当する土器群と考える。

土坑90出土土器群　総量で268ｇの土器が出土し、土師器杯・甕、黒色土器Ａ椀、灰釉陶器椀・皿などの破片がみられるが、灰釉陶器の皿を１点図示できたのみである。調査所見から井戸址の可能性が考えられているが、８期から10期くらいの様相と考える。

土坑117出土土器群　総量で2,224ｇという多量の土器が出土し、10点を図示できた。調査所見の出土状態からみても、非常にまとまった良好な土器群である。黒色土器Ａが大半を占め、杯・椀・皿・鉢がある。須恵器は酸化炎焼成の杯Ａ、珍しいものとして土師器の鍋の底部破片がある。黒色土器の椀・皿、須恵器杯Ａに優品がある。図示できなかったが、須恵器の大甕の口縁部大破片がある。７期に属する土器群と捉えたい。

土坑119出土土器群　総量で3,466ｇという多量の土器が出土し、18点を図示できた。調査所見の出土状態からみても、非常にまとまった良好な土器群である。食膳具に土師器杯・椀、黒色土器Ａ皿、須恵器杯Ｂ、灰釉陶器椀・皿があり、灰釉陶器が大半を占める。他に土師器の小型甕、甕Ｂ、円筒形土器などもあり、８期かやや後続する時期の土器群と考える。須恵器杯・壺類は混入の可能性がある。

土坑129出土土器群　総量で3,510ｇのという多量の土器が出土し、11点を図示できた。調査所見から井戸

址の可能性のある土坑で、出土土器群もまとまった良好な資料である。食膳具に土師器椀、黒色土器A杯・椀・皿、黒色土器B皿、須恵器杯Aがあり、黒色土器が大半を占めている。各遺物も残存率の良い優品が多い。他に灰釉陶器の壺底部の完品があり、焼成が赤っぽく仕上がっている部分から推測して、東濃産ではない可能性を指摘したい。黒色土器A皿399には底面に墨書がある。土器群を全体的にみると7期から8期に属すると考えたいが、土師器椀の存在は初期的なものが伴ったものと理解したい。

（エ）その他の土器群

溝10出土土器群　1点46gの土器が出土したのみであるが、非ロクロ成形の杯で奈良時代中期、3期以前に遡る資料と考える(405)。

溝11出土土器群　総量で124gの土器・陶器が出土したのみで、古瀬戸の卸皿を1点図示した。中世13世紀後半から14世紀の所産にかかるものと考える。

溝18出土土器群　総量で36gの土器・陶器が出土したのみで、白磁の碗の口縁部破片を1点図示した。古代末から中世の12～13世紀代の所産にかかるものと考える。

溝25出土土器群　総量で1,656gの土器が出土しており、7点を図示できた。黒色土器Aの杯・椀・皿、須恵器杯A、須恵器の壺胴下半部がある。本址は調査所見により洪水で形成されたものと考えられているので、土器群に時期的まとまりを認めるかどうかは難しい判断であるが、7期ないし8期の時期を想定したい。

検出面・サブトレンチ出土の土器　A～C区の検出面、何本かのサブトレンチ(ST)のから多量の土器・陶磁器が出土しているが、その性格から土器群として一括できるものではない。しかし、今回の調査で出土した土器・陶磁器の全体像の縮図ともいうべき組成であることは間違いない。種別と器形は土師器杯・杯AⅡ・皿AⅢ・小型甕D・甕B、黒色土器A杯・椀・皿、須恵器杯・壺、軟質須恵器杯、灰釉陶器椀・皿・小瓶・平瓶、緑釉陶器があり、概ね7期から9期に属する土器が多い。須恵器杯445と黒色土器A458の底面には判読不明の墨書がある。緑釉陶器は小片で図示できなかったが、器形は椀か皿で、須恵器質の胎土に草色の釉が施されている。

(3) 県町遺跡14次調査出土土器の特徴

土器群に4つのピークが見られると考える。第一は第139号住居址出土土器群に代表され、6期を中心にして、その前後くらいの時期の土器群である。食膳具が黒色土器Aの杯と須恵器の杯Aで主に構成され、土師器杯・椀、灰釉陶器は伴わない。第140・141・153・154・159号住居址出土土器群が相当する。土坑117は黒色土器Aの皿や古手の椀が混じっていたが、その流れの中に含められる可能性がある。9世紀前半代の様相といえよう。

第二は第155号住居址出土土器群に代表される一群で、8期を中心にして、その前後の時期にまたがっている。須恵器の杯Aは著しく数を減じ、やがて消滅する。黒色土器の杯を残しながら椀が加わって、土師器の杯と椀が登場してくる。軟質須恵器、灰釉陶器の椀・皿を伴っている。第141・146・157・158・160号住居址出土土器群、土坑119・129出土土器群が相当しよう。杯形態に対して大幅に椀形態が増加していく傾向として捉えられる。9世紀後半（9世紀末）から10世紀初頭の様相といえよう。

第三は第156号住居址出土土器群を以って充てられる。食膳具で土師器の占める割合が増加し、須恵器の杯類はなくなって、黒色土器は椀に小椀が登場する。また、土師器の盤Bの初源的な形態も混じり始める。最も特徴的なのは土師器杯Aの口径が前代より縮小し始めることで、11cm台のものが現れてくる。10期から11期の時期の土器群である。主だった他の遺構でこの時期のものはない。10世紀中ごろから後半にかけての様相といえよう。

第四は第151号住居址出土土器群で、土師器杯Aが寸法縮小の型式変化をとげて皿化した時期で、14期頃の11世紀後半の様相になる。主だった他の遺構でこの時期のものはない。

第一のピークから第二のピークは連続性を持っている状況も考慮しなければならない。すなわち、9世紀から10世紀初頭に今回調査地の時期的中心があると言えるであろう。

第２表　土器・陶磁器観察表

No.	地点	種別	器種器形	寸法			残存度		成形・調整等		実測番号	注記
				口径	底径	器高	口縁	底部	外面	内面		
1	139住	土師器	杯C	11.6	6.3	4.05	1/4	一部	ロクロナデ、手持ケズリ	ロクロナデのちミガキ	139住21	139住123・154住018
2	139住	土師器	鉢	19	7.8	6.45	1/8	一部	ロクロナデ、回転糸切、手持ケズリ	ロクロナデ	139住26	139住037
3	139住	黒色A	杯	16	7.3	5.2	1/4	1/5	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	139住９	139住138
4	139住	黒色A	杯	15	5.8	5.5	1/8	一部	ロクロナデ、工具ナデ	ミガキのち黒色処理	139住24	139住029
5	139住	黒色A	杯	15.4			1/4		ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	139住27	139住040
6	139住	黒色A	杯	15			1/4		ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	139住11	139住017
7	139住	黒色A	杯	12.2	6.8	3.65	完	完	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	139住18	139住001
8	139住	黒色A	杯	12.8	6.4	3.25	1/4	1/3	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	139住16	139住117
9	139住	黒色A	杯	12.2	6.1	3.5	1/4	1/4	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	139住12	139住128
10	139住	黒色A	杯	12.6	5.9	3.8	1/5	一部	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	139住17	139住079・081
11	139住	黒色A	杯	13.3	6.9	3.8	5/8	3/4	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	139住１	139住026・143
12	139住	黒色A	杯	12.8			1/5		ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	139住13	139住138
13	139住	黒色A	杯	13			1/4		ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	139住14	139住138・141
14	139住	黒色A	杯	15.2			1/4		ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	139住15	139住142
15	139住	黒色A	杯		5.6			完	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	139住８	139住138
16	139住	黒色A	杯		5.8			1/4	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	139住３	139住142
17	139住	黒色A	杯		6.4			4/5	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	139住７	139住011
18	139住	黒色A	杯		6.6			1/4	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	139住２	139住142
19	139住	黒色A	杯		6.1			1/3	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	139住４	139住136
20	139住	黒色A	杯		8.1			1/2	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	139住10	139住068
21	139住	黒色A	杯		6.1			2/3	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	139住５	139住146
22	139住	黒色A	杯		7.5			1/4	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	139住６	139住027
23	139住	黒色A	鉢	22.4			1/8		ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	139住23	139住054
24	139住	黒色A	鉢		7.9			一部	ロクロナデ、工具ナデ	ミガキのち黒色処理	139住25	139住031
25	139住	黒色A	鉢		9.1			1/4	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	139住22	139住013
26	139住	須恵器	杯A	12.8	5.2	3.7	1/8	1/2	ロクロナデ、回転糸切、底面墨書	ロクロナデ	139住51	139住083・144・145・検003
27	139住	須恵器	杯A		5.2			3/5	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	139住62	139住093
28	139住	須恵器	杯A		5.2			3/5	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	139住61	139住060・102・113
29	139住	須恵器	杯A	13.4	6.3	4.05	一部	1/2	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	139住20	139住139・154住017・ST 11－008・検006
30	139住	須恵器	杯A	13.4	6.9	3.95	1/4	1/5	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	139住19	139住142・ST11-008・検006
31	139住	須恵器	杯A	12.6	6.4	3.3	1/6	2/3	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	139住52	139住018
32	139住	須恵器	杯A	13.2			1/6		ロクロナデ	ロクロナデ	139住59	139住143
33	139住	須恵器	杯A	13.6			1/5		ロクロナデ	ロクロナデ	139住56	139住141
34	139住	須恵器	杯A	12.2	7.4	3.2	1/4	1/3	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	139住53	139住020
35	139住	須恵器	杯A	12.6	6.4	2.9	1/12	1/4	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	139住54	139住139
36	139住	須恵器	杯A	13.4	5.6	3.7	1/6	一部	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	139住55	139住134
37	139住	須恵器	杯A	13.2			1/6		ロクロナデ	ロクロナデ	139住57	139住035・131
38	139住	須恵器	杯A	13.6			1/5		ロクロナデ	ロクロナデ	139住60	139住141
39	139住	須恵器	杯B	16.4	10.6	6.6	一部	1/4	ロクロナデ、回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	139住65	139住022・154住018
40	139住	須恵器	杯B	15			1/16		ロクロナデ	ロクロナデ	139住58	139住138・147
41	139住	須恵器	杯B		9.2			1/6	ロクロナデ、回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	139住64	139住138
42	139住	須恵器	杯B		8.8			1/5	ロクロナデ、回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	139住63	139住143
43	139住	黒色A	小型甕	14			1/12		ヨコナデ、ミガキ	ミガキのち黒色処理	139住46	139住138・土9－004
44	139住	土師器	甕B	21.4			3/10		縦ハケメ	口縁カキメ、縦指ナデ、工具ナデ	139住35	139住139
45	139住	土師器	甕B	23.4			1/12		縦ハケメ	口縁カキメ、指頭圧痕、工具ナデ	139住32	139住047・049・073・132・133・138
46	139住	土師器	甕B	23.4			1/8		縦ハケメ	口縁カキメ、指頭圧痕、工具ナデ	139住36	139住010
47	139住	土師器	甕B	23.4			1/6		縦ハケメ	口縁カキメ、指頭圧痕、工具ナデ	139住38	139住008
48	139住	土師器	甕B	20.8			3/8		縦ハケメ	口縁カキメ、縦指ナデ、工具ナデ	139住28	139住010・032・042・050・051・056・057・061・071・072・075・082・088・091・096・100・101・103・105・112・114・133・142・検003
49	139住	土師器	甕B	24			1/3		縦ハケメ	口縁カキメ、縦指ナデ、工具ナデ	139住29	139住052・089・090・105・115
50	139住	土師器	甕B		10			1/4	縦ハケメ、ケズリ	口縁カキメ、縦指ナデ、工具ナデ	139住30	139住043・055・105・112
51	139住	土師器	甕B	22.8			1/12		縦ハケメ	口縁カキメ、指頭圧痕、工具ナデ	139住34	139住048・098・107

No.	地点	種別	器種器形	寸法			残存度		成形・調整等		実測番号	注記
				口径	底径	器高	口縁	底部	外面	内面		
52	139住	土師器	甕B	20.4			1/4		縦ハケメ	口縁カキメ、縦指ナデ、指頭圧痕	139住31	139住136・143・145・検003
53	139住	土師器	甕B	21.6			1/12		縦ハケメ	口縁カキメ、工具ナデ	139住33	139住025・136・142・154住015
54	139住	土師器	甕B	23.4			1/6		縦ハケメ	口縁カキメ、縦指ナデ、工具ナデ	139住37	139住036・141
55	139住	土師器	甕B		9.4			1/2	縦ハケメ、ケズリ、底面工具ナデ	工具ナデ	139住42	139住024・131
56	139住	土師器	甕B		8.6			1/6	縦ハケメ、底面工具ナデ	工具ナデ	139住41	139住142
57	139住	土師器	甕B		9			1/4	縦ハケメ、底面工具ナデ	工具ナデ	139住40	139住005
58	139住	土師器	甕B		7.8			1/6	縦ハケメ、底面工具ナデ	工具ナデ	139住39	139住004・038・142
59	139住	土師器	甕C	18.8			1/10		ヨコナデ、ケズリ	工具ナデ	139住43	139住142
60	139住	土師器	甕C	20.4			1/6		ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ	139住45	139住136
61	139住	土師器	甕C		4.4			1/8	ケズリ	工具ナデ	139住44	139住136・145
62	139住	土師器	甑	26			一部		縦ハケメ	工具ナデ	139住47	139住015
63	139住	土師器	甑		14.4			1/6	縦ハケメ	工具ナデ	139住48	139住116
64	139住	須恵器	長頸壺						ロクロナデ	ロクロナデ	139住49	139住002
65	139住	須恵器	短頸壺	16.4			1/12		ロクロナデ	ロクロナデ	139住50	139住144
66	140住	黒色A	杯	12.8	6.2	3.5	7/8	完	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	140住1	140住002
67	140住	黒色A	杯		7.3			1/2	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	140住3	140住010
68	140住	黒色A	杯		7.4			1/2	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	140住2	140住008
69	140住	黒色A	杯		6.3			1/6	ロクロナデ、手持ちケズリ	ミガキのち黒色処理	140住4	140住010・P054-005
70	140住	須恵器	杯A	12.9	5.7	3.6	7/8	完	ロクロナデ、回転糸切、底面墨書	ロクロナデ	140住8	139住148・140住009・153住015・ST2-002
71	140住	須恵器	杯A	13	7.7	3.3	7/8	完	ロクロナデ、ヘラ切後回転ケズリ	ロクロナデ	140住5	140住001
72	140住	須恵器	杯A	13.3	6.35	3.2	5/6	完	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	140住6	140住007
73	140住	須恵器	短頸壺	16			1/6		ロクロナデ	ロクロナデ	140住7	140住012
74	141住	土師器	杯C	10	5.4	3.9	1/4	完	ロクロナデ、回転ケズリ、回転糸切	ロクロナデのちミガキ	141住11	141住008・029・土56-050
75	141住	黒色A	杯	13.2			1/4		ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	141住13	141住030
76	141住	黒色A	杯	12.7	6	3.45	1/4	完	ロクロナデ、回転糸切、底面墨書	ミガキのち黒色処理	141住14	141住012・015・029
77	141住	黒色A	鉢	19.8			1/7		ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	141住12	141住017・020
78	141住	須恵器	杯A	12.4	6.4	3.2	1/5	1/5	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	141住1	141住005
79	141住	須恵器	杯A	13.2			1/3		ロクロナデ	ロクロナデ	141住4	141住025・検001・003
80	141住	須恵器	杯A	13.4			1/4		ロクロナデ	ロクロナデ	141住2	141住009
81	141住	須恵器	杯B	17.6			1/16		ロクロナデ	ロクロナデ	141住3	141住010・030
82	141住	須恵器	蓋	16	ー		1/4	ー	ロクロナデ	ロクロナデ	141住5	141住030
83	141住	須恵器	蓋	15.4	ー		1/8	ー	ロクロナデ、回転ケズリ	ロクロナデ	141住6	141住022
84	141住	土師器	小型甕	15.6			5/12		ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ	141住7	141住021・023・026・029・030・土56-050
85	141住	土師器	甕B	21.8			1/6		縦ハケメ	カキメ、工具ナデ、指頭圧痕	141住8	141住010・025
86	141住	土師器	甕B		8.6			1/3	縦ハケメ、底面工具ナデ	工具ナデ	141住9	141住027・157住011・土89－071・検003
87	141住	土師器	甕B		9.4			2/3	縦ハケメ、底面工具ナデ	工具ナデ	141住10	141住011
88	142住	須恵器	杯A	13.4	5.5	3.6	1/2	1/2	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	142住1	142住001・007
89	142住	須恵器	杯B		8.4			1/4	ロクロナデ、回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	142住2	142住008
90	142住	土師器	甕C	17.4			1/8		ヨコナデ、ケズリ	ナデ	142住4	142住004・153住015
91	142住	須恵器	壺		9.4			1/8	ロクロナデ、回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	142住3	142住003
92	144住	灰釉	ミニチュア	5.2	3.4	1.8	1/6	1/6	ロクロナデ、回転ケズリ	ロクロナデ	144住1	144住001
93	145住	黒色A	杯	13.6	7	3.65	1/4	完	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	145住1	145住001
94	146住	黒色A	杯		7			1/3	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	146住3	146住005
95	146住	軟須恵	杯	13.1	5.9	4.15	完	完	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	146住2	146住001
96	146住	灰釉	皿	13.6			1/8		ロクロナデ、回転ケズリ	ロクロナデ	146住1	146住004
97	146住	土師器	小型甕	13			1/5		ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ	146住4	146住004・B検003
98	146住	土師器	甕B		9			1/3	縦ハケメ、ケズリ	工具ナデ	146住5	146住004
99	148住	土師器	杯	12.2	5.8	3.9	1/4	完	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	148住11	148住011・012・013・015
100	148住	土師器	杯	14.8	6.5	4.8	1/4	完	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	148住10	148住007
101	148住	土師器	杯		5.6			完	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	148住12	148住002
102	148住	黒色A	杯	13.1	5.4	4.05	1/4	完	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	148住7	148住008
103	148住	黒色A	椀		7.9			1/3	ロクロナデ、回転糸切、付高台	ミガキのち黒色処理	148住8	148住013・015
104	148住	黒色A	椀		7.4			1/2	ロクロナデ、回転糸切、付高台	ミガキのち黒色処理	148住9	148住006
105	148住	灰釉	椀	16.8			1/10		ロクロナデ、回転ケズリ	ロクロナデ	148住4	148住017
106	148住	灰釉	椀	13.2			1/10		ロクロナデ	ロクロナデ	148住3	148住014・015

No.	地点	種別	器種 器形	寸法			残存度		成形・調整等		実測 番号	注記
				口径	底径	器高	口縁	底部	外面	内面		
107	148住	緑釉	皿	12.8			1/8		ロクロナデ、回転ケズリ、輪花単位不明	ロクロナデ、わずかにミガキ	148住1	148住009
108	148住	緑釉	椀？		6.6			1/6	ロクロナデ、回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	148住2	148住004
109	148住	土師器	甕B	20.6			1/12		縦ハケメ	工具ナデ	148住5	148住001
110	148住	土師器	円筒形		10.4			1/4	縦ハケメ、ケズリ	工具ナデ	148住6	148住005・P 96-003
111	149住	土師器	杯	14.7	6.8	4.15	完	完	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	149住2	149住003
112	149住	土師器	杯		5.8			9/10	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	149住3	149住004・016
113	149住	土師器	椀		4.9			3/4	ロクロナデ、回転糸切、付高台	ロクロナデ	149住4	149住002
114	149住	黒色A	杯	12	5.8	3.4	4/5	完	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ、黒色処理	149住1	149住001
115	150住	黒色A	杯	13.1	6.2	3.8	5/8	2/3	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	150住2	150住009
116	150住	黒色A	杯	15	6.2	5.05	7/8	完	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	150住1	150住001
117	150住	黒色A	杯		5.2			7/8	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	150住3	150住009
118	150住	黒色A	椀		6.2			1/3	ロクロナデ、回転糸切、付高台	ミガキのち黒色処理	150住5	150住009
119	150住	黒色A	椀		6.6			1/3	ロクロナデ、回転糸切、付高台	ミガキのち黒色処理	150住6	150住010
120	150住	黒色A	椀		6.6			2/3	ロクロナデ、回転糸切、付高台	ミガキのち黒色処理	150住4	150住009
121	150・151住	土師器	杯AⅡ	8.4	5	1.5	1/3	1/3	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	150・151住2	150・151住012・B検002
122	150・151住	須恵器	甕		13.4			1/3	回転ケズリ、底面工具ナデ	ロクロナデ、工具ナデ	150・151住1	150・151住012
123	151住	土師器	杯AⅡ	8.4	5.4	1.55	5/8	3/4	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	151住5	151住003・004
124	151住	土師器	杯AⅡ	9.7	6	1.75	完	3/4	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	151住4	151住001
125	151住	土師器	杯AⅡ	9.5	5.8	1.85	完	完	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	151住3	151住002
126	151住	土師器	杯AⅡ	10			1/4		ロクロナデ	ロクロナデ	151住6	151住003
127	151住	土師器	杯	12.8	6.4	4.4	1/6	1/2	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	151住2	151住003
128	151住	土師器	椀		5.8			1/8	ロクロナデ、回転糸切、付高台	ロクロナデ	151住8	151住003
129	151住	土師器	椀		7.6			2/3	ロクロナデ、回転糸切、付高台、高台に5単位でキザミ	ロクロナデ	151住7	151住004・B検002・003
130	151住	灰釉	椀		7.5			完	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	151住1	151住003
131	152住	黒色A	杯	13.3	7	3.55	3/4	完	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	152住5	152住002
132	152住	黒色A	杯	14.1			1/6		ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	152住6	152住003
133	152住	黒色A	椀		6.4			1/4	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	152住8	152住003
134	152住	黒色A	椀					1/2	ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	152住2	152住005
135	152住	軟須恵	杯		6.4			1/2	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	152住7	152住012
136	152住	黒色A	小型甕	11.8			1/3		ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	152住1	146住004・152住004・011・B検003
137	152住	土師器	甕	25.6			1/8		縦ハケメ	工具ナデ	152住3	152住001
138	152住	土師器	円筒形						縦ハケメ、工具ナデ	工具ナデ、指頭圧痕	152住4	152住006
139	153住	土師器	杯C	11.55	5.6	3.9	完	完	ロクロナデ、回転糸切、手持ケズリ	ロクロナデのちミガキ	153住6	153住011・014
140	153住	黒色A	杯	14	6.2	4.1	1/4	1/7	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	153住2	153住014・015
141	153住	黒色A	杯	13.45	6.55	3.5	3/4	完	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	153住5	153住008
142	153住	黒色A	杯	12.3	5.5	3.65	1/2	完	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	153住1	153住009
143	153住	黒色A	杯		6			1/2	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	153住4	153住014
144	153住	須恵器	杯A	13	5.7	2.9	1/3	1/3	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	153住13	153住013
145	153住	須恵器	杯A	13.7	5.8	3.2	7/8	完	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	153住15	153住010・015
146	153住	須恵器	杯A	12.2	6	3.9	1/8	3/4	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	153住10	153住013・014・ST 11-008
147	153住	須恵器	杯A	12	6	3	1/4	1/2	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	153住11	153住013・015・ST 11-008
148	153住	須恵器	杯A	14.6	7.6	4.25	1/4	1/4	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	153住16	153住003・ST 11-008
149	153住	須恵器	杯A	13.5	5.6	2.9	3/4	完	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	153住12	153住001
150	153住	須恵器	杯A	12			3/8		ロクロナデ	ロクロナデ	153住14	153住012・154住015・018・検003
151	153住	須恵器	杯A	15			1/4		ロクロナデ	ロクロナデ	153住3	153住013
152	153住	須恵器	杯A		5.6			完	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	153住9	153住002
153	153住	土師器	小型甕						ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ	153住7	153住015・検006
154	153住	土師器	甕	14.6			1/16		ロクロナデ	ロクロナデ、指頭圧痕	153住8	153住015
155	154住	黒色A	杯	14.6			1/8		ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	154住1	154住002
156	154住	須恵器	杯A	14			1/6		ロクロナデ	ロクロナデ	154住7	154住018
157	154住	須恵器	杯B	16			1/8		ロクロナデ	ロクロナデ	154住6	154住001
158	154住	須恵器	杯B	16.4			1/8		ロクロナデ	ロクロナデ	154住5	154住003
159	154住	土師器	小型甕	11.4			1/4		ロクロナデ	ロクロナデ	154住3	154住018
160	154住	土師器	小型甕		7			4/5	ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ	154住2	154住007
161	154住	土師器	甕B		8.7			1/2	縦ハケメ、底面ナデ	工具ナデ	154住4	154住005
162	155住	土師器	杯	13	5.2	4.1	1/6	1/2	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	155住54	155住038
163	155住	土師器	杯	12.8	5.6	3.8	1/12	完	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	155住53	155住013・069
164	155住	土師器	杯	13.2	5.4	4.3	3/8	完	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	155住51	155住048・071
165	155住	土師器	杯	16	7.2	5	3/8	完	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	155住50	155住024・044

No.	地点	種別	器種器形	寸法			残存度		成形・調整等		実測番号	注記
				口径	底径	器高	口縁	底部	外面	内面		
166	155住	土師器	杯	13	5	3.25	1/8	1/5	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	155住52	155住063
167	155住	土師器	杯	12.8			1/2		ロクロナデ	ロクロナデ	155住56	155住052
168	155住	土師器	杯	12.6			1/4		ロクロナデ	ロクロナデ	155住57	155住043
169	155住	土師器	杯	15.6	6.6	4.75	1/8	3/4	ロクロナデ、回転糸切、底面焼成後穿孔	ロクロナデ	155住59	155住043・077
170	155住	土師器	椀	14.8	7.5	5	7/12	完	ロクロナデ、回転糸切、付高台	ロクロナデ	155住58	155住063
171	155住	土師器	椀？	16.6			1/4		ロクロナデ、	ロクロナデ	155住55	155住009
172	155住	土師器	鉢	19.4			1/10		ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ	155住3	155住056
173	155住	土師器	盤A						ロクロナデ、脚部4孔	ロクロナデ	155住1	155住040
174	155住	土師器	盤A		18.6			1/4	ロクロナデ、脚部4孔？	ロクロナデ	155住2	155住039・ST 4-015
175	155住	黒色A	杯	13.3	6.4	3.45	3/4	完	ロクロナデ、回転糸切、体部墨書	ミガキのち黒色処理	155住8	155住001
176	155住	黒色A	杯	12.6	6	3.95	2/3	完	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	155住10	155住018・044
177	155住	黒色A	杯	13.2	6.2	3.75	1/2	完	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	155住9	155住021・022・045・051
178	155住	黒色A	杯	13.4	6.2	3.9	1/10	1/3	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	155住14	155住069
179	155住	黒色A	杯	13.9	6.6	3.5	完	完	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	155住62	155住023
180	155住	黒色A	杯	14	7.4	3.9	1/4	1/3	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	155住13	155住056
181	155住	黒色A	杯	12.8	5.4	4.5	3/4	完	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	155住15	155住010・046・051・069・073
182	155住	黒色A	杯	13.3	6.2	4.05	1/7	完	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	155住11	155住063
183	155住	黒色A	杯	12.4	5.4	3.25	1/4	完	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	155住12	155住063・068・079
184	155住	黒色A	杯？	13.8			1/4		ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	155住60	155住069
185	155住	黒色A	杯	12.6	6.0	4.4	1/8	2/3	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	155住63	155住061・080
186	155住	黒色A	杯		6.2			完	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	155住17	155住015・069
187	155住	黒色A	杯		6.2			完	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	155住18	155住046・059・066
188	155住	黒色A	杯	17.6	7.2	6.25	1/28	1/6	ロクロナデ、底面剥離	ミガキのち黒色処理	155住61	155住077
189	155住	黒色A	椀	14.6			2/3		ロクロナデ、回転糸切、付高台	ミガキのち黒色処理	155住21	155住031
190	155住	黒色A	椀？	15.2			1/3		ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	155住16	155住043・067
191	155住	黒色A	椀		7			1/3	ロクロナデ、回転糸切、付高台	ミガキのち黒色処理	155住20	155住042
192	155住	黒色A	椀		7			完	ロクロナデ、回転糸切、付高台	ミガキのち黒色処理	155住19	155住008
193	155住	須恵器	杯A	13.2	5.8	4.05	1/2	完	ロクロナデ、回転糸切、体部外面墨書	ロクロナデ	155住45	155住016・071・075
194	155住	須恵器	蓋	11	ー	2.8	1/4	ー	ロクロナデ、環状摘み	ロクロナデ	155住47	155住060・063
195	155住	軟須恵	杯	13.6	5.8	3.5	1/4	1/3	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	155住25	155住047
196	155住	軟須恵	杯	13.8			3/8		ロクロナデ	ロクロナデ	155住23	155住043・061・078
197	155住	軟須恵	杯	12.6	6	3.4	1/4	1/4	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	155住22	155住056
198	155住	軟須恵	杯	13.2	6.6	3.5	2/3	完	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	155住24	155住020・044・045・047・050
199	155住	灰釉	椀	14.4	7	4.6	1/6	完	ロクロナデ、回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	155住28	155住014・066
200	155住	灰釉	椀	14.6	7	4.5	1/2	2/3	ロクロナデ、回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	155住46	155住033
201	155住	灰釉	椀	14.2	6.5	3.4	1/4	完	ロクロナデ、回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	155住29	155住029
202	155住	灰釉	椀	13.8			1/5		ロクロナデ、回転ケズリ	ロクロナデ	155住34	155住026
203	155住	灰釉	椀		6.6			完	ロクロナデ、回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	155住31	155住053・076
204	155住	灰釉	椀		8.2			1/4	ロクロナデ、回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	155住38	155住049
205	155住	灰釉	椀		7			完	ロクロナデ、回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	155住37	155住005・046・069
206	155住	灰釉	椀		6.8			完	ロクロナデ、回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	155住36	155住017・060
207	155住	灰釉	椀		7.2			1/2	ロクロナデ、回転ケズリ、付高台、底面朱墨痕	ロクロナデ	155住27	155住046
208	155住	灰釉	椀	17			1/3		ロクロナデ、回転ケズリ	ロクロナデ	155住32	155住019・045・068・069
209	155住	灰釉	椀	18.4	7.8	5.8	一部	1/4	ロクロナデ、回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	155住30	155住027・061・063
210	155住	灰釉	皿	18			1/5		ロクロナデ	ロクロナデ	155住39	155住046・063・検C 015
211	155住	灰釉	皿	17.6			1/6		ロクロナデ	ロクロナデ	155住40	155住067・検C 015
212	155住	灰釉	皿	15.4			3/8		ロクロナデ、回転ケズリ	ロクロナデ	155住33	155住046・069
213	155住	灰釉	皿	13.4	6.1	2.8	1/5	1/4	ロクロナデ、回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	155住35	155住030
214	155住	緑釉	椀	16.6			1/6		ロクロナデ、回転ケズリ、ミガキ	ロクロナデ、緑彩紋	155住44	155住002
215	155住	緑釉	椀		6			完	ロクロナデ、回転ケズリ、ケズリ出し高台、底面ヘラ印	ロクロナデ	155住26	155住059

No.	地点	種別	器種 器形	寸法			残存度		成形・調整等		実測 番号	注記
				口径	底径	器高	口縁	底部	外面	内面		
216	155住	土師器	小型甕	12	7.6	12.4	1/3	1/5	ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ	155住65	155住044・045・047・051・054・062・063・067・069
217	155住	土師器	小型甕		7.4			一部	ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ	155住7	155住048・069
218	155住	土師器	小型甕		9.0			1/2	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	155住64	155住063・079
219	155住	黒色A	小型甕	10.6			1/5		ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	155住6	155住052
220	155住	土師器	円筒形		10.4			1/4	縦ハケメ、手持ケズリ	工具ナデ	155住4	155住034
221	155住	土師器	円筒形		11.4			1/4	縦ハケメ、工具ナデ	工具ナデ、巻上痕	155住5	155住028
222	155住	灰釉	長頸壺	10.2			1/8		ロクロナデ	ロクロナデ	155住41	155住063
223	155住	灰釉	壺		12			1/4	ロクロナデ、回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	155住42	155住003・065
224	155住	須恵器	壺		8			1/4	ロクロナデ、回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	155住43	155住006
225	155住	須恵器	四耳壺						ロクロナデ、タタキ	ロクロナデ	155住49	155住007・048・050・052
226	155住	須恵器	甕		12			1/5	タタキ、ケズリ	工具ナデ	155住48	155住063・067・069・検C015
227	156住	土師器	杯	11	4.8	2.8	1/12	1/2	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	156住9	156住035・037
228	156住	土師器	杯	10.9	5.45	3.15	完	完	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	156住3	156住005
229	156住	土師器	杯	11.5	5.3	2.9	1/8	4/5	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	156住8	156住041
230	156住	土師器	杯	12	5.7	2.5	1/4	1/2	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	156住12	156住019・032
231	156住	土師器	杯	11.5	5.6	3.1	1/8	完	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	156住1	156住016
232	156住	土師器	杯	12.6	5.6	3.3	完	完	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	156住5	156住010
233	156住	土師器	杯	13.3	5.3	3.85	1/8	3/4	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	156住4	156住006・160住021
234	156住	土師器	杯	14.2	5.5	4.3	一部	完	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	156住11	156住040・044
235	156住	土師器	杯	14.65	6.15	4.4	1/2	2/3	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	156住10	156住033
236	156住	土師器	杯	15.4			1/4		ロクロナデ	ロクロナデ	156住13	156住019・土112-024
237	156住	土師器	杯	13.65			1/2		ロクロナデ	ロクロナデ	156住16	156住026
238	156住	土師器	杯	13			5/8		ロクロナデ	ロクロナデ	156住14	156住032・040
239	156住	土師器	杯		4.7			4/5	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	156住7	156住032
240	156住	土師器	杯		5.5			9/10	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	156住6	156住024・030
241	156住	土師器	椀	13.3	6.75	4.55	1/4	3/4	ロクロナデ、回転糸切、付高台	ロクロナデ	156住19	156住033
242	156住	土師器	椀	14.3	7.65	5.25	1/2	完	ロクロナデ、回転糸切、付高台	ロクロナデ	156住18	156住008・009・027
243	156住	土師器	椀	14.4			1/4		ロクロナデ、付高台	ロクロナデ	156住17	156住023
244	156住	土師器	椀	16			1/4		ロクロナデ	ロクロナデ	156住15	156住016・040・042・検C005
245	156住	土師器	椀		7.2			2/6	ロクロナデ、回転糸切、付高台、高台に4単位でキザミ	ロクロナデ	156住20	156住036
246	156住	土師器	盤B	13.2	6.6	5.25	一部	一部	ロクロナデ、回転糸切、付高台	ロクロナデ	156住21	156住040・041・044
247	156住	土師器	盤B		9.6			1/8	ロクロナデ	ロクロナデ	156住23	156住044
248	156住	土師器	盤B		8.9			1/8	ロクロナデ	ロクロナデ	156住24	156住035
249	156住	土師器	盤B		6.95			完	ロクロナデ、回転糸切、付高台	ロクロナデ	156住22	156住032
250	156住	黒色A	杯	13.1	6	3.85	3/8	完	ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	156住28	156住011
251	156住	黒色A	小椀	11.3	5.6	4.8	7/8	完	ロクロナデ、回転糸切、付高台	ミガキのち黒色処理	156住27	156住006
252	156住	黒色A	小椀	11	6.4	4.2	1/2	完	ロクロナデ、回転糸切、付高台	ミガキのち黒色処理	156住30	156住030
253	156住	黒色A	椀	14.4			1/4		ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	156住29	156住018
254	156住	黒色A	椀		7.8			1/2	ロクロナデ、回転糸切、付高台	ミガキのち黒色処理	156住26	156住035
255	156住	須恵器	杯A	12.6	5.3	4.2	1/8	1/4	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	156住32	156住035・160住021
256	156住	須恵器	杯A		5.7			1/2	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	156住33	156住042
257	156住	灰釉	椀	13.8	7	4.4	1/8	一部	ロクロナデ、回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	156住39	156住027
258	156住	灰釉	椀		8.3			1/3	ロクロナデ、回転糸切、付高台	ロクロナデ	156住36	156住004
259	156住	灰釉	椀	18			1/4		ロクロナデ、輪花単位不明	ロクロナデ	156住41	156住003
260	156住	灰釉	椀	18	8.5	6.3	1/4	完	ロクロナデ、回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	156住40	156住014
261	156住	灰釉	皿	13.3	6.5	2.8	1/4	1/3	ロクロナデ、回転ケズリ、回転糸切、付高台	ロクロナデ	156住37	156住001・033・038
262	156住	灰釉	皿	13.6	7.6	2.85	1/8	1/2	ロクロナデ、回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	156住38	156住030・035・160住021
263	156住	緑釉	椀	15			3/8		ロクロナデ、輪花単位不明	ロクロナデ、見込部圏線	156住42	156住002・012・025
264	156住	緑釉	椀	14			1/8		ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ	156住44	156住040
265	156住	土師器	小型甕	15			1/4		ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ	156住43	156住042・土112-024
266	156住	土師器	小型甕		7.6			1/4	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	156住25	156住013

No.	地点	種別	器種器形	寸法			残存度		成形・調整等		実測番号	注記
				口径	底径	器高	口縁	底部	外面	内面		
267	156住	土師器	小型甕		5.6			1/2	ロクロナデ、カキメ、回転糸切	ロクロナデ	156住2	156住021
268	156住	土師器	小型甕	17.9			1/4		ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ	156住31	156住032・033・034・土112-024
269	156住	須恵器	甕	15.2			1/4		ロクロナデ	ロクロナデ	156住34	156住015・023・032
270	156住	須恵器	短頸壺	19.8			一部		ロクロナデ	ロクロナデ	156住35	156住033・160住022
271	157住	黒色A	杯	13.1			1/6		ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	157住1	157住013
272	157住	黒色A	椀	18.2			1/8		ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	157住2	157住015
273	157住	土師器	小型甕		6.4			1/2	ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ	157住3	157住007
274	157住	黒色A	甕B	24.6			1/12		ロクロナデ、縦ハケメ	横ミガキのち黒色処理	157住4	157住001・土89-081
275	157住	土師器	円筒形	15			1/8		ヨコナデ、縦ハケメ	ナデ、巻上痕	157住5	157住009
276	157住	須恵器	長頸壺	14.4			5/8		ロクロナデ	ロクロナデ	157住6	157住005・006
277	158住	土師器	杯	13.65	6.2	3.8	7/8	完	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	158住21	158住001
278	158住	土師器	杯	12.5	5.3	3.35	完	3/4	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	158住4	158住002
279	158住	土師器	杯	12	5.8	3.7	1/8	1/2	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	158住3	158住021
280	158住	土師器	杯	13.1	5.2	4.2	1/2	完	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	158住1	158住014・土119-047・ST12-021
281	158住	土師器	杯	13	6	3.4	1/12	1/4	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	158住2	158住007・021・検C011
282	158住	土師器	杯		5.9			完	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	158住8	158住008・014・019・土112-024
283	158住	土師器	杯	15.6			1/4		ロクロナデ	ロクロナデ	158住7	158住010
284	158住	土師器	杯	12.2			1/5		ロクロナデ	ロクロナデ	158住5	158住020
285	158住	土師器	椀		5.8			完	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	158住12	158住007
286	158住	黒色A	椀	14.6			1/3		ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	158住9	158住010・016
287	158住	黒色A	椀	15.4			1/6		ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	158住10	158住009・016
288	158住	黒色A	椀	14.5			1/4		ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	158住11	158住010
289	158住	黒色A	鉢		7.2			5/6	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	158住13	158住010
290	158住	黒色A	鉢	25.6			一部		ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	158住14	158住020・土112-024
291	158住	黒色A	鉢	22.1			一部	1/2	ロクロナデ、糸切、付高台	ミガキのち黒色処理	158住19	158住009・014・019
292	158住	軟須恵	杯	12.1	5.1	3.7	1/5	完	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	158住6	158住003
293	158住	土師器	小型甕	11.5			1/6		ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ	158住15	158住016
294	158住	土師器	小型甕	15.6			1/8		ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ	158住16	158住007・021・土112-024
295	158住	土師器	小型甕		8.3			完	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	158住18	158住005
296	158住	土師器	小型甕	16	9.2	21.6	1/4	1/8	ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ	158住20	156住044・158住004・006・007・011・012・018・020・土112-024
297	158住	土師器	甕B	21			1/6		縦ハケメ	カキメ	158住17	158住010・土120-068
298	159住	黒色A	杯	13.2	6.4	4.3	1/12	2/3	ロクロナデ、回転糸切り	ミガキのち黒色処理	159住6	159住007
299	159住	黒色A	杯	13.6	6.4	3.9	1/2	完	ロクロナデ、回転糸切り	ミガキのち黒色処理	159住4	159住004・005・検C014
300	159住	黒色A	杯	15.6			1/4		ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	159住5	159住006・007
301	159住	黒色A	杯	15			1/5		ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	159住3	159住002
302	159住	須恵器	杯A	13.2	5.8	3.6	一部	一部	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ	159住2	159住007・008・土117-036・検C014
303	159住	須恵器	杯A	12.8	6.2	3.6	1/17	2/3	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ	159住1	158住021・159住007・008・検C014
304	159住	土師器	甕B	11.1			1/8		ロクロナデ、縦ハケメ	口縁カキメ、工具ナデ	159住7	159住003
305	159住	土師器	甕B		12			1/6	縦ハケメ、工具ナデ	工具ナデ	159住8	159住001
306	160住	土師器	杯	13.2	6.0	4.4	5/6	完	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	160住1	160住011・012・014
307	160住	土師器	盤A	21.0			1/10		ロクロナデ	ロクロナデ	160住2	160住023
308	160住	黒色A	杯	12.5	6.4	3.7	1/2	完	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	160住8	160住006
309	160住	黒色A	杯	12.6	5.6	4.6	1/4	1/4	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	160住9	160住009
310	160住	黒色A	杯	13.8	6.2	4.4	1/4	完	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	160住7	160住023
311	160住	黒色A	椀	15	6.5	5.9	一部	完	ロクロナデ、回転糸切、付高台	ミガキのち黒色処理	160住11	160住011・021
312	160住	黒色A	椀	14.7	7	5	1/3	1/2	ロクロナデ、回転糸切、付高台	ミガキのち黒色処理	160住13	160住017・021・022・北東T004
313	160住	黒色A	椀	12.4			1/3		ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	160住10	160住005
314	160住	黒色A	椀		7.1			完	ロクロナデ、回転糸切、付高台	ミガキのち黒色処理	160住12	160住004
315	160住	須恵器	杯B		6.2			1/2	ロクロナデ、回転糸切、付高台	ロクロナデ	160住14	160住021
316	160住	灰釉	椀	15.6	7.2	5.45	1/6	7/12	ロクロナデ、回転糸切、付高台	ロクロナデ	160住16	160住022・ST7-017
317	160住	灰釉	皿	13.5	6.5	2.7	7/16	完	ロクロナデ、回転ケズリ、付高台、底面墨書	ロクロナデ	160住17	160住019
318	160住	土師器	小型甕		6.2			完	カキメ、回転糸切	ロクロナデ	160住4	160住003・023
319	160住	土師器	小型甕		7.8			1/2	カキメ、回転糸切	ロクロナデ	160住3	160住021・024・025

No.	地点	種別	器種器形	寸法			残存度		成形・調整等		実測番号	注記
				口径	底径	器高	口縁	底部	外面	内面		
320	160住	土師器	甕B	26.2			1/6		ロクロナデ、ハケメ	ロクロナデ	160住5	160住009・015・018・019
321	160住	土師器	鍋	35			1/4		ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ、カキメ	160住6	160住001・ST 14-023
322	160住	須恵器	壺				胴のみ		回転ケズリ	ロクロナデ	160住15	156住037・160住021
323	竪1	青磁	碗	14			1/10		櫛描沈線充填の鏑連弁紋	鏑連弁紋	竪1-1	タテ1-004
324	竪2	灰釉	椀		6.8			1/3	ロクロナデ、回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	竪2-1	タテ2-006
325	竪5	土師器	椀						ロクロナデ、回転糸切、付高台	ロクロナデ	竪5-1	タテ5-003
326	竪5	灰釉	長頸壺						ロクロナデ	ロクロナデ	竪5-2	タテ5-003
327	竪6	土師器	杯	13.4	5.8	3.9	1/4	一部	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	竪6-1	タテ6-001
328	土9	須恵器	蓋	15			1/10		ロクロナデ、回転ケズリ	ロクロナデ	土9-1	土9-004
329	土15	東海系	捏鉢	27			1/12		ロクロナデ	ロクロナデ	土15-1	土15-011
330	土18	白磁	碗	16			1/12		ロクロナデ、回転ケズリ	ロクロナデ	土18-1	土18-015
331	土37	黒色A	皿	13.6			1/6		ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	土37-4	土37-041
332	土37	黒色A	皿		6.2			完	ロクロナデ、回転糸切、付高台	ミガキのち黒色処理	土37-3	土37-040
333	土37	須恵器	長頸壺	12.2			1/10		ロクロナデ	ロクロナデ	土37-1	土37-032
334	土37	須恵器	短頸壺	9.2			1/3		ロクロナデ	ロクロナデ	土37-2	土37-039
335	土48	灰釉	椀		6.6			1/5	ロクロナデ、回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	土48-1	土48-045
336	土69	黒色A	杯		6			5/6	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理、見込部に刻印	土69-1	土69-056・溝1-001
337	土72	黒色A	椀	15.6			1/6		ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	土72-3	土72-005
338	土72	灰釉	皿		7.4			1/2	回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	土72-5	土72-008
339	土72	灰釉	皿		8.8			1/3	ロクロナデ、回転ケズリ、付高台、底面墨書	ロクロナデ	土72-4	土72-002
340	土72	土師器	小型甕		7			1/2	カキメ、回転糸切	ロクロナデ	土72-1	土72-003
341	土72	土師器	円筒形		12			1/8	縦ハケメ、ケズリ	工具ナデ	土72-2	土72-006
342	土73	黒色A	椀						ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	土73-1	土73-014
343	土80	灰釉	椀	15.4			1/8		ロクロナデ	ロクロナデ	土80-1	土80-021
344	土84	須恵器	高杯				脚部	完	ロクロナデ	ロクロナデ	土84-1	土84-057
345	土86	軟須恵	杯	12.8			1/7		ロクロナデ	ロクロナデ	土86-1	土86-004
346	土88	黒色A	皿	13.7	6.8	2	1/2	完	ロクロナデ、回転ケズリ、付高台	ミガキのち黒色処理	土88-2	土88-059
347	土88	須恵器	杯B		8.4			1/4	回転糸切後回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	土88-3	土88-060
348	土88	土師器	甕B	21.6			1/5		縦ハケメ	口縁カキメ、指頭圧痕、工具ナデ	土88-1	土88-061
349	土89	黒色A	杯	12.6	5.8	3.35	3/4	完	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	土89-3	土89-063
350	土89	須恵器	杯A		7.2			1/4	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	土89-4	土89-074
351	土89	土師器	小型甕	14			1/8		カキメ	口縁カキメ、ロクロナデ	土89-2	土89-077
352	土89	土師器	甕B	22			一部		縦ハケメ	口縁カキメ、工具ナデ	土89-1	土89-065・076・079
353	土90	灰釉	皿		8			1/4	回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	土90-1	土90-026
354	土91	黒色A	皿	13	6.5	2.85	完	完	ロクロナデ、回転ケズリ、付高台、底面墨書	ミガキのち黒色処理	土91-1	土91-085
355	土107	須恵器	杯A		5.4			完	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	土107-2	土107-099・検C 032
356	土107	須恵器	甕		12.2			1/6	タタキ、ナデ	工具ナデ	土107-1	土107-010
357	土108	軟須恵	杯	12.4	5	3.8	1/2	完	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	土108-3	土108-014・016・018
358	土108	軟須恵	杯		4.8			4/5	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	土108-1	土108-018
359	土108	灰釉	壺		9.6			1/2	ロクロナデ、回転ケズリ	ロクロナデ	土108-2	土108-013
360	土112	土師器	杯	10.9	5.9	3.2	1/2	2/3	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	土112-1	土112-024・検C 004
361	土117	黒色A	杯	13.4	6.4	4	3/8	5/8	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	土117-2	土117-036
362	土117	黒色A	椀	15.8	7.1	5.1	11/12	完	ロクロナデ、回転糸切、付高台	ミガキのち黒色処理	土117-3	土117-027
363	土117	黒色A	皿	14.7	6.2	2.8	7/8	完	ロクロナデ、回転糸切、付高台	ミガキのち黒色処理	土117-4	土117-029
364	土117	黒色A	皿	14.8	6.6	2.25	一部	1/4	ロクロナデ、回転糸切、付高台	ミガキのち黒色処理	土117-5	土117-035
365	土117	黒色A	皿	12.4			1/5		ロクロナデ、回転糸切、付高台	ミガキのち黒色処理	土117-6	土117-033
366	土117	黒色A	鉢	17.2	7.2	7.8	3/8	5/12	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	土117-7	土117-033
367	土117	黒色A	鉢		8.2			1/4	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	土117-8	土117-035・036
368	土117	須恵器	杯A	12.6	5.3	3.95	完	完	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	土117-1	土117-030
369	土117	土師器	鍋		11.8			1/6	縦ハケメ、底面ナデ	工具ナデ	土117-9	土117-028
370	土117	須恵器	壺		7.9			1/2	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	土117-10	土117-031
371	土119	土師器	杯	12.3	5.4	3.95	完	完	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	土119-2	土119-041
372	土119	土師器	杯	14.8	6	4.1	1/5	完	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	土119-3	土119-042・156住042
373	土119	土師器	椀	14.8			完		ロクロナデ、回転糸切、付高台	ロクロナデ	土119-1	土119-040
374	土119	黒色A	皿		5.5			完	ロクロナデ、回転糸切、付高台	ミガキのち黒色処理	土119-7	土119-060

No.	地点	種別	器種器形	寸法			残存度		成形・調整等		実測番号	注記
				口径	底径	器高	口縁	底部	外面	内面		
375	土119	灰釉	椀		7.2			1/8	回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	土119-13	土119-043
376	土119	灰釉	椀		8.1			1/4	ロクロナデ、回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	土119-10	土119-065
377	土119	灰釉	椀		7.3			1/4	回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	土119-12	土119-057
378	土119	灰釉	椀		6.9			1/2	ロクロナデ、回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	土119-8	土119-098
379	土119	灰釉	皿	14.8	7.4	3.2	1/8	完	ロクロナデ、回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	土119-14	土119-037・056
380	土119	灰釉	皿		7.8			5/8	回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	土119-9	土119-044
381	土119	灰釉	皿		5.7			1/4	ロクロナデ、回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	土119-11	土119-060・065
382	土119	須恵器	杯B		7			1/6	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	土119-16	土119-066
383	土119	土師器	小型甕		6.3				ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	土119-5	土119-057・064
384	土119	土師器	甕B	20.1			1/8		縦ハケメ	カキメ、ロクロナデ	土119-4	土119-046・ST 12-043
385	土119	土師器	円筒形		11.2			1/4	ケズリ	工具ナデ	土119-6	土119-058
386	土119	須恵器	平瓶？		6.4			1/6	回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	土119-17	土119-065
387	土119	須恵器	長頸壺						ロクロナデ	ロクロナデ	土119-18	土119-051
388	土119	灰釉	壺		9.4			1/8	回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	土119-15	土119-065
389	土121	黒色A	甕						縦ハケメ	ミガキのち黒色処理	土121-1	土121-070・071
390	土124	黒色A	杯	13.2	6.4	3.5	1/5	1/6	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	土124-1	土124-073
391	土128	土師器	甕B		8.4			完	縦ハケメ、底面ナデ	縦の指ナデ	土128-1	土128-076
392	土129	土師器	椀	15.25	6.5	5.45	1/8	完	ロクロナデ、回転糸切、付高台	ロクロナデ	土129-1	土129-078
393	土129	黒色A	杯	13.6	6.4	4.5	完	完	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	土129-3	土129-079・095
394	土129	黒色A	杯	13	5.7	3.95	3/4	完	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	土129-2	土129-081・082・088
395	土129	黒色A	椀	16.2	7.5	4.75	7/8	7/8	ロクロナデ、回転糸切、付高台	ミガキのち黒色処理	土129-5	土129-079・085
396	土129	黒色A	椀	15.5	6.6	5.6	完	完	ロクロナデ、回転糸切、付高台	ミガキのち黒色処理	土129-4	土129-080
397	土129	黒色A	椀	15.8			1/10		ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	土129-6	土129-083
398	土129	黒色A	皿	17.1	8.6	3.45	完	完	ロクロナデ、回転ケズリ、付高台、底面墨書	ミガキのち黒色処理	土129-9	土129-084
399	土129	黒色A	皿	13.7	6.6	2.95	4/5	完	ロクロナデ、回転ケズリ、付高台、底面墨書	ミガキのち黒色処理	土129-8	土129-086
400	土129	黒色B	椀		4.8			3/4	ミガキのち黒色処理	ミガキのち黒色処理	土129-7	土129-088
401	土129	須恵器	杯A		5.1			1/4	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	土129-10	土129-095
402	土129	灰釉	壺		7.8			完	回転ケズリ、回転糸切、付高台	ロクロナデ	土129-11	土129-087
403	土130	土師器	杯AⅢ	10.2	5.4	2.2	完	完	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	土130-1	土130-097
404	溝7	須恵器	杯B		10.4			1/6	ロクロナデ、回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	溝7-1	溝7-007
405	溝10	土師器	杯	12.2	ー	2.8	1/4	ー	ヨコナデ、手持ケズリ	ナデ	溝10-1	溝10-021
406	溝11	古瀬戸	卸皿	14.6			1/8		ロクロナデ	ロクロナデ、見込部刻目	溝11-1	溝11-002
407	溝12	黒色A	椀		6.8			完	ロクロナデ、回転糸切、付高台	ミガキのち黒色処理	溝12-1	溝12-001
408	溝12	黒色A	椀		10			1/8	ロクロナデ、手持ケズリ、付高台	ミガキのち黒色処理	溝12-2	溝12-003
409	溝12	土師器	甕	19.4					ロクロナデ	口縁カキメ、ロクロナデ	溝12-3	溝12-002
410	溝13	黒色A	皿	13.6	6	1.75	1/5	完	ロクロナデ、回転糸切、回転ケズリ後付高台	ミガキのち黒色処理	溝13-1	溝13-022
411	溝14	弥生	高杯		8.2			1/4	ナデ後ミガキ、赤彩	ナデ後ミガキ、赤彩	溝14-1	溝14-025
412	溝17	須恵器	杯A	13.4	7.2	3.5	1/4	1/4	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	溝17-1	溝15-001・溝17-006
413	溝19	黒色A	杯	13.6	6.35	4.4	2/3	完	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	溝19-1	溝19-010
414	溝20	須恵器	長頸壺		6.4			完	ロクロナデ、胴下半回転ケズリ、底面回転糸切	ロクロナデ	溝20-1	溝20-014
415	溝25	黒色A	杯	14			1/4		ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	溝25-2	溝25-025
416	溝25	黒色A	杯	13	6.4	3.3	1/16	1/2	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	溝25-1	溝25-026・027
417	溝25	黒色A	椀					1/3	ロクロナデ、回転糸切、付高台	ミガキのち黒色処理	溝25-3	溝25-028
418	溝25	黒色A	皿	15.6	6.4	2.6	1/6	完	ロクロナデ、底面手持ケズリ、付高台	ミガキのち黒色処理	溝25-7	溝25-026
419	溝25	須恵器	杯A	12.4			1/5		ロクロナデ	ロクロナデ	溝25-4	溝18-008・溝25-027
420	溝25	須恵器	杯A		6			1/3	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	溝25-5	溝25-028・ST 3-010
421	溝25	須恵器	壺		9.2			1/3	胴下半・底面回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	溝25-6	溝25-028
422	C中央流路	須恵器	杯A		6.5			7/8	底面ヘラ切後工具ナデ	ロクロナデ	C流路2-3	C流路2-004
423	C中央流路	灰釉	椀		8.7			1/10	ロクロナデ、付高台	ロクロナデ	C流路2-1	C流路2-007
424	C中央流路	須恵器	壺		11.5			1/5	回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	C流路2-2	C流路2-007

No.	地点	種別	器種 器形	寸法			残存度		成形・調整等		実測 番号	注記
				口径	底径	器高	口縁	底部	外面	内面		
425	Cトレンチ1	須恵器	鉢		5.8			2/5	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	T 1-1	T 1-003
426	北東トレンチ	黒色 A	杯	13.4			1/5		ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	北東 T 2	北東 T 004
427	北東トレンチ	黒色 A	杯		5.8			1/4	ロクロナデ、回転ケズリ	ミガキのち黒色処理	北東 T 1	北東 T 004
428	北東トレンチ	須恵器	甕	22.2			1/9		ロクロナデ	ロクロナデ	北東 T 3	北東 T 004
429	AST 6	須恵器	杯 B		9			1/4	ロクロナデ、回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	ST 6-1	ST 6-004
430	AST10	土師器	甕 B		9			1/6	縦ハケメ、底面ナデ	縦指ナデ、工具ナデ	ST10-1	ST 10-007
431	BST 4	土師器	杯	13.3	5.95	4.3	1/2	完	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	ST 4-2	ST 4-002
432	BST 4	黒色 A	椀		8			1/3	ロクロナデ、回転糸切、付高台	ミガキのち黒色処理	ST 4-3	ST 4-002
433	BST 4	黒色 A	Ⅲ	8.6			3/8		ロクロナデ	ロクロナデ、黒色処理	ST 4-1	ST 4-002
434	CST 1	灰釉	Ⅲ	12.8			1/6		ロクロナデ	ロクロナデ	ST 1-1	ST 1-001
435	CST 2	黒色 A	杯		7.8			1/4	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	ST 2-1	ST 2-004
436	CST 2	須恵器	杯 A	11.8	5.4	3	1/8	1/2	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	ST 2-2	ST 2-004
437	CST 4	黒色 A	杯	14.4	6.6	4.8	1/6	1/4	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	ST 4-1	ST 4-014
438	CST 4	黒色 A	Ⅲ		6.4			5/8	ロクロナデ、回転ケズリ	ミガキのち黒色処理	ST 4-2	ST 4-014
439	CST 7	黒色 A	Ⅲ		6.4			完	回転ケズリ、付高台	ミガキのち黒色処理	ST 7-1	ST 7-018
440	CST12	土師器	杯	11.6	5.4	3.7	1/5	1/3	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	ST12-1	ST 12-021
441	CST13	須恵器	杯 A	11.8			1/4		ロクロナデ	ロクロナデ	ST13-1	ST 13-022
442	CST14	須恵器	壺		10.6			1/4	ロクロナデ、付高台、底面ナデ	ロクロナデ	ST14-1	ST 14-025
443	A区検	黒色 A	杯	12.4	6	3.1	1/6	1/2	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	検6	検003
444	A区検	黒色 A	Ⅲ	12.3	7.4	2	1/4	完	ロクロナデ、底面回転ケズリ、付高台	ミガキのち黒色処理	検7	検007
445	A区検	須恵器	杯		5			4/5	ロクロナデ、回転糸切、底面墨書	ロクロナデ	検2	検004
446	A区検	須恵器	杯 B		9			1/3	底面回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	検3	検004
447	A区検	須恵器	蓋	15.8			1/6		ロクロナデ	ロクロナデ	検4	検008
448	A区検	灰釉	椀		8.8			1/4	ロクロナデ、底面回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	検1	検001
449	A区検	灰釉	平瓶？	4.6			1/4		ロクロナデ	ロクロナデ	検5	検004
450	B区検	土師器	杯AⅡ	8.6	5.2	1.55	1/12	1/4	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	B検1	B検002
451	B区検	軟須恵	杯	12.8			1/5		ロクロナデ	ロクロナデ	B検6	B検005
452	B区検	灰釉	Ⅲ		7.6			1/4	ロクロナデ、回転ケズリ、回転糸切、付高台	ロクロナデ	B検4	B検002
453	B区検	須恵器	壺		17.2			1/6	回転ケズリ、底面圧痕、付高台	ロクロナデ、工具ナデ	B検5	B検006
454	B区検	須恵器	壺		13			1/4	ロクロナデ、回転ケズリ、底面圧痕、付高台	ロクロナデ、指頭圧痕	B検3	B検003
455	B区検	須恵器	壺		8			1/2	ロクロナデ、回転糸切、付高台	ロクロナデ	B検2	B検002
456	C区検	土師器	ⅢAⅢ	15.1	5.8	3.6	1/2	完	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	検C 1	検C 031
457	C区検	黒色 A	杯	12.2			1/4		ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	検C 2	検C 008
458	C区検	黒色 A	杯		7.2		1/4		ロクロナデ、回転糸切、底面墨書	ミガキのち黒色処理	検C 4	検C 014
459	C区検	黒色 A	椀		6.4			完	ロクロナデ、回転糸切、付高台	ミガキのち黒色処理	検C 5	検C 033
460	C区検	黒色 A	椀		6.7			完	ロクロナデ、回転糸切、付高台	ミガキのち黒色処理	検C 3	検C 023
461	C区検	須恵器	杯 A	13.6	8.8	3.75	1/7	1/4	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	検C 6	検C 043
462	C区検	須恵器	杯 A	12.2	5.9	3.4	1/3	3/5	ロクロナデ、回転糸切	ロクロナデ	検C 9	検C 039
463	C区検	須恵器	杯 B	12.5			1/10		ロクロナデ	ロクロナデ	検C 11	検C 011
464	C区検	須恵器	杯 B		9.6			1/2	ロクロナデ、回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	検C 13	検C 003
465	C区検	須恵器	杯 B		9			1/3	ロクロナデ、回転ケズリ後手持ケズリ、付高台	ロクロナデ	検C 10	検C 003
466	C区検	灰釉	椀		9.1			1/6	回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	検C 8	検C 003
467	C区検	灰釉	椀		7.6			2/5	回転ケズリ、付高台	ロクロナデ	検C 7	検C 015・023
468	C区検	土師器	高杯						工具ナデ、ナデ	工具ナデ、ハケメ	検C 14	検C 029
469	C区検	灰釉	小瓶		5.8			1/5	ロクロナデ、胴部下端回転ケズリ、底面回転糸切	ロクロナデ	検C 12	検C 024
470	C区検	土師器	小型甕	10			1/5		ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ	検C 16	検C 014・027
471	C区検	土師器	小型甕	11.4			1/4		ロクロナデ	ロクロナデ	検C 18	検C 015
472	C区検	土師器	甕	14.8			1/6		ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	検C 15	検C 026
473	C区検	土師器	甕 B	22.65			1/21		ヨコナデ、縦ハケメ	カキメ	検C 17	検C 023

※種別の略称は次のとおり。「黒色 A」黒色土器 A、「軟須恵」軟質須恵器、「灰釉」灰釉陶器、「緑釉」緑釉陶器、「東海系」東海系陶器「古瀬戸」古瀬戸系陶器、「弥生」弥生土器

2　金属製品（第26図、第３表）

金属製品は銭貨２点を含む28点が出土している。これらの出土地点・種類・寸法・初鋳年等については一覧表を参照されたい。これらのうち鉄滓と錆ぶくれが激しいものを除いた18点を図示している。

火打金具(1)　139住のカマド付近から出土している。基部の約１/２と片側の裾部の一部が残存している。

鉄滓　約２～８cmの塊状を呈する滓が８点出土している。このうち土14・21、Ｐ27は近接したところからの出土である。Ｐ27からは２点が出土し、うち１点は片面に灰色砂礫が付着している椀形滓である。

鏃(7)　154住から１点出土している。全長116.0mmの完形品であるが、錆ぶくれが激しく細部がうかがえない。鏃身部が菱形を呈するが、篦被～茎部の形状は不明である。

刀子(14･17)　２点出土している。14は溝17から出土したもので、両側と関の部分を破損しているが現存長62.5mmの小型の刀子である。身部は先端が失われているが、徐々に減幅している。茎部は柄の木質部が残存している。17はＣ区検出面からの出土で、刀子の一部と推定される。

銭貨(9･15)　竪１から咸平元寶(初鋳998年)が１点(9)出土している。また、Ａ区検出面から銭種不明(□□通寶)が１点(15)出土している。

釘(4～6･10･12･13･16)　角釘が７点出土している。頭部が残存しているものは５点あり、すべて上端を叩き延ばした後に頭部を折り曲げたと推定されるもので、頭部の奥行きは比較的短い。全形をうかがえるものは２点のみで、６は全長52.3mm・幅8.0mm、16は現存長77.3mm・幅9.5mmを測る。

その他(2･3･8･11･18)　種類不明が７点あり、５点を図示している。２・11は角釘、８は釘または紡錘車の紡軸、18は鏃の茎部の可能性がある。３は楕円環２個と頭部が環状の楔が連結しているものである。

3　石器（第26図、第４表）

合計19点の石器が出土した。器種の内訳は、つき臼２点、砥石５点、磨石１点、敲石１点、帯飾り(丸鞆)１点、剥片９点である。これらのうち６点を図示し、器種別に記載する。

つき臼(1･2)　１は土129から出土。三角形の扁平亜円礫の一面に径約60mm、深さ約15mmの凹みが観察される。２は156住覆土から出土。扁平円礫の一面中央部に径約70mm、深さ約45mmの凹みが観察され、裏面中央部にも敲打痕跡からなる浅い凹みが観察される。一端に被熱による剥落と推定される剥離面が観察される。１・２は、素材の形状選択、凹みの深さが異なるが、本報告書では同一器種として扱った。

砥石(3～5)　３はＰ122から出土。薄い板状を呈し、表裏２面に研磨面が観察される。図上両側面と下面は節理面または自然面で上端を折損する。器面の一部に煤状物質の付着、被熱による剥落と推定される痕跡が観察される。４は156住覆土から出土。明確な研磨面の観察された面を正面に図示した。形状は、断面長方形の角柱状を呈する。裏面・両側面にも弱い研磨面が観察される。上面・下面は自然面もしくは成形加工を加えた面と考えられるが判然としない。５は144住から出土。図上正面に研磨面と幅１～２mm、深さ１mmほどの断面逆三角形状の溝が数本、裏面一部に煤状物質の付着が観察される。上端部と下端部にシャープな稜線の残る剥離面が数面あるが、打点の観察される剥離面と観察されない剥離面が混在し、通常剥離による剥離面か、折れに伴う剥離面か、被熱による破砕面かは判然としない。

帯飾り(丸鞆)(6)　土129から出土。扁平楕円の一端を直に切り落とした形状を呈する。正面は黒色の光沢を持つ研磨面であるのに対して、側面・下端面及び裏面は光沢を持たない研磨面が観察される。裏面は、内部で貫通する径約２mmの一対の孔が３箇所ある。当初図上の縦方向に２つの孔を開け内部で貫通していたものが欠損し、横から１孔を開けて、欠損した孔に貫通させた部分が２箇所観察される。孔の開け直し痕跡と推定される。石材は、裏面の孔周辺・器面の欠損部は黒灰色のガラス質で、器面の一部に１～２mmの白色多孔質部が観察され、火成岩の一種と考えられる。

4　木製品

C区の土129の底部で木製の円板の破片が出土している。劣化が激しく、接合ができないため径等は不明である。厚さは最大で7㎜を測る。木取りは柾目である。側面に1箇所木釘を打ち込んだ痕跡があり、曲物の底板であると推定される。井戸と推定される土坑からの出土で、つるべとして使用されたかあるいは儀礼的に埋納された可能性がある。

第3表　金属製品一覧表

No.	図No.	種　類	地区	出土地点	材質	寸法（㎜）			重量(g)	備　考
						最大長	最大幅	最大厚		
1	1	火打ち金具	A	139住 カマド付近・北西	鉄	(59.3)	(21.1)	(5.5)	7.3	両端欠
2	2	不明	A	139住 南東覆土	鉄	(60.3)	(10.2)	(7.8)	6.8	棒状　片側欠
3	3	不明	A	141住 No.21	鉄	51.2	29.8	19.6	12.5	楕円環×2、頭部環状の楔1が連結
4	4	釘	A	144住 No.3	鉄	(28.6)	5.2	5.5	0.7	先端欠
5	5	釘	A	144住 No.4	鉄	(57.0)	8.7	8.6	5.0	先端欠
6	6	釘	B	150住 P_5	鉄	52.3	8.0	10.5	4.5	完形、錆ぶくれが激しい
7	7	鏃	A	154住 No.6	鉄	116.0	21.4	13.5	29.6	完形、錆ぶくれが激しい
8		滓	C	155住 南北ベルト南	鉄	46.4	36.9	34.6	37.9	塊状　礫(～17㎜)付着
9	8	不明	C	156住 北西	鉄	(36.1)	(5.2)	(5.1)	1.2	棒状　両側欠
10	9	銭貨	A	竪1　No.1	銅	24.6	24.6	1.1	2.6	咸平元寶(初鋳998年)
11	10	釘	B	竪5　南西側	鉄	(73.4)	13.9	15.2	20.4	下端欠、錆ぶくれが激しい
12		滓	A	土14	鉄	21.4	15.5	12.5	3.7	塊状
13	11	不明	A	土18 No.1	鉄	(63.4)	(7.0)	(7.2)	5.0	棒状
14		滓	A	土21 No.1	鉄	36.5	28.5	21.9	16.5	塊状
15		滓	A	土32 No.1	鉄	51.7	45.5	22.2	59.3	塊状
16	12	釘	A	土32	鉄	(55.0)	(8.7)	(8.8)	3.0	両側欠　湾曲している
17		滓	A	土37	鉄	55.7	36.0	26.8	63.0	椀形滓　片面に灰色の砂礫附着
18		不明	A	溝8	鉄	(44.4)	(10.1)	(10.9)	6.7	棒状　両端欠？　錆ぶくれが激しい
19	13	釘	B	溝12	鉄	(30.3)	(5.7)	(5.8)	1.5	両側欠
20	14	刀子	C	溝17	鉄	(62.5)	(10.0)	(6.5)	4.8	両側欠(身～茎部)、茎部に木質部残
21		滓	A	P27	鉄	79.2	61.8	35.5	218.1	椀形滓、片面に灰色の砂礫附着
22		滓	A	P27	鉄	61.4	58.2	31.1	129.0	塊状　木質附着
23	15	銭貨	A	検出	銅	(18.1)	(24.7)	1.2	1.2	□□通寶、約3/5欠
24		不明	A	検出	鉄	(40.7)	(11.0)	(8.2)	3.3	棒状　両側欠？　錆ぶくれが激しい
25	16	釘	C	検出面 N32ライン	鉄	(77.3)	(9.5)	(9.7)	8.9	下端欠
26		滓	C	検出面 N32・E10東	鉄	39.6	26.8	38.0	24.5	塊状
27	17	刀子？	C	検出面	鉄	(43.2)	(19.1)	(7.1)	6.7	両側欠
28	18	不明	C	検出面	鉄	(22.5)	(6.8)	(4.8)	1.2	棒状　両側欠

第4表　石器一覧表

No.	図No.	器　種	地区	出土地点	石　材	寸法（㎜）			重量(g)	備　考
						最大長	最大幅	最大厚		
1	2	つき臼	C	156住	安山岩	130	147	74	1834.0	被熱破損
2	1	つき臼	C	土129 No.8	安山岩	165	195	65	2665.0	
3	5	砥石	A	144住	砂岩	138	87	65	717.8	被熱　断面逆三角の溝
4	4	砥石	C	156住 No.5	砂岩	100	57	24	274.0	
5		砥石	B	149住 No.4	砂岩	53	63	32	228.5	折れ　研磨面1面
6	3	砥石	A	P122 No.1	凝灰岩	48	31	9	17.6	被熱　煤状物質付着　板状
7		砥石	A	竪2	凝灰岩	38	29	26	32.8	破片（研磨面2面）
8		磨石	A	139住	安山岩	42	40	34	77.2	球状　一部研磨痕跡有り
9		敲石	C	155住 No.1	粘板岩	177	62	36	476.2	棒状
10	6	帯飾り	C	土129	(火成岩)	30	42	7	17.6	丸鞆
11		剥片	B	145住	安山岩	105	96	25	253.2	被熱　煤状物質付着
12		剥片	C	155住	変成砂岩	57	38	8	13.5	
13		剥片	C	155住	安山岩	21	29	4	2.0	
14		剥片	C	156住	石英	59	35	32	69.1	
15		剥片	B	竪5	玉随	22	16	7	1.8	
16		剥片	B	土74	黒曜石	19	30	6	3.7	折れ　器面転磨
17		剥片	B	P96	粘板岩	69	35	2	6.8	
18		剥片	C	調査区南壁	変成砂岩	46	44	5	32.8	器面に敲打痕あり　折れ
19		剥片	C	自然流路	粘板岩	46	27	3	3.3	折れ

第Ⅳ章　総　括

今回の調査では奈良～中世の遺構と、弥生～中世の遺物を確認することができた。なかでも奈良・平安時代の竪穴住居址は21軒が検出され、特殊な遺物として緑釉陶器・転用硯・石製丸鞆などが出土している。こうした出土品は本遺跡の過去の調査でも出土しており、県町遺跡の特殊性を改めてうかがわせるものである。

県町遺跡は東西750ｍ、南北720ｍの広範囲にわたる、弥生～平安時代の複合集落遺跡として知られている。本遺跡は今回を含めて14次にわたる発掘調査が行われている。これまでの発掘調査は、あがたの森公園と松本県ヶ丘高等学校（以下、「県ヶ丘高校）に偏在しており、11次にわたる調査が行われている。この他では、蚕糸記念公園北側（第11次）とカタクラモールジャスコ東松本店の東側（第13次）で発掘調査が行われただけである。過去の調査成果を竪穴住居の時代別に概観したものが下表である。

弥生時代は、43軒の竪穴住居があがたの森公園東半から県ヶ丘高校敷地内で検出されており、この一帯に大型集落が存在していたと推定される。古墳時代は、中期末の住居が県ヶ丘高校内南側で４軒見つかっているだけである。本遺跡内には県塚１・２号古墳が存在する。両古墳の実態は不明であるが、もし本当に古墳であれば、古墳時代のこの周辺は墓域であり、集落は別に所在していたと考えられよう。

奈良・平安時代になると集落域は拡大し、県ヶ丘高校、あがたの森公園西半～蚕糸記念公園北側、さらに今回調査地まで広く及んでいる。現在までに94軒の竪穴住居が検出されているが、調査範囲から考えてこれらはごく一部と考えられる。なお、今回調査地の西側90ｍの第13次調査地点では、該期の集落が検出されていないので、集落域は今回調査地の西側付近で終わると推測される。中世以降については不明なところが多い。今回の調査で住居址は確認されていないが、鎌倉～室町時代と考えられる竪穴状遺構５基が見つかっている。また、第13次調査においても内耳鍋が出土していることから、今回の調査地周辺に中世の集落が存在する可能性が高いことを付記しておきたい。以上、これまでの県町遺跡の調査を概観したが、調査範囲は遺跡の一部にしか及んでいない。遺跡の実態や性格は不明な点が多く、今後の調査が期待される。

過去の発掘調査

調　査	年　度	調査面積	調　査　原　因	竪穴住居址の時期				報告書
				弥　生	古　墳	奈・平	不明	
１次	1979	※4000㎡	あがたの森公園造成	2	－	1	－	文献１
２次	1984	1338㎡	あがたの森公園　駐車場建設	17	－	－	－	文献２
３次	1985	1372㎡	あがたの森公園造成	21	－	1	－	文献２
４次	1986	853㎡	松本県ヶ丘高等学校　特別教室棟建設	－	－	13	－	文献２
５次	1987	696㎡	松本県ヶ丘高等学校　本館建設	2	4	21	－	文献２
６次	1988	84㎡	松本県ヶ丘高等学校　部室棟建設	－	－	2	－	文献２
７次	1986	6㎡	松本県ヶ丘高等学校　Ｕ字溝埋設	－	－	2	－	文献２
８次	1989	48㎡	松本県ヶ丘高等学校　倉庫建設	－	－	2	－	文献２
９次	1991	330㎡	旧制高等学校記念館建設	－	－	－	－	－
10次	1995	40㎡	あがたの森公園　貯水槽設置	－	－	－	－	－
11次	1996	662㎡	大蔵省関東財務局公務員宿舎建設	－	－	4	－	文献３
12次	2001	1200㎡	松本県ヶ丘高等学校　体育館建設	1	－	27	8	文献４
13次	2004	170㎡	マンション建設工事	－	－	－	－	－
14次	2007	595㎡	マンション建設工事	－	－	21	－	本　書
－	－	－	計	43	4	94	8	

※１次はグリッド調査のため対象面積

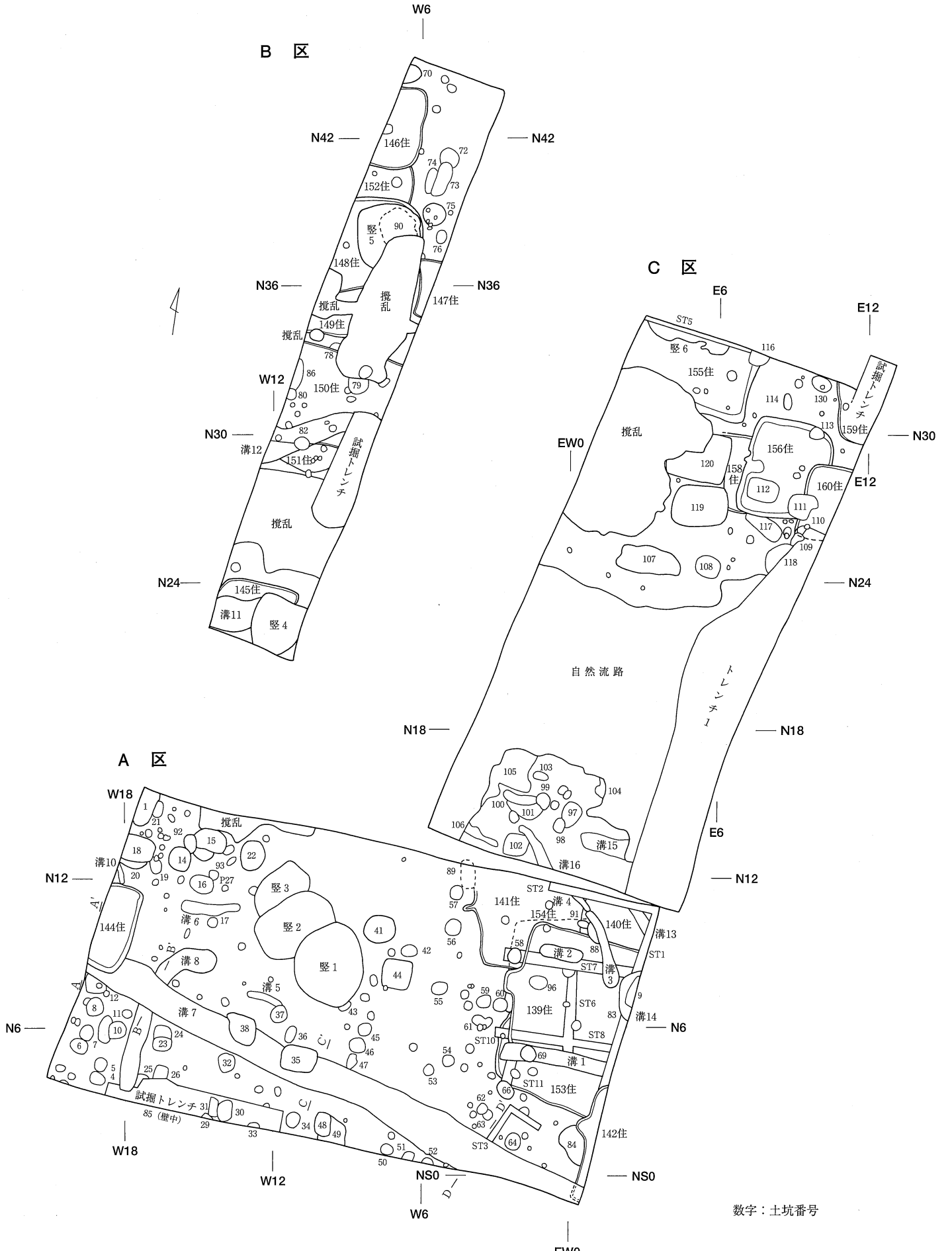
既刊報告書（発行はいずれも松本市教育委員会）

文献１　松本市文化財調査報告№19『長野県松本市あがた遺跡発掘調査報告書』1981.3

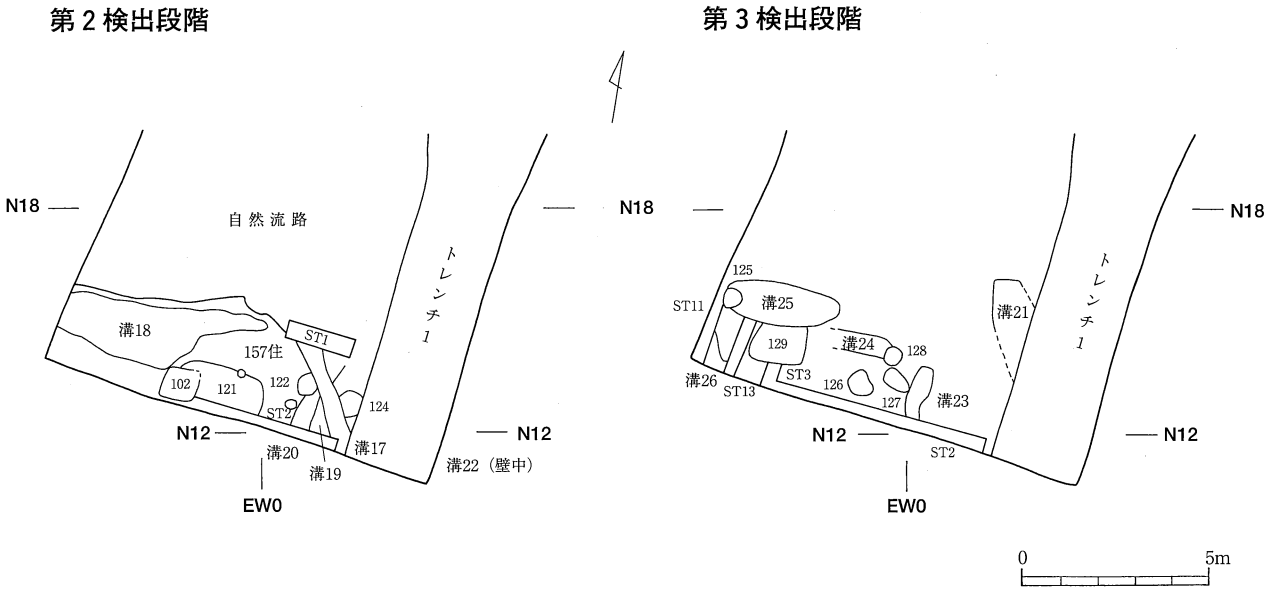
文献２　松本市文化財調査報告№82『松本市県町遺跡―緊急発掘調査報告書―』1990.3

文献３　松本市文化財調査報告№128『長野県松本市県町遺跡Ⅺ―緊急発掘調査報告書―』1997.3

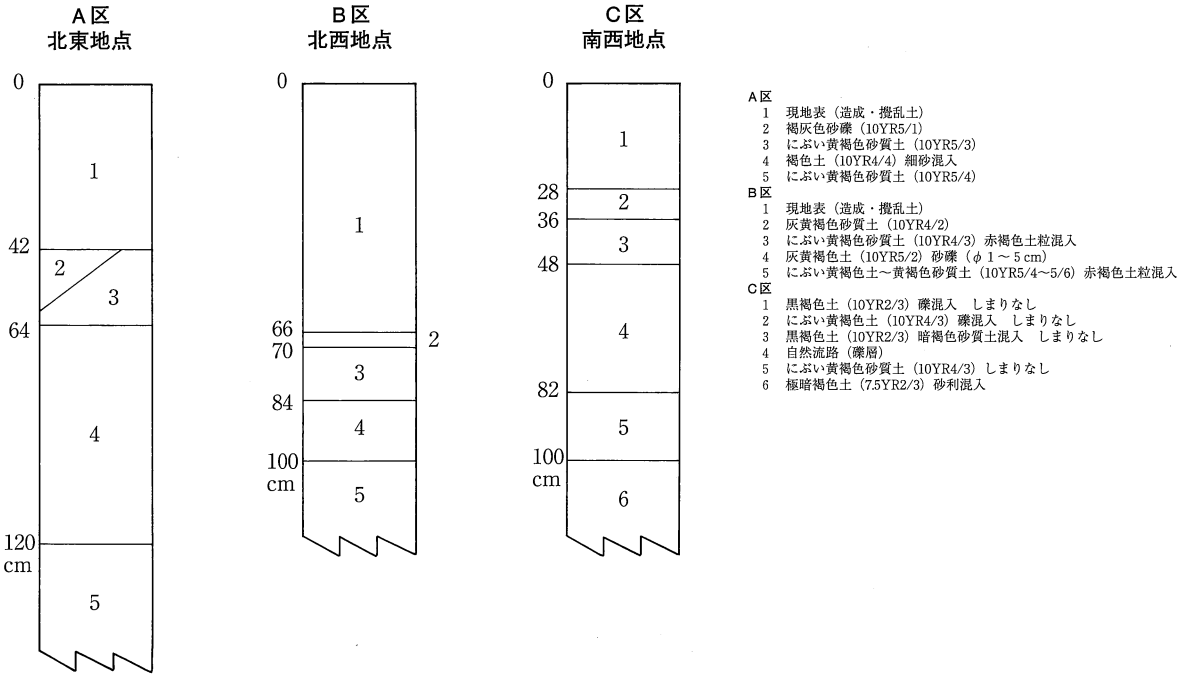
文献４　松本市文化財調査報告№165『長野県松本市県町遺跡ⅫⅠ―緊急発掘調査報告書―』2003.3



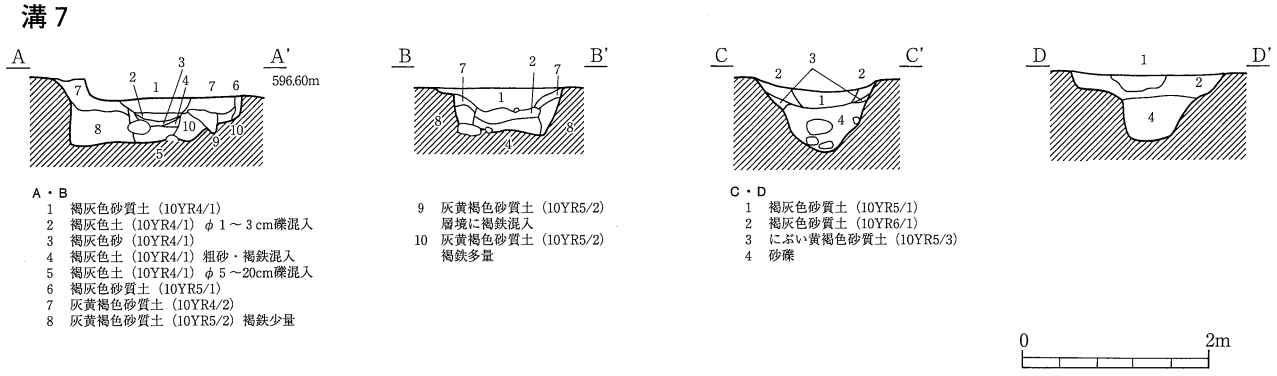
第3図　遺構配置図（A～C区）



第4図　遺構配置図（C区南側）

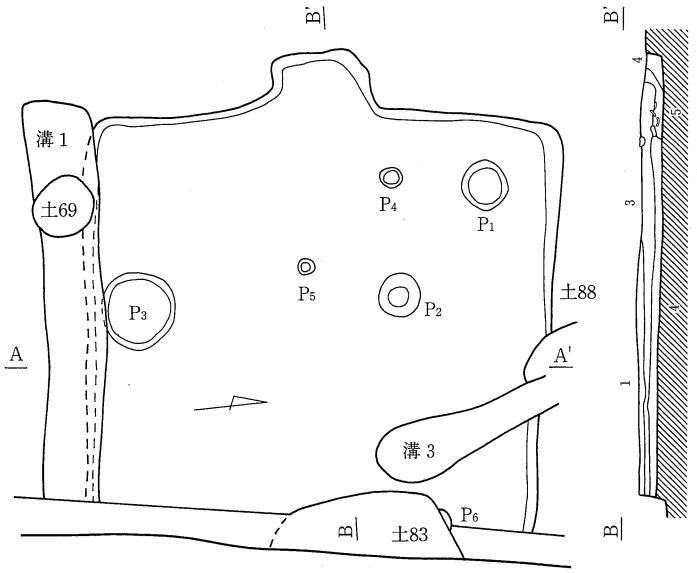


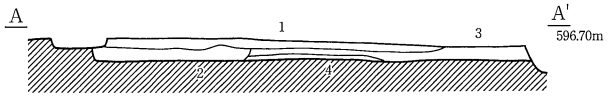
第5図　基本土層図



第6図　溝状遺構土層図

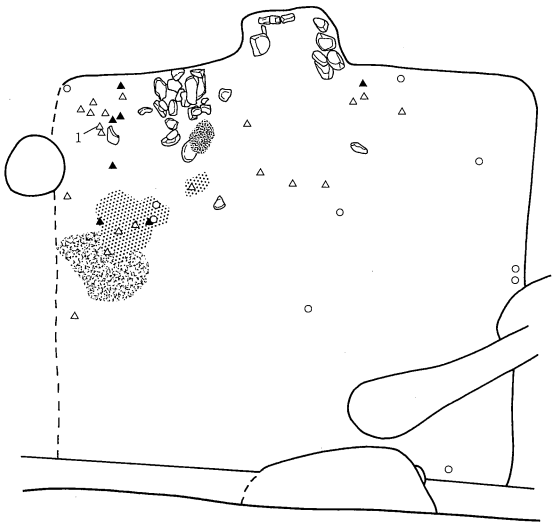
第139号住居趾



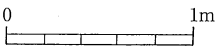


1　灰黄褐色砂質土（10YR5/2）炭化物少量
2　灰黄褐色砂質土（10YR5/2）炭化物少量、焼土多量
3　灰黄褐色砂質土（10YR4/2）炭化物少量、焼土多量
4　灰黄褐色砂質土（10YR5/2）炭化物・黄褐色砂粒少量、焼土多量
5　暗褐色土（10YR3/3）炭化物中量、焼土少量

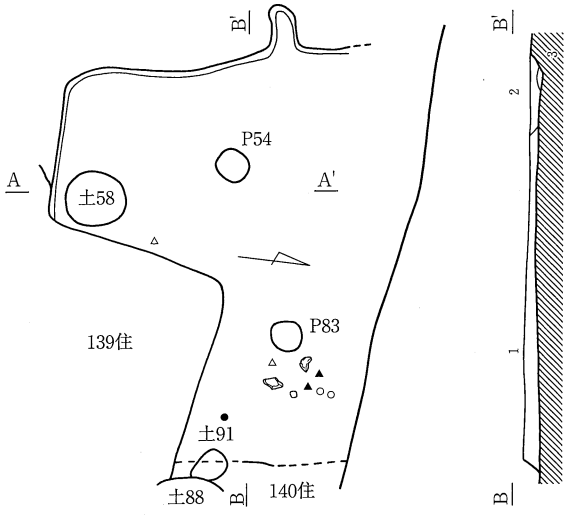
出土状況

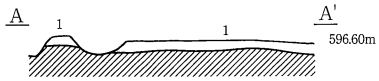


カマド出土状況

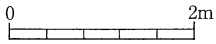


第141号住居趾

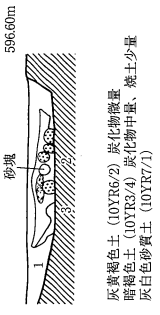




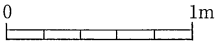
1　灰黄褐色土（10YR5/2）灰色土粒中量
2　暗褐色土（10YR3/4）炭化物・焼土中量
3　灰黄褐色土（10YR5/2）炭化物微量



カマド出土状況

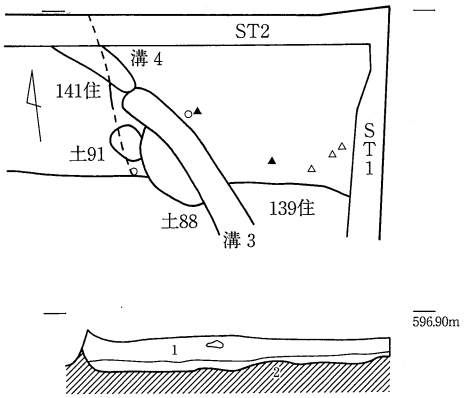


1　灰黄褐色土（10YR6/2）炭化物微量
2　暗褐色土（10YR3/4）炭化物中量、焼土少量
3　灰白色砂質土（10YR7/1）



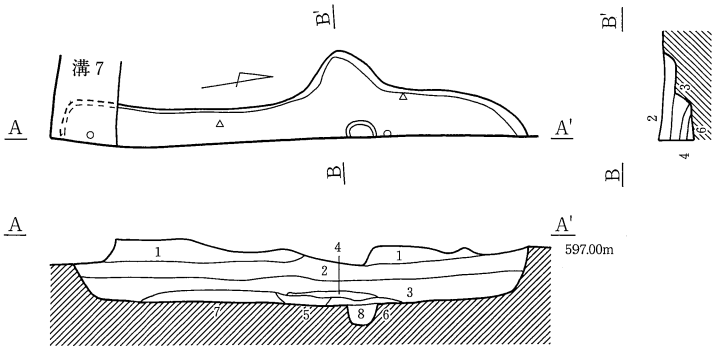
第７図　竪穴住居址(1)

第140号住居址



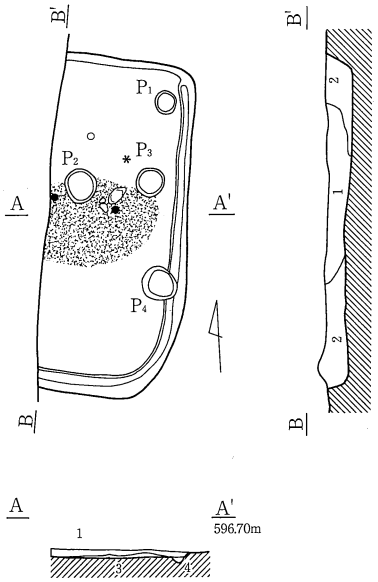
1　灰黄褐色土（10YR4/2）炭化物少量、焼土微量
2　褐灰色土（10YR4/1）焼土少量、鉄分中量

第142号住居址



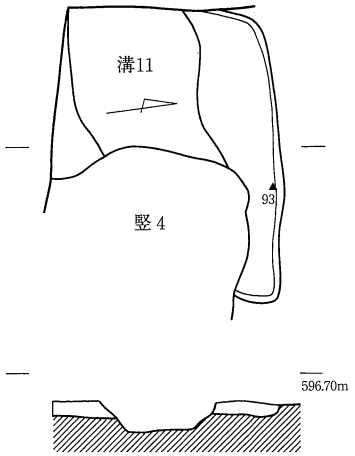
1　褐灰色砂質土（10YR4/1）
2　褐灰色砂質土（10YR4/1）炭化物少量
3　褐灰色砂質土（10YR4/1）炭化物・焼土少量
4　灰黄褐色砂質土（10YR4/2）
5　灰黄褐色砂質土（10YR4/2）炭化物・焼土多量
6　灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黄褐色土塊多量
7　灰黄褐色砂質土（10YR4/2）
8　灰黄褐色砂質土（10YR4/2）焼土・黄褐色土塊少量

第144号住居址



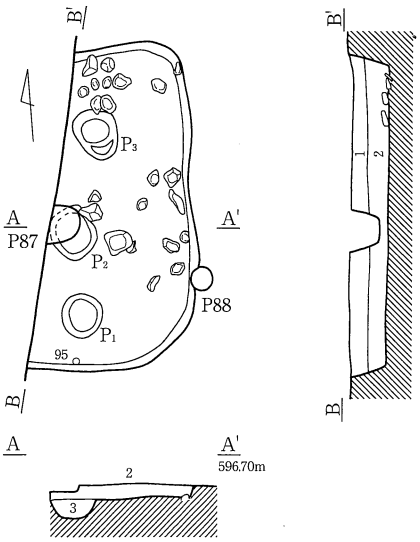
1　褐灰色砂質土（10YR4/1）
2　褐灰色砂質土（10YR5/1）焼土少量
3　褐灰色砂質土（10YR5/1）炭化物多量
4　褐灰色砂質土（10YR5/1）黄褐色土塊多量

第145号住居址



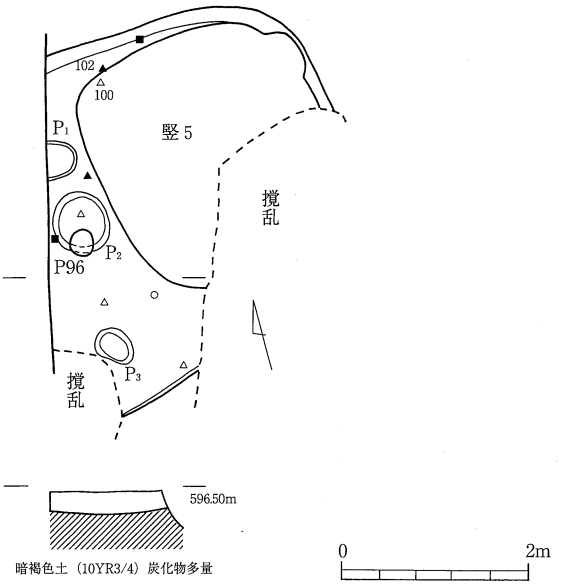
暗褐色土（10YR3/4）※褐鉄含む

第146号住居址



1　暗褐色砂質土（10YR3/4）炭化物少量
2　灰黄褐色砂質土（10YR4/2）炭化物少量　※褐鉄の集積あり
3　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）炭化物少量

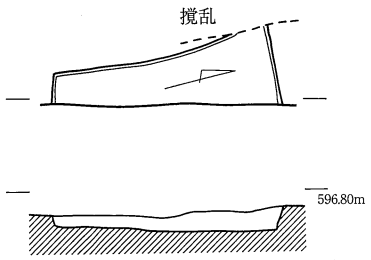
第148号住居址



暗褐色土（10YR3/4）炭化物多量

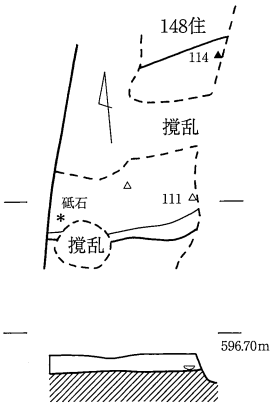
第 8 図　竪穴住居址(2)

第147号住居址



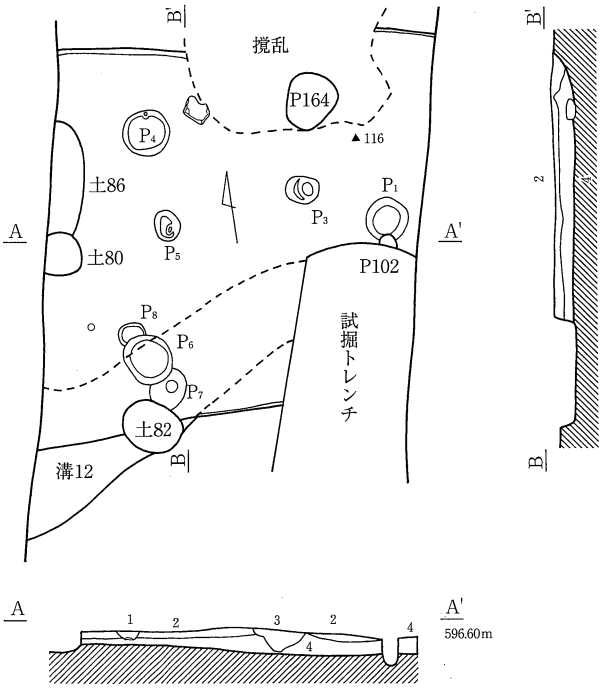
暗褐色砂質土（10YR3/3）炭化物少量

第149号住居址



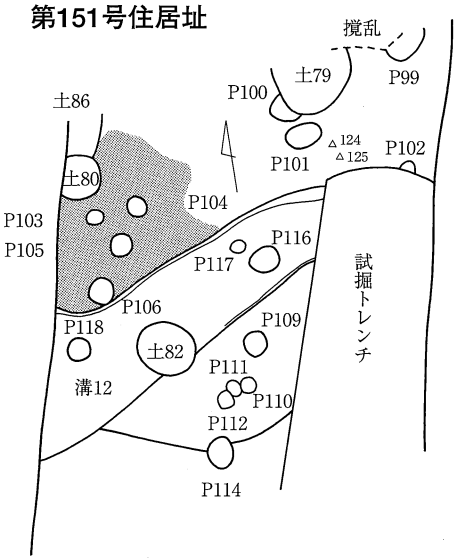
にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）炭化物少量

第150号住居址

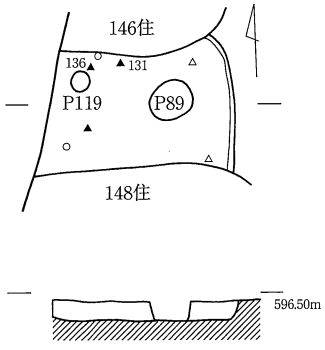


1　暗褐色砂質土（10YR3/3）
2　暗褐色砂質土（10YR3/3）炭化物少量
3　黒褐色砂質土（10YR2/3）φ1～5cm礫少量
4　にぶい黄褐色粘質土（10YR4/3）

第151号住居址

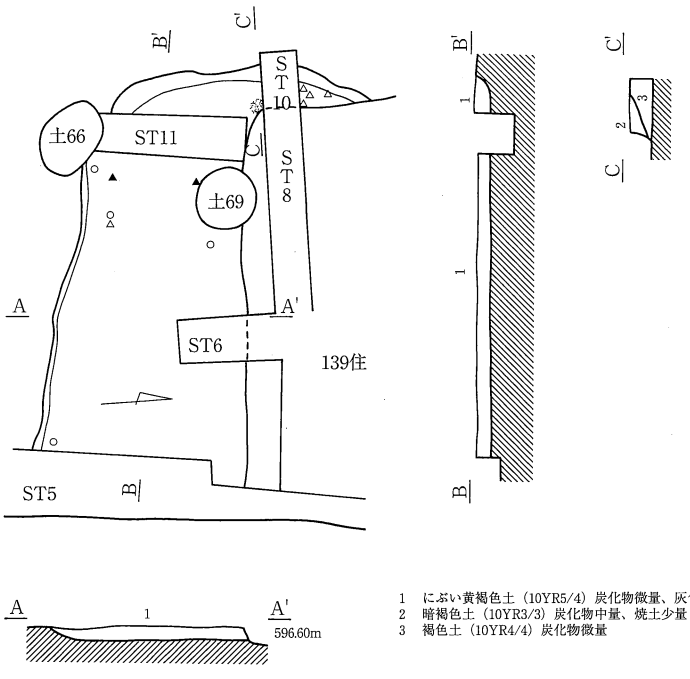


第152号住居址



暗褐色土（10YR3/4）炭化物少量

第153号住居址

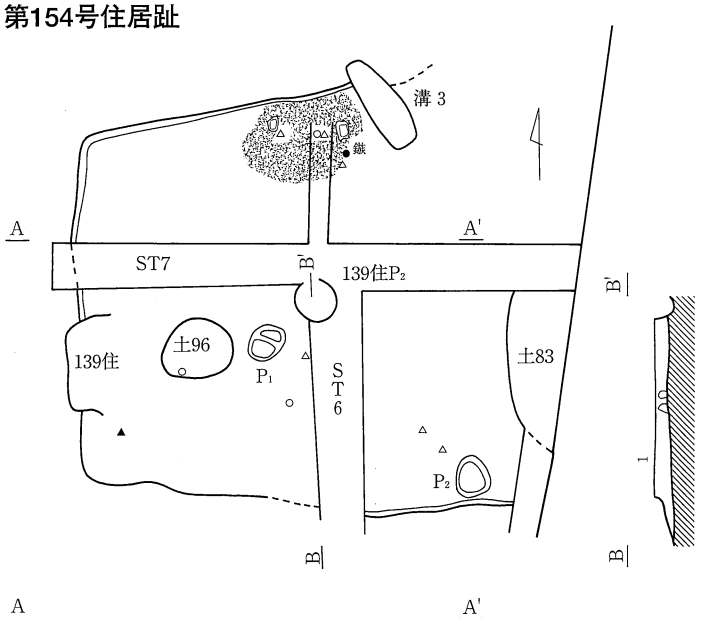


1　にぶい黄褐色土（10YR5/4）炭化物微量、灰色土粒中量
2　暗褐色土（10YR3/3）炭化物中量、焼土少量
3　褐色土（10YR4/4）炭化物微量

0　2m

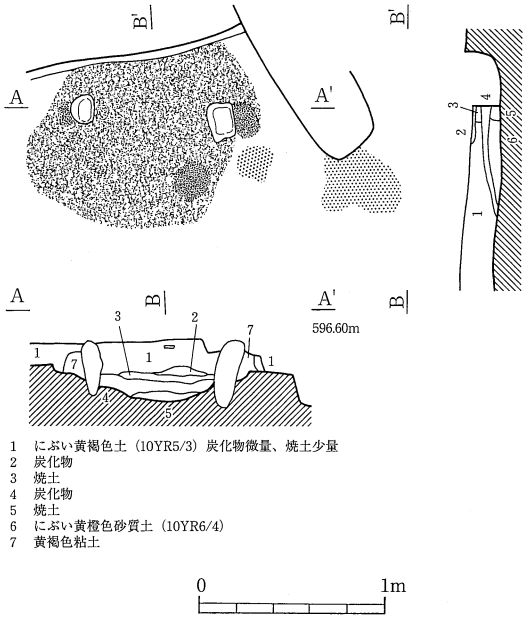
第9図　竪穴住居址(3)

第154号住居趾



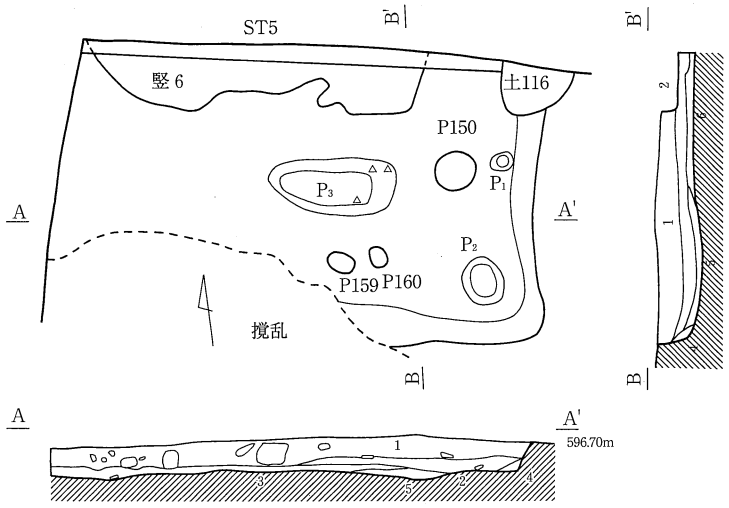
1 褐灰色土（10YR6/1）炭化物・焼土微量
2 灰黄褐色砂質土（10YR5/2） ※地山

カマド出土状況



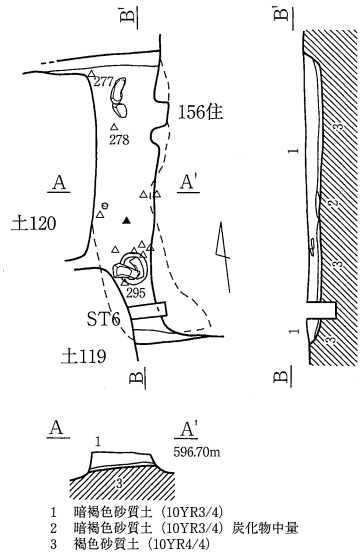
1 にぶい黄褐色土（10YR5/3）炭化物微量、焼土少量
2 炭化物
3 焼土
4 炭化物
5 焼土
6 にぶい黄橙色砂質土（10YR6/4）
7 黄褐色粘土

第155号住居趾



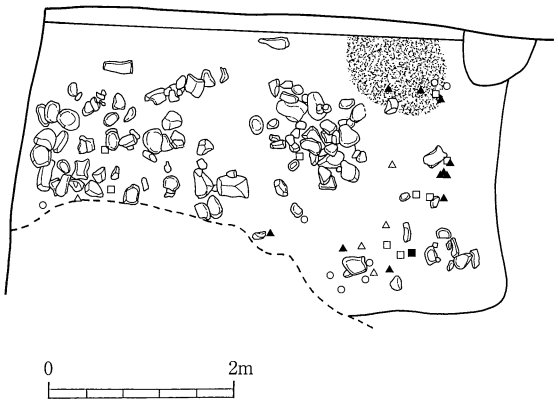
1 褐色砂質土（10YR4/4）φ1～40cm礫微量
2 褐色砂質土（10YR4/4）炭化物微量
3 暗褐色砂質土（10YR3/4）φ1～2cm礫微量
4 褐色砂質土（10YR4/4）
5 暗褐色砂質土（10YR3/4）炭化物微量 しまりなし
6 暗褐色砂質土（10YR3/4）φ1～5cm礫中量

第158号住居趾

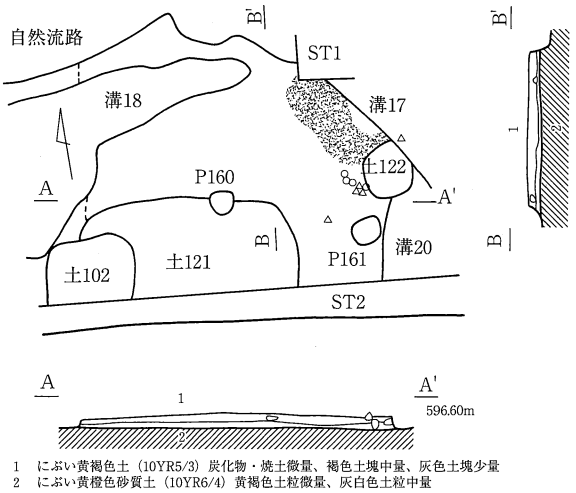


1 暗褐色砂質土（10YR3/4）
2 暗褐色砂質土（10YR3/4）炭化物中量
3 褐色砂質土（10YR4/4）

出土状況



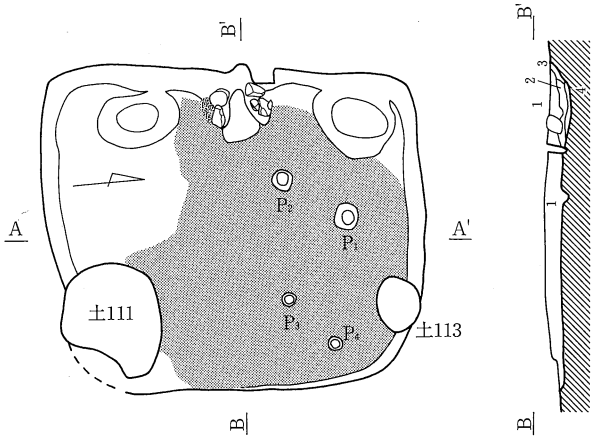
第157号住居趾

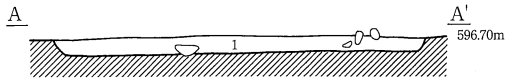


1 にぶい黄褐色土（10YR5/3）炭化物・焼土微量、褐色土塊中量、灰色土塊少量
2 にぶい黄橙色砂質土（10YR6/4）黄褐色土粒微量、灰白色土粒中量

第10図 竪穴住居址(4)

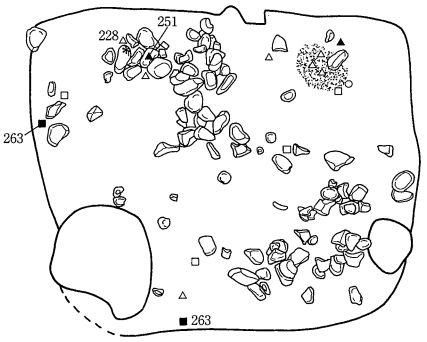
第156号住居址



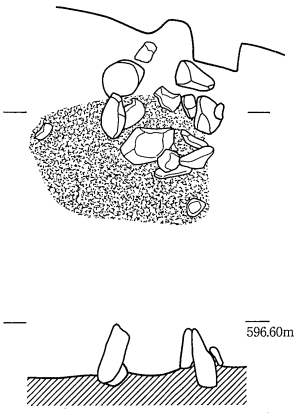


1　にぶい黄褐色砂質土（10YR5/3）炭化物微量
2　炭化物
3　暗褐色砂質土（10YR3/3）
4　褐色砂質土（10YR4/4）炭化物少量

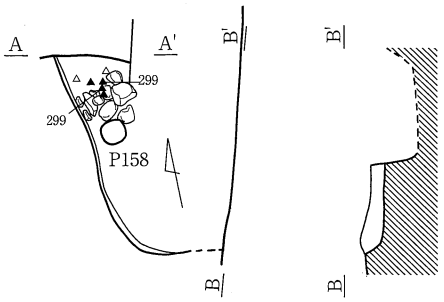
出土状況

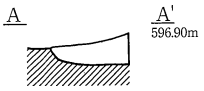


カマド出土状況



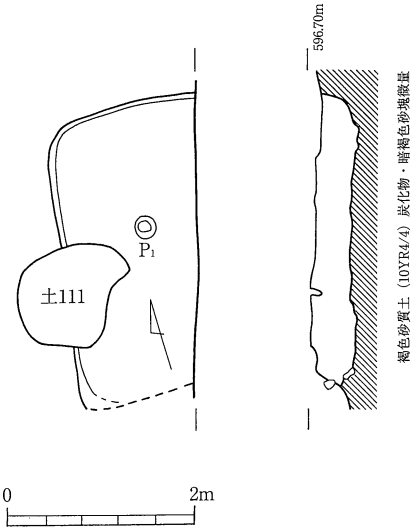
第159号住居址



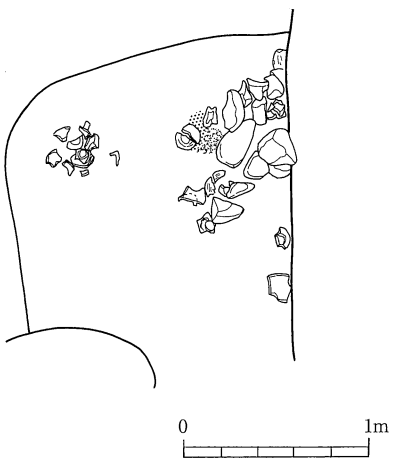


暗褐色砂質土（10YR3/3）炭化物・焼土微量

第160号住居址

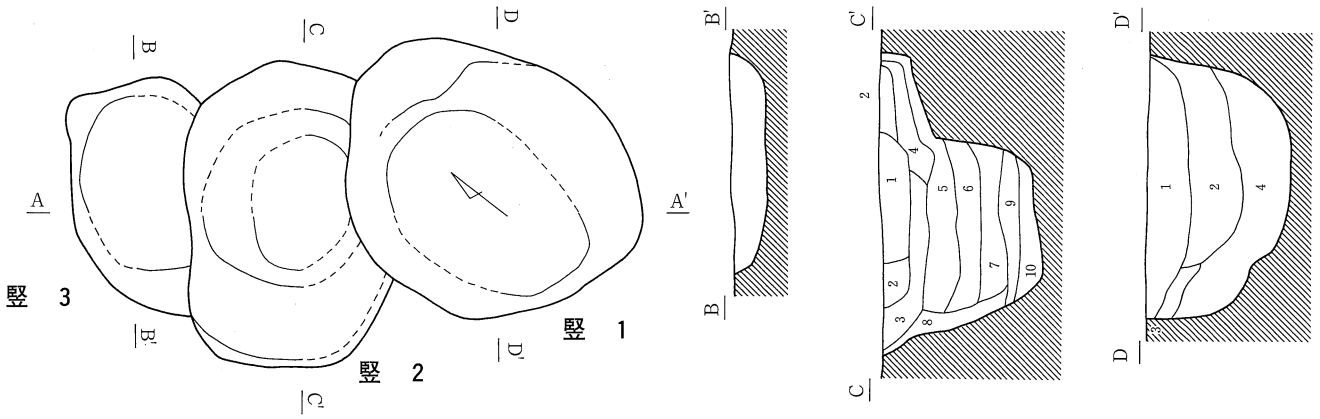


出土状況



第11図　竪穴住居址(5)

第１・２・３号竪穴状遺構

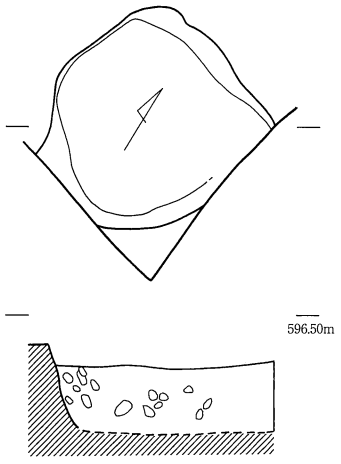


竪1
1　にぶい黄褐色砂質土（10YR5/3）φ１～５cm礫・焼土少量
2　灰黄褐色砂質土（10YR4/2）焼土少量
3　にぶい黄褐色砂質土（10YR5/3）φ１～３cm礫多量　しまりなし
4　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）φ１～５cm礫少量　しまりなし

竪2
1　褐灰色砂質土（10YR4/1）φ１～５cm礫・焼土少量
2　灰黄褐色砂質土（10YR5/2）焼土少量
3　褐灰色砂質土（10YR4/1）焼土少量
4　褐灰色砂質土（10YR4/1）焼土・黄褐色土塊少量
5　にぶい黄褐色砂質土（10YR5/3）
6　褐灰色砂質土（10YR4/1）黄褐色土塊少量
7　灰黄褐色砂質土（10YR4/2）
8　褐灰色砂質土（10YR4/1）φ１～５cm礫少量　しまりなし
9　灰黄褐色砂質土（10YR4/2）
10　褐灰色砂質土（10YR4/1）φ１～10cm礫多量

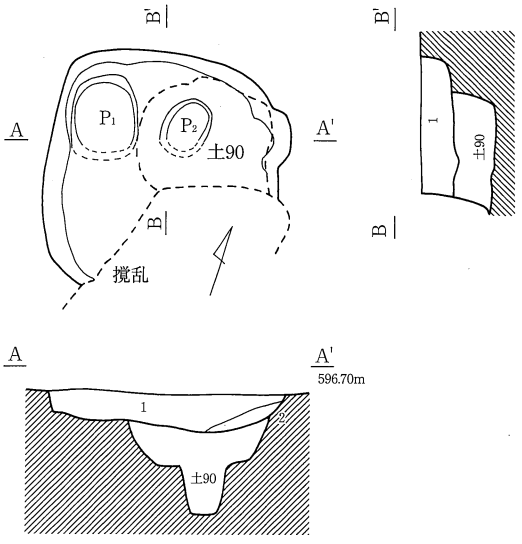
竪3
にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）φ10～15cm礫・焼土多量

第４号竪穴状遺構



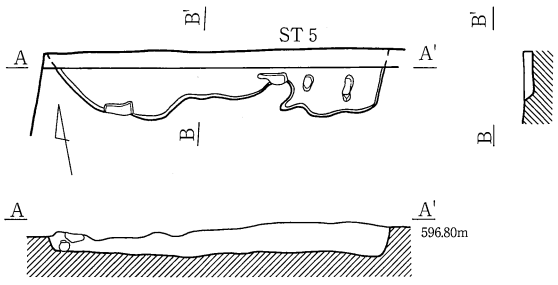
暗オリーブ褐色砂質土（2.5YR3/3）礫多量

第５号竪穴状遺構

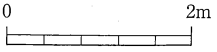


1　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）φ１～５cm礫・焼土少量
2　にぶい黄褐色砂質土（10YR5/3）礫少量　※褐鉄の集積あり

第６号竪穴状遺構

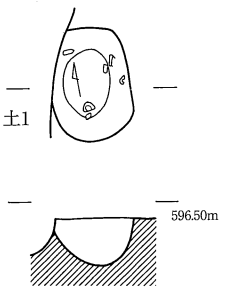


褐色砂質土（10YR4/4）φ１cm礫微量　しまりなし



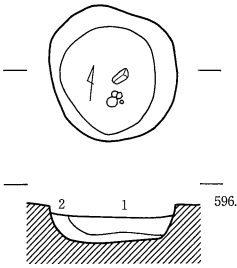
第12図　竪穴状遺構

土21



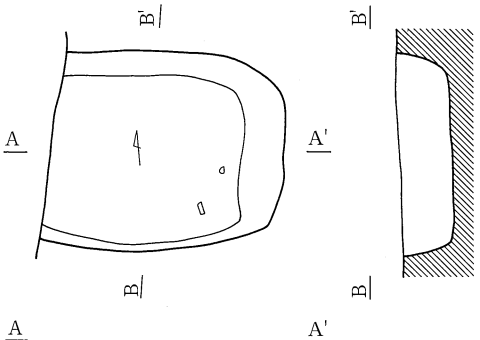
褐色砂質土（10YR4/4）炭化物微量

土32



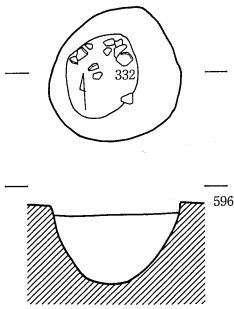
1　暗褐色砂質土（10YR3/4）炭化物・焼土少量
2　褐色砂質土（10YR4/4）炭化物少量

土18



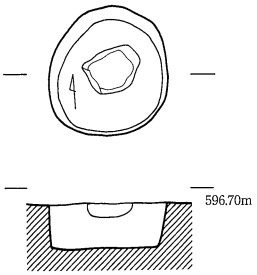
暗褐色砂質土（10YR3/4）φ5 cm礫・炭化物微量

土37



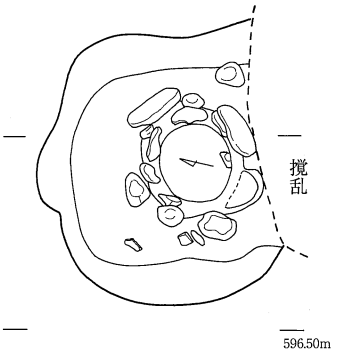
褐色砂質土（10YR4/4）炭化物微量、褐色土粒少量

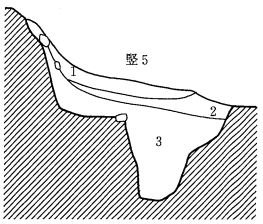
土64



褐色砂質土（10YR4/4）炭化物微量

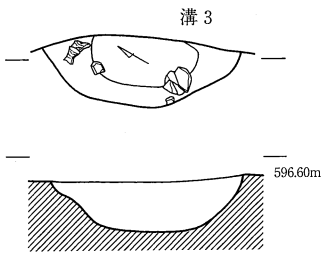
土90





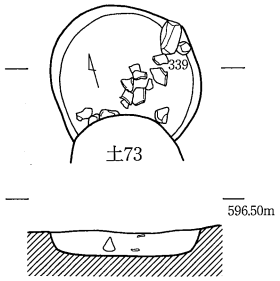
1　にぶい黄褐色粘質土（10YR4/3）　※焼骨片含む
2　にぶい黄褐色土（10YR5/4）しまりあり
3　暗褐色粘質土　※褐鉄含む

土88



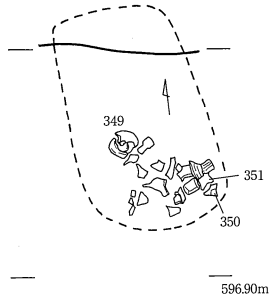
灰黄褐色土（10YR5/2）炭化物微量

土72

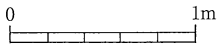


暗褐色砂質土（10YR3/4）焼土微量

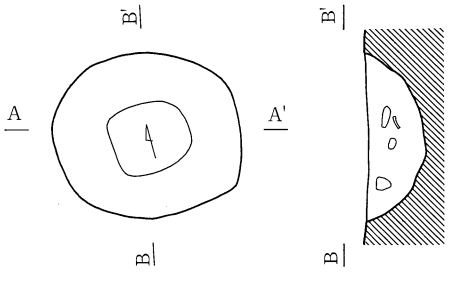
土89



褐灰色土（10YR5/1）炭化物微量



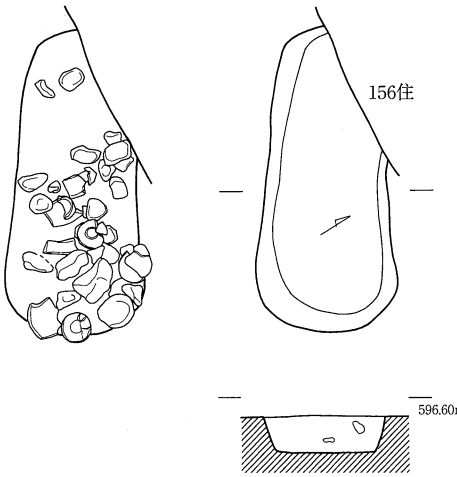
土108



にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）φ10～20cm礫多量

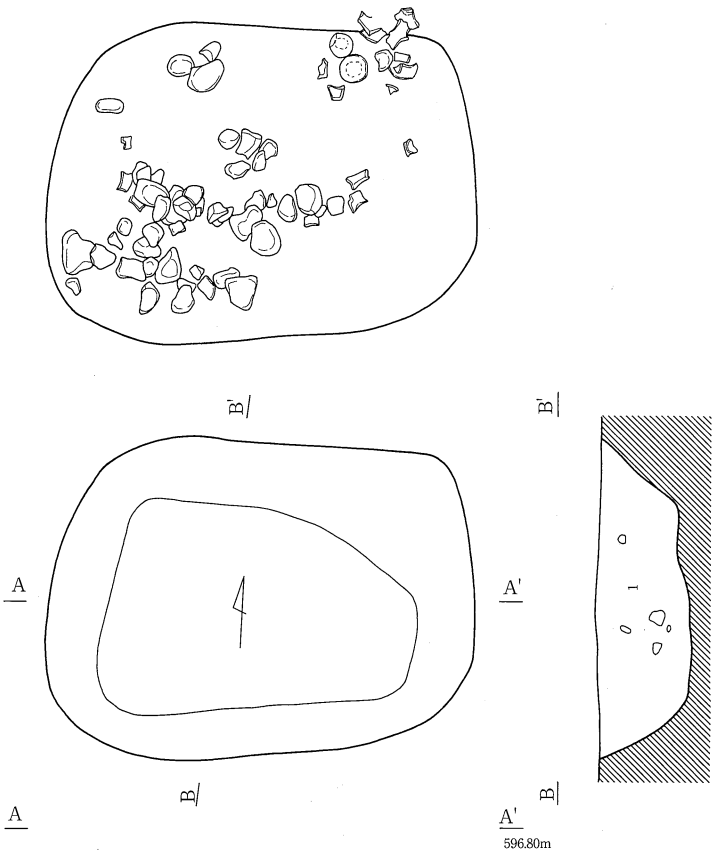
第13図　土坑(1)

土117



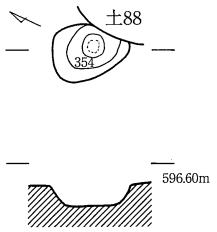
にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）炭化物微量

土119

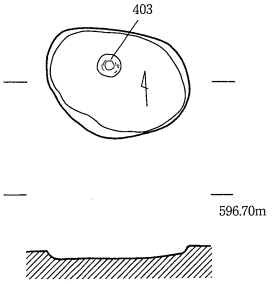


1　褐色砂質土（10YR4/4）φ1～30cm礫・炭化物微量
2　褐色砂質土（10YR4/6）

土91

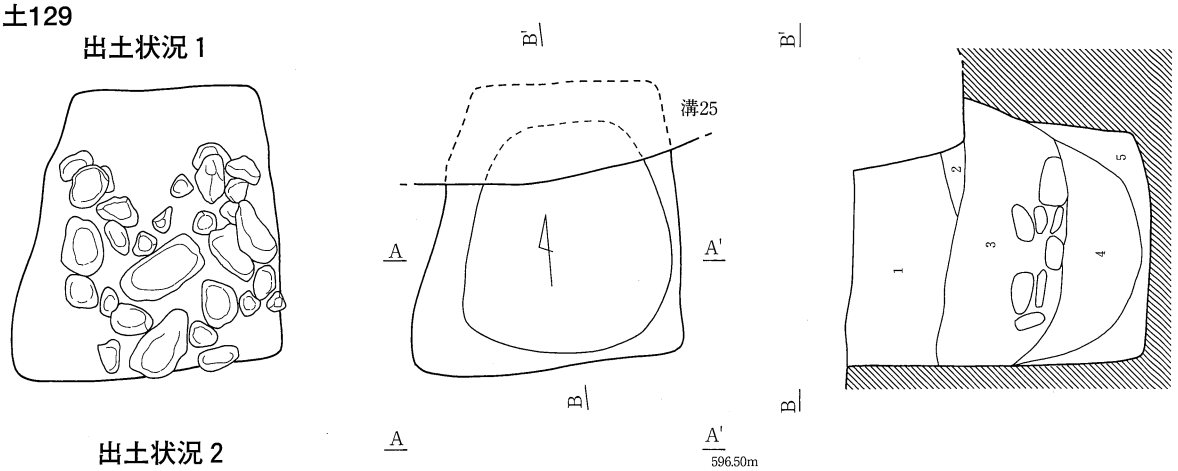


土130

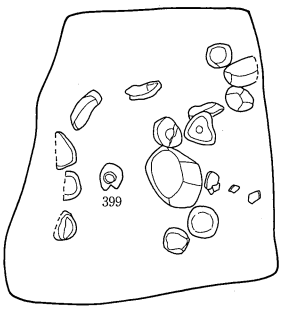


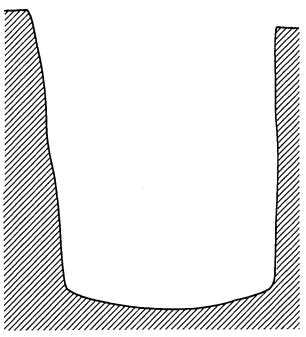
土129

出土状況 1



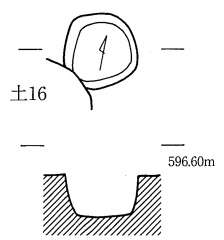
出土状況 2

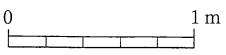




1　灰黄褐色粘質土（10YR6/2）
　φ1～40cm礫・白灰色土塊中量、褐色土粒微量
2　灰白色粘質土（10YR7/1）鉄分中量
3　暗褐色土（10YR3/3）
4　褐灰色粘質土（10YR5/1）
　上部及び下部に鉄分が帯状に入る
5　砂礫層（φ1～3cm）

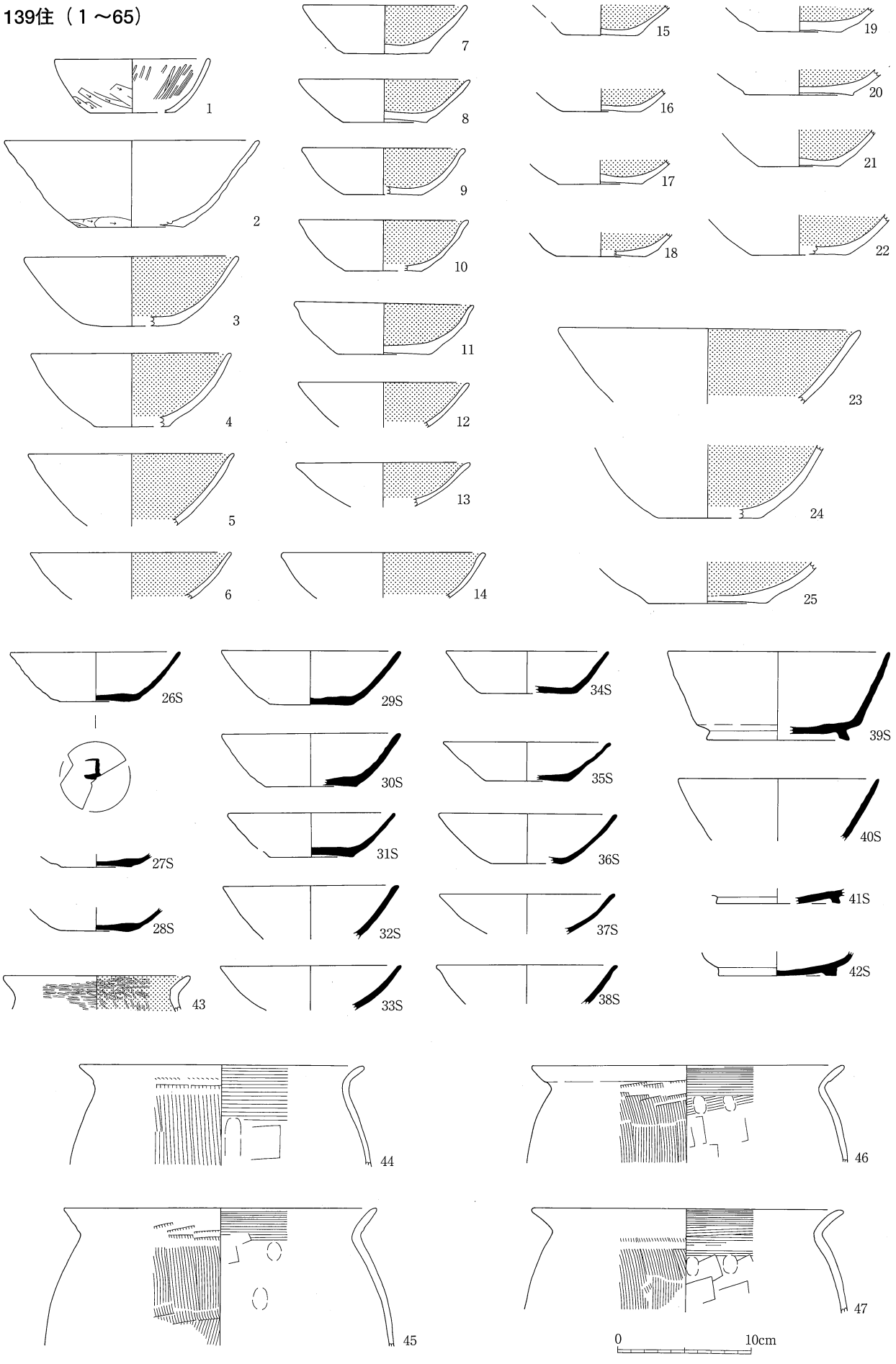
P27



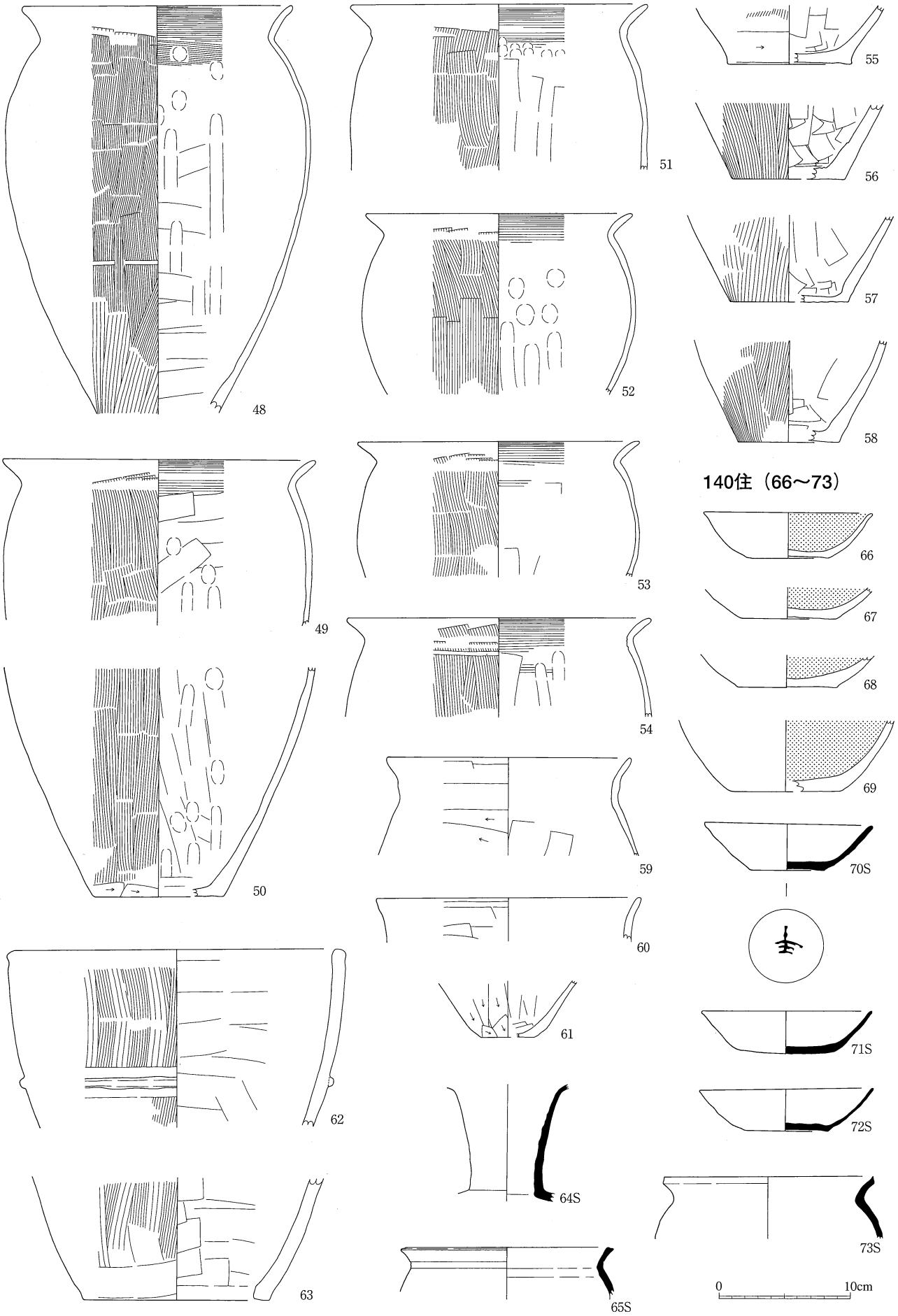


第14図　土坑(2)

139住（1～65）

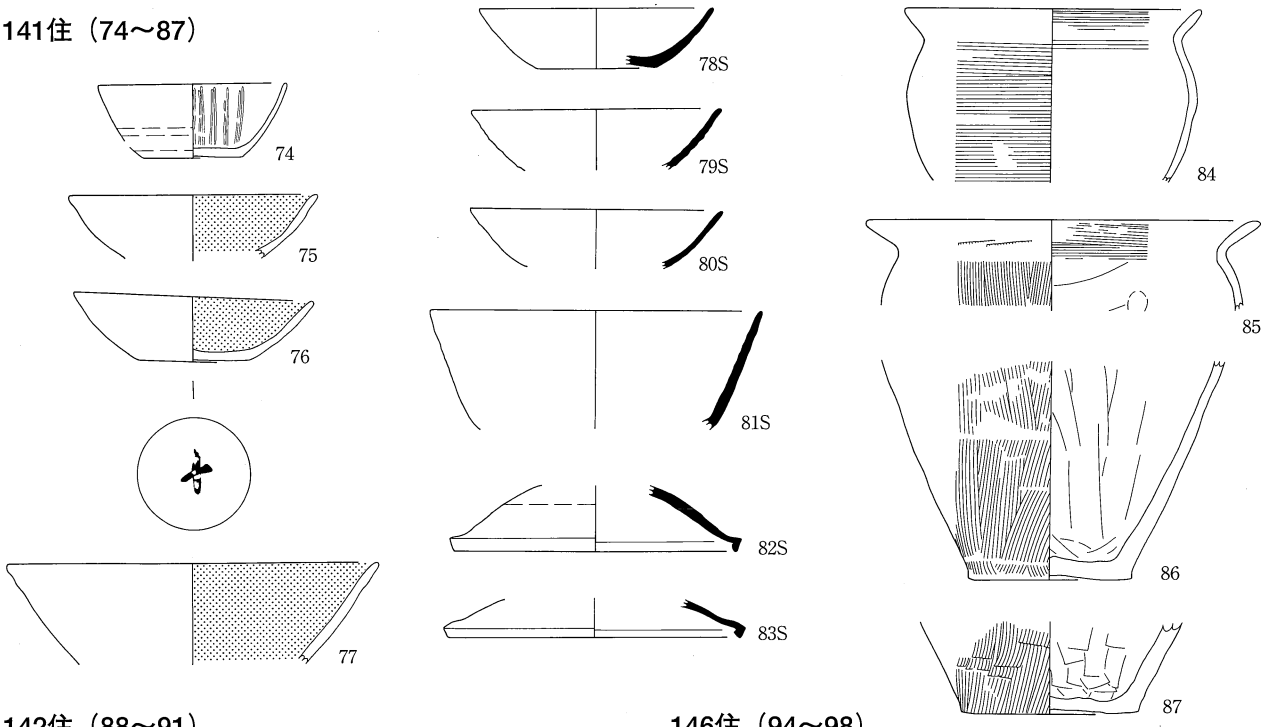


第15図　土器・陶磁器(1)

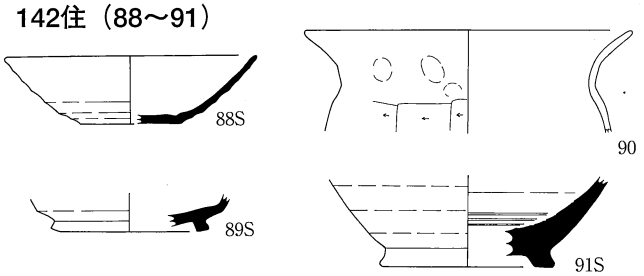

48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
140住（66～73）
66
67
68
69
70S
71S
72S
73S
59
60
61
62
63
64S
65S
0
10cm

第16図　土器・陶磁器(2)

141住（74～87）

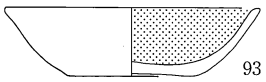


142住（88～91）

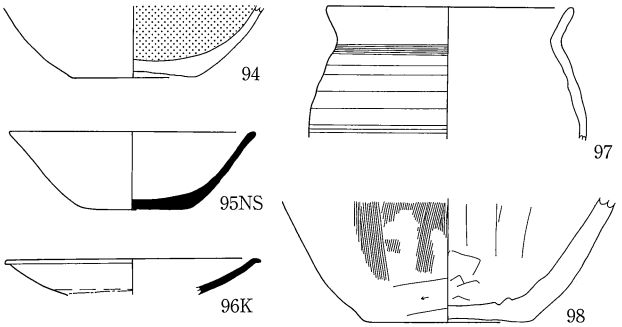


144住（92）

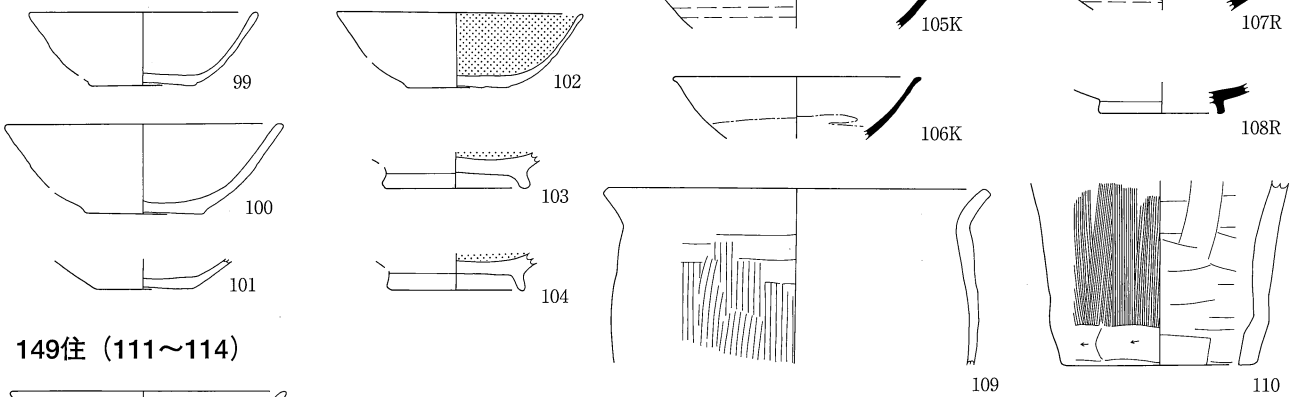
145住（93）



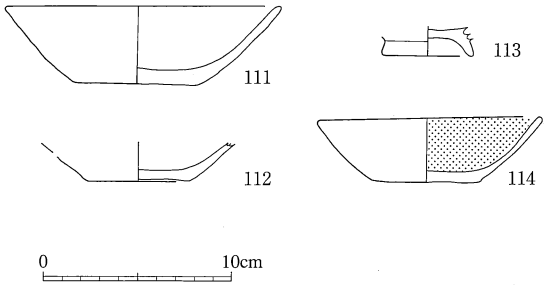
146住（94～98）



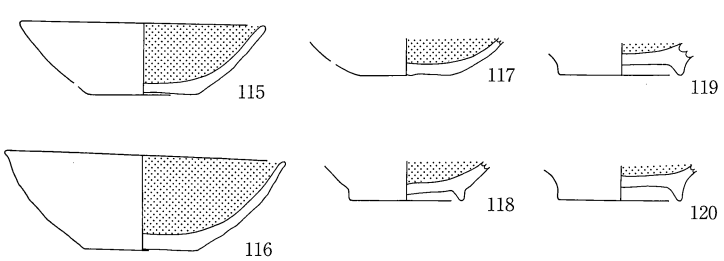
148住（99～110）



149住（111～114）



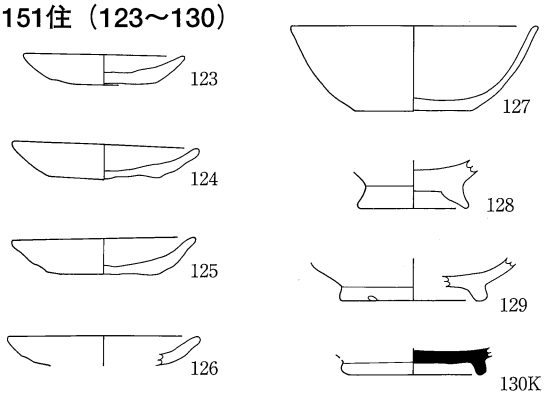
150住（115～120）



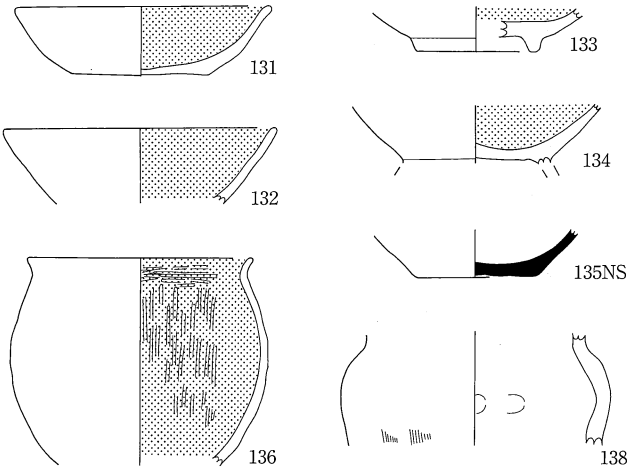
第17図　土器・陶磁器(3)

150・151住（121・122）

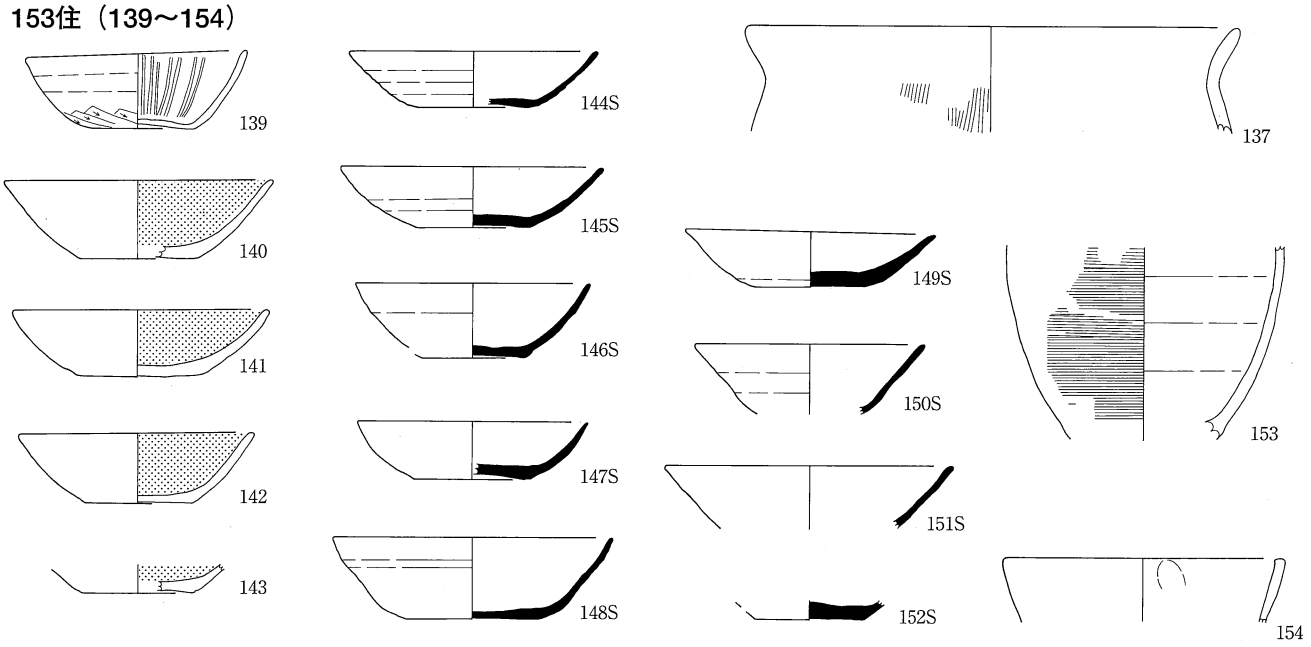
151住（123～130）



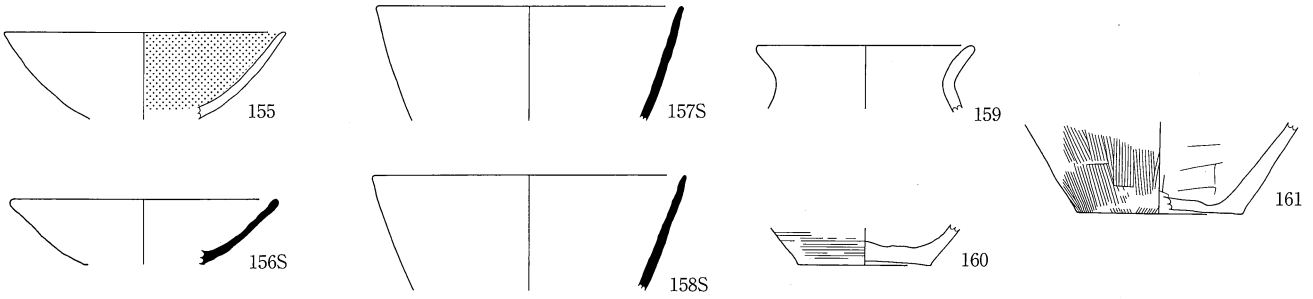
152住（131～138）



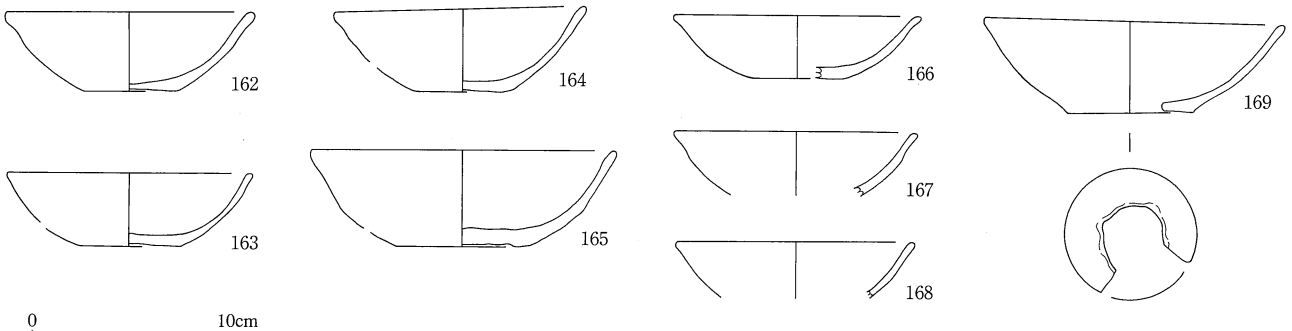
153住（139～154）



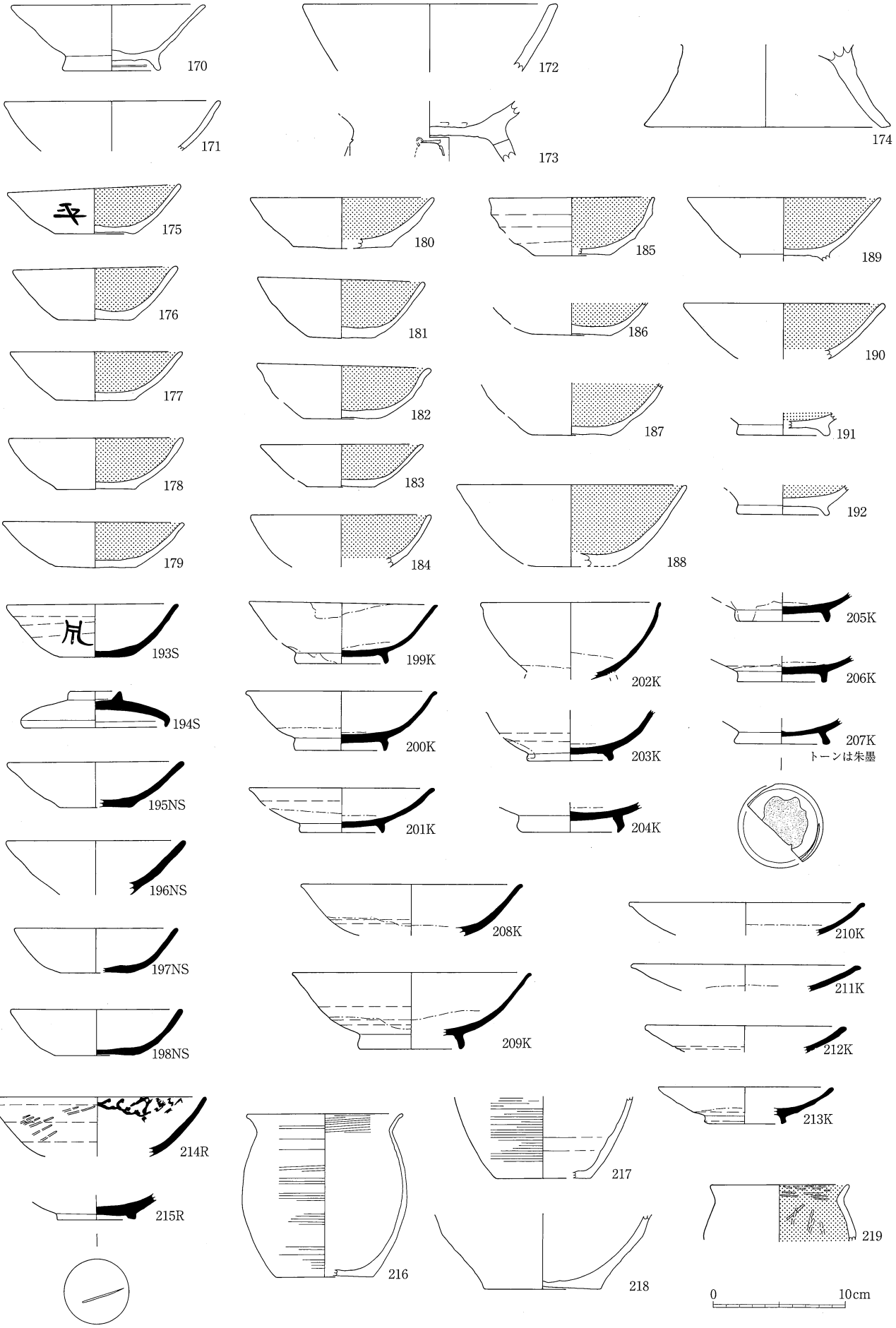
154住（155～161）



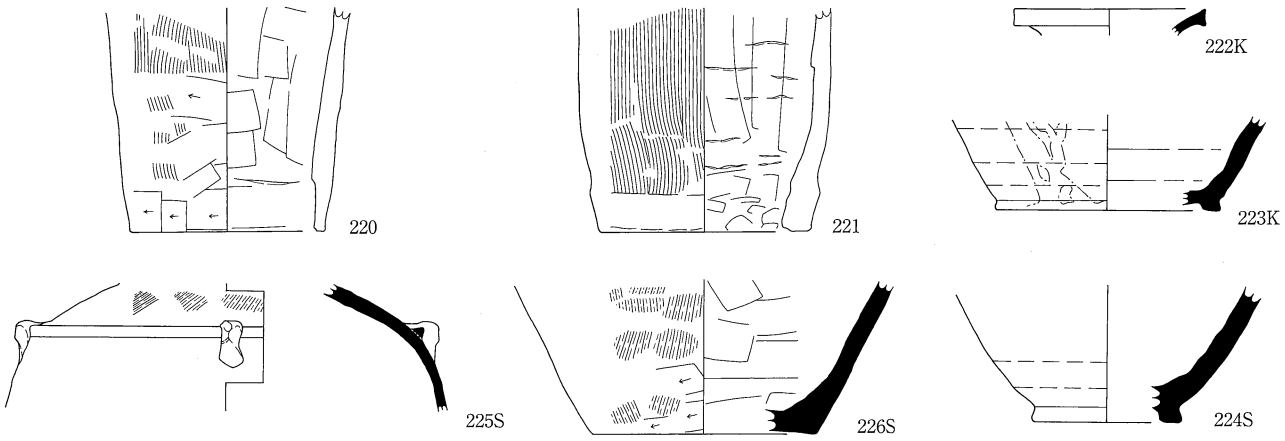
155住（162～226）



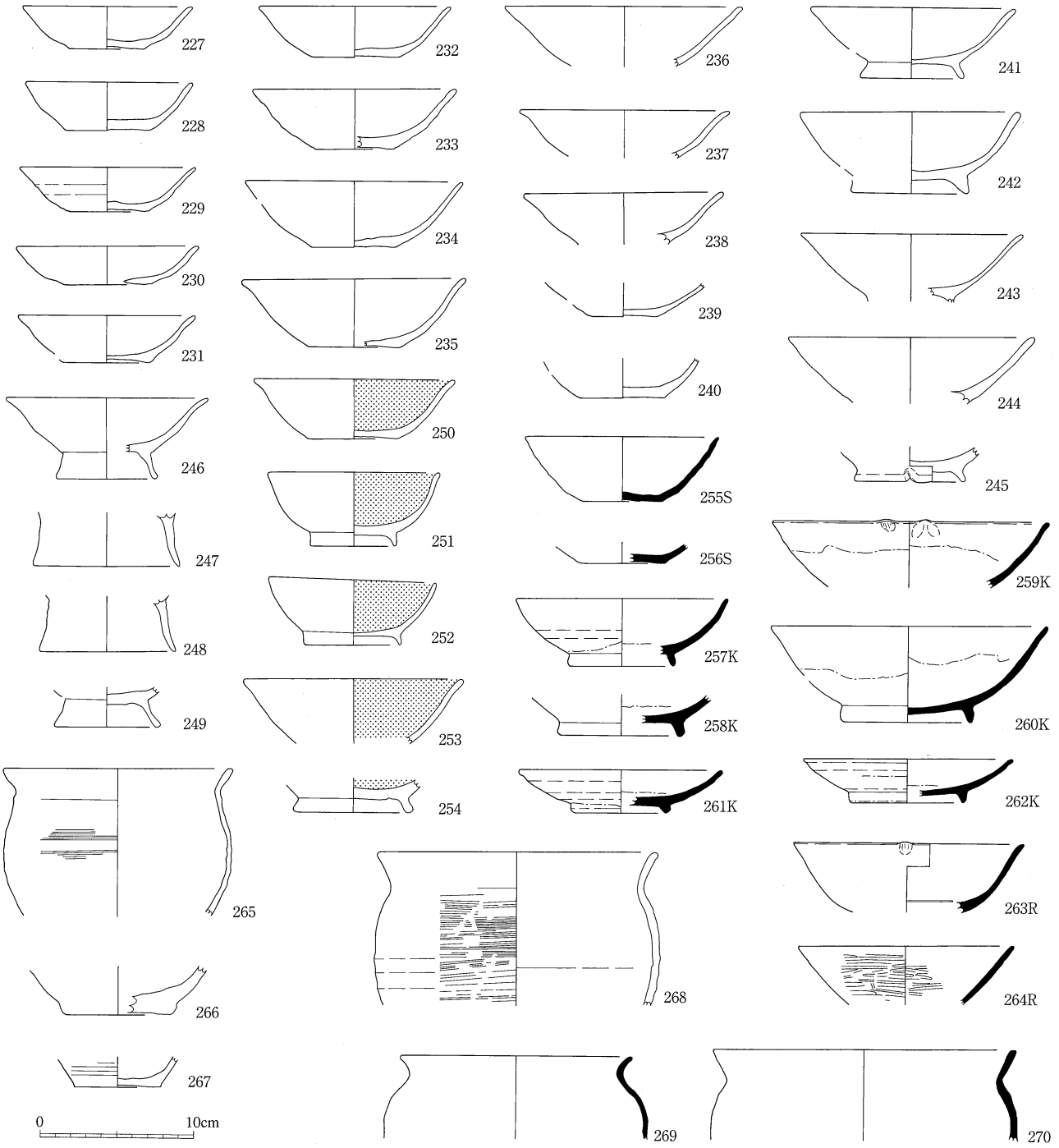
第18図　土器・陶磁器(4)


170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193S
194S
195NS
196NS
197NS
198NS
199K
200K
201K
202K
203K
204K
205K
206K
207K
トーンは朱墨
208K
209K
210K
211K
212K
213K
214R
215R
216
217
218
219
0
10cm

第19図　土器・陶磁器(5)

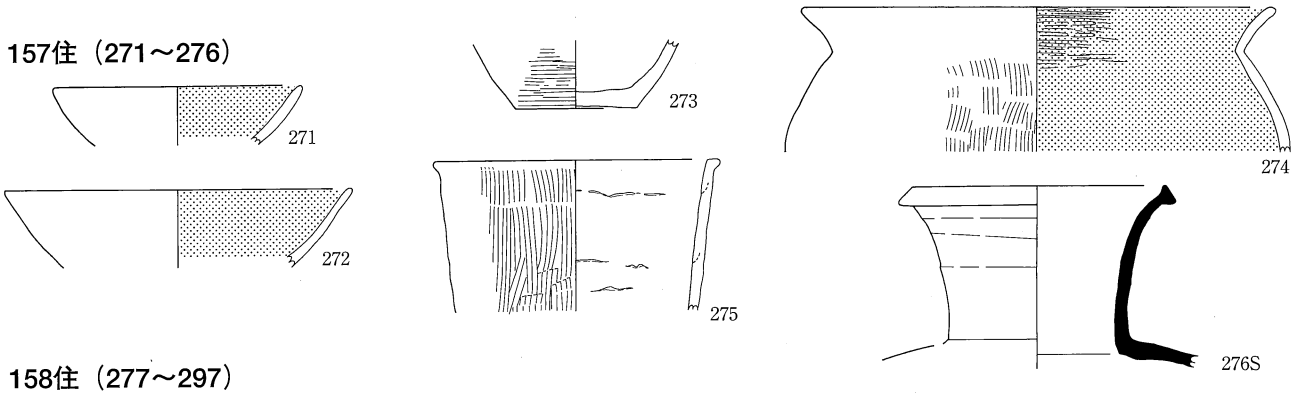


156住（227～270）

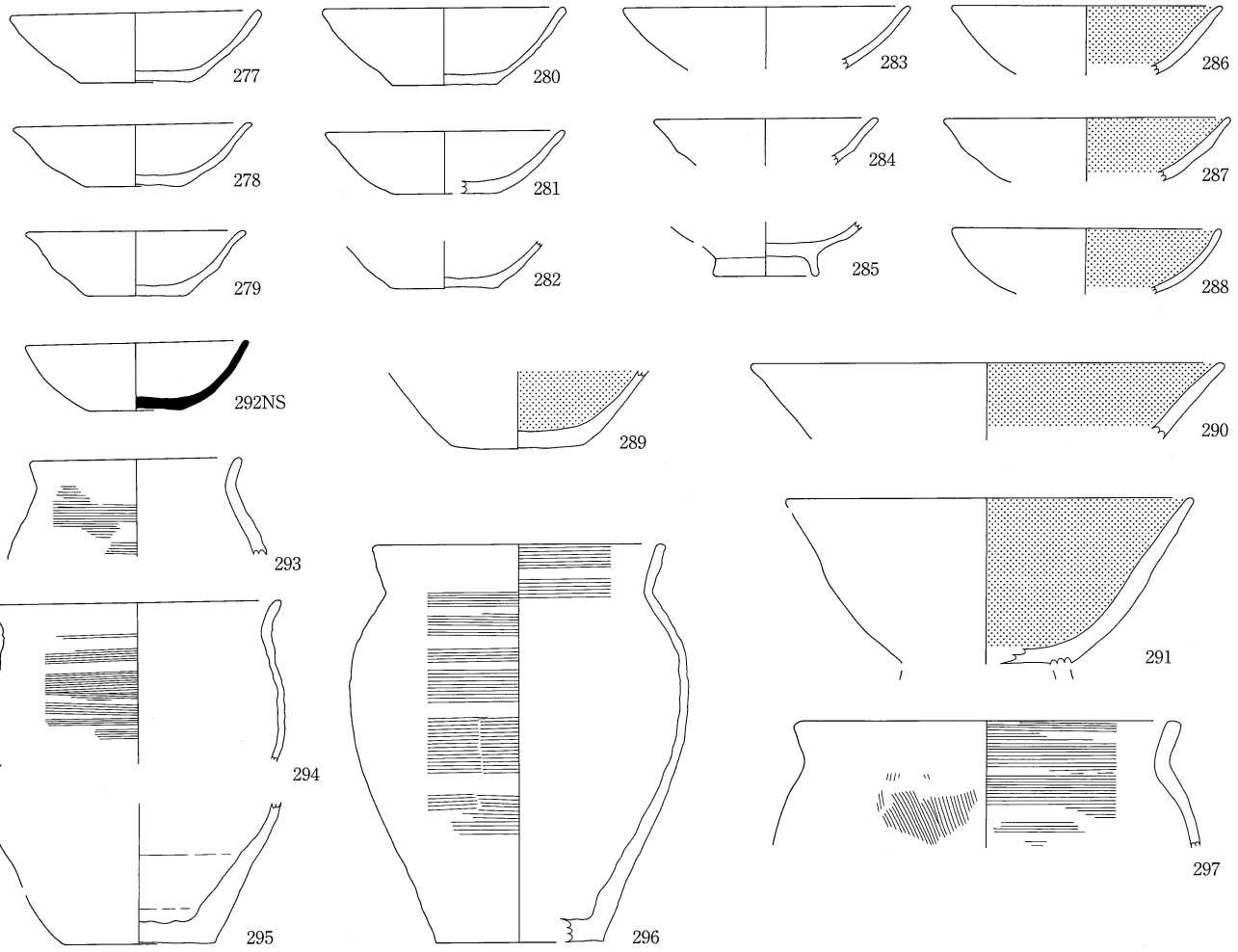


第20図　土器・陶磁器(6)

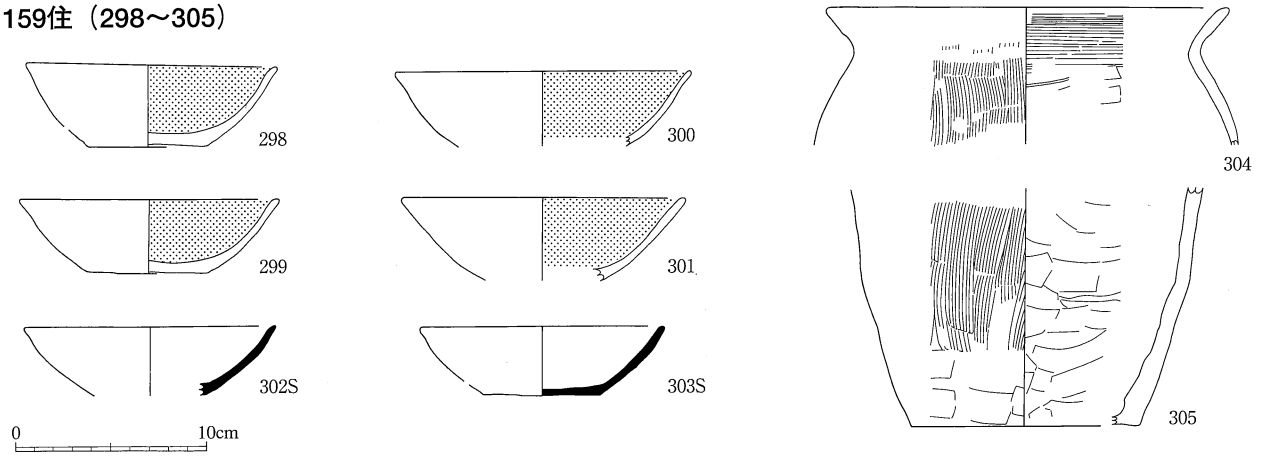
157住（271～276）



158住（277～297）

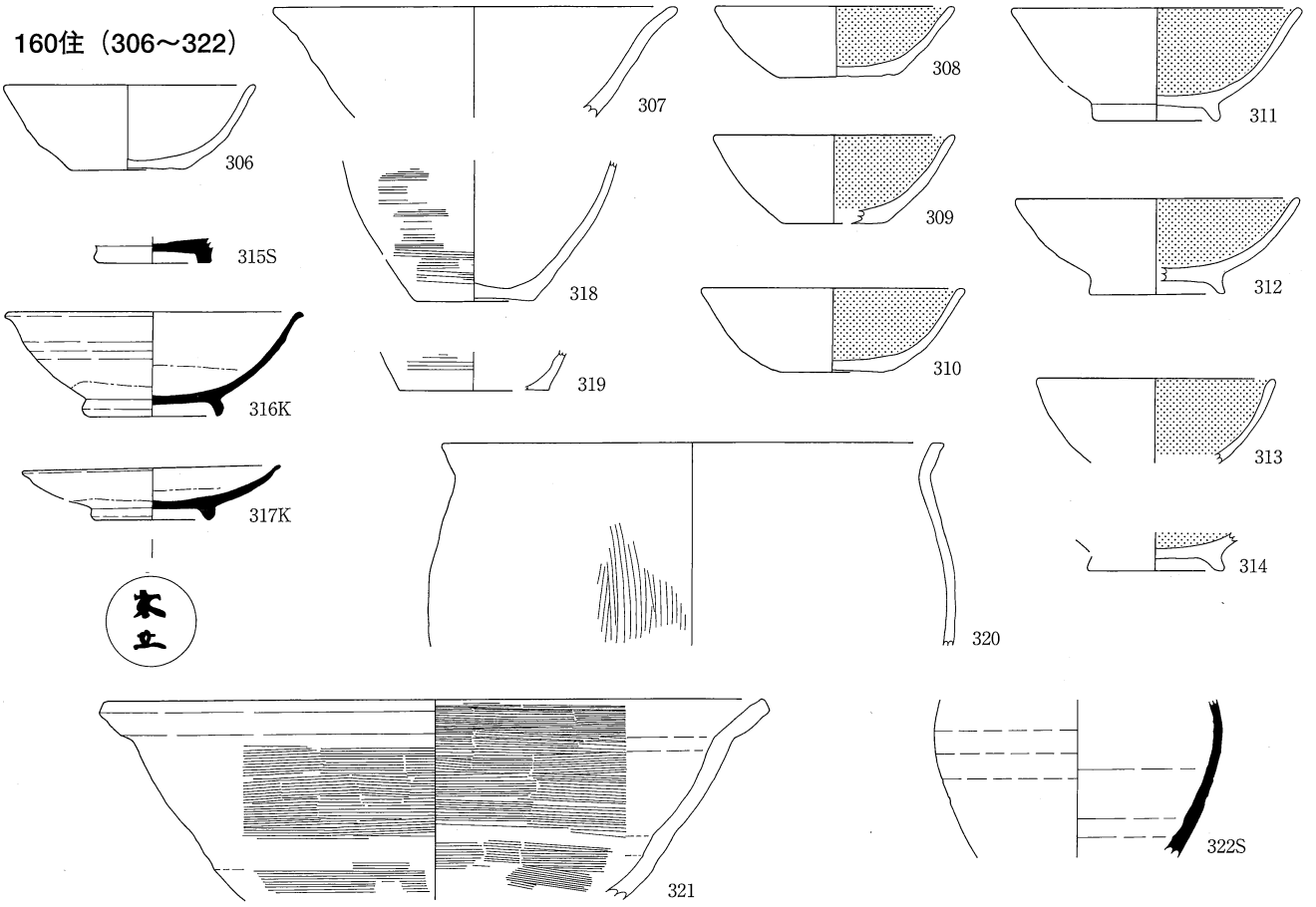


159住（298～305）

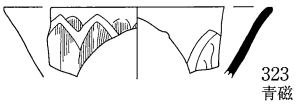


第21図　土器・陶磁器(7)

160住（306～322）

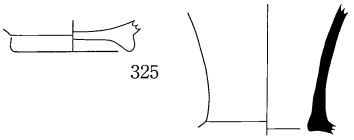


竪1（323）

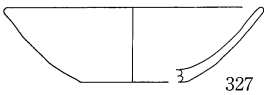


竪2（324）

竪5（325・326）

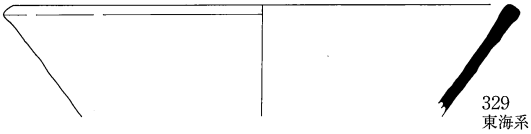


竪6（327）

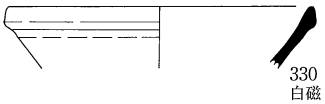


土坑9（328）

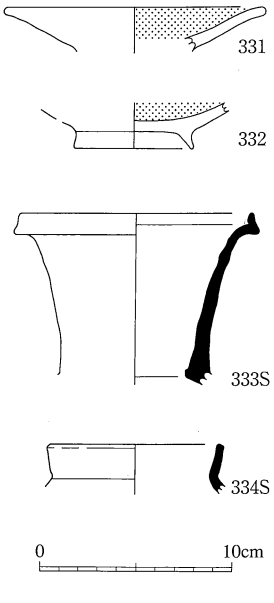
土坑15（329）



土坑18（330）

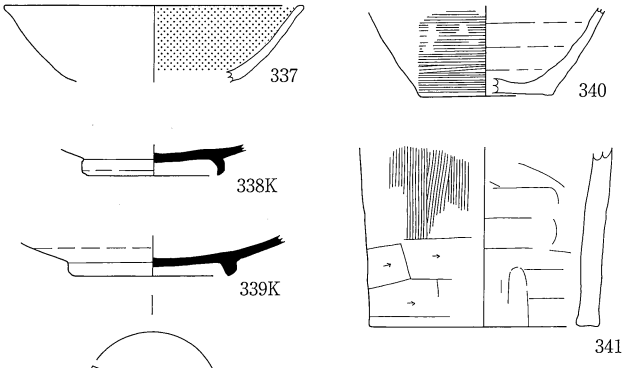


土坑37（331～334）

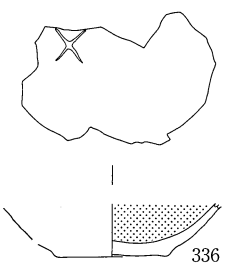


土坑48（335）

土坑72（337～341）

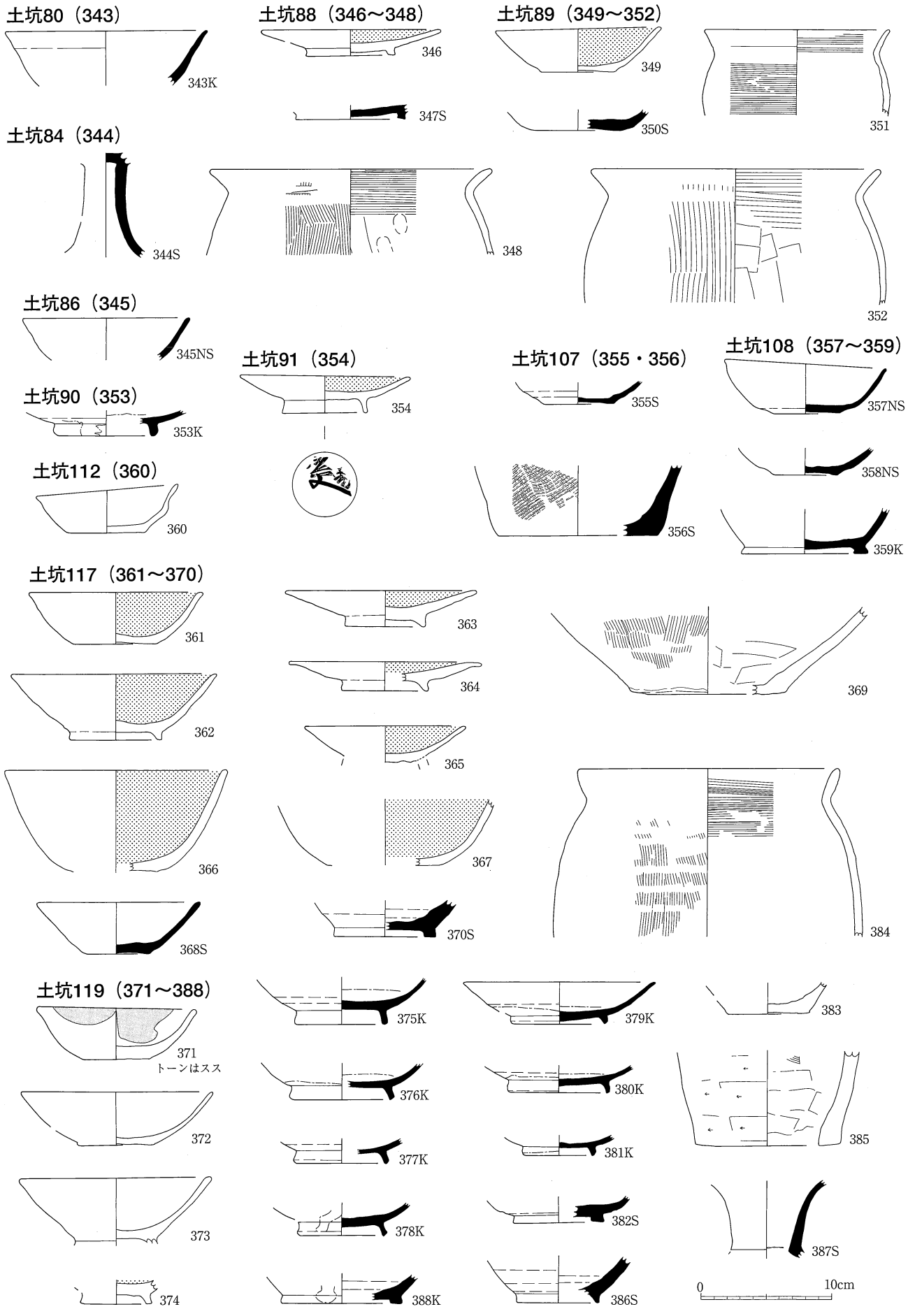


土坑69（336）

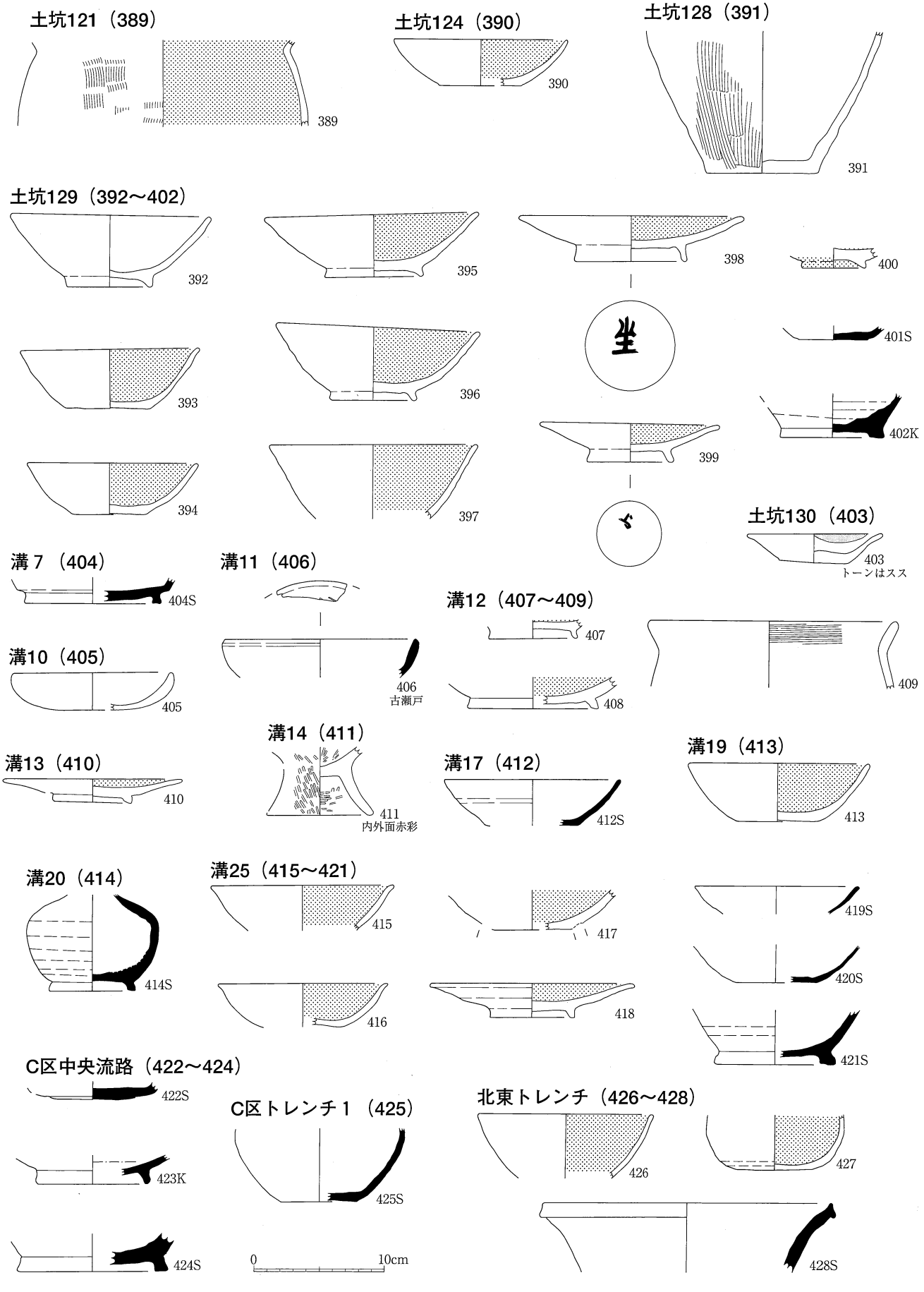


土坑73（342）

第22図　土器・陶磁器(8)

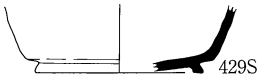

土坑80（343）
343K
土坑88（346～348）
346
347S
土坑89（349～352）
349
350S
351
土坑84（344）
344S
348
352
土坑86（345）
345NS
土坑91（354）
354
土坑107（355・356）
355S
土坑108（357～359）
357NS
358NS
359K
土坑90（353）
353K
土坑112（360）
360
356S
土坑117（361～370）
361
362
363
364
365
366
367
368S
369
370S
384
土坑119（371～388）
371
トーンはスス
372
373
374
375K
376K
377K
378K
388K
379K
380K
381K
382S
386S
383
385
387S
0
10cm

第23図　土器・陶磁器(9)

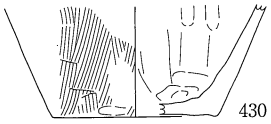


第24図　土器・陶磁器(10)

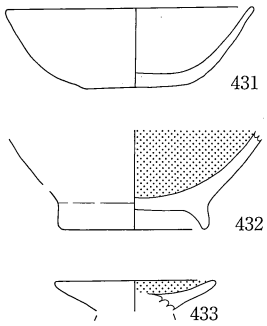
A区ST6（429）



A区ST10（430）

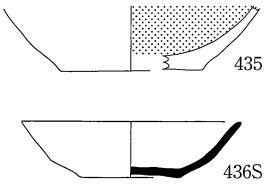


B区ST4（431～433）

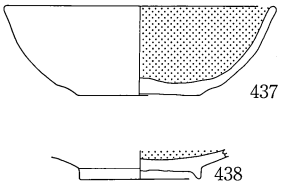


C区ST1（434）

C区ST2（435・436）

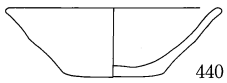


C区ST4（437・438）



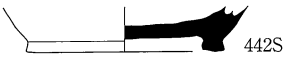
C区ST7（439）

C区ST12（440）

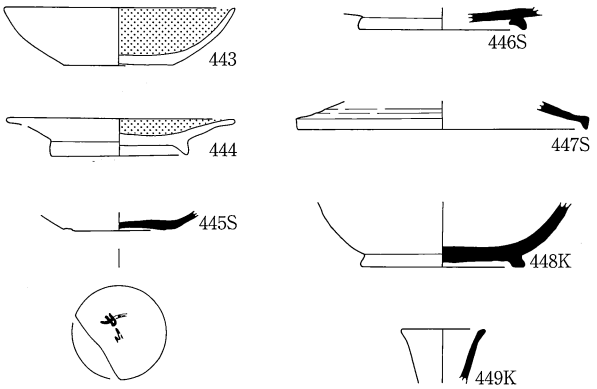


C区ST13（441）

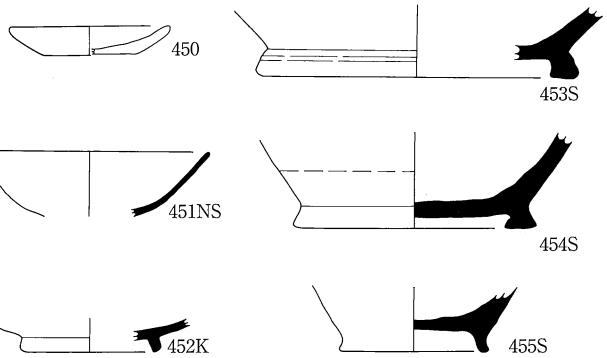
C区ST14（442）



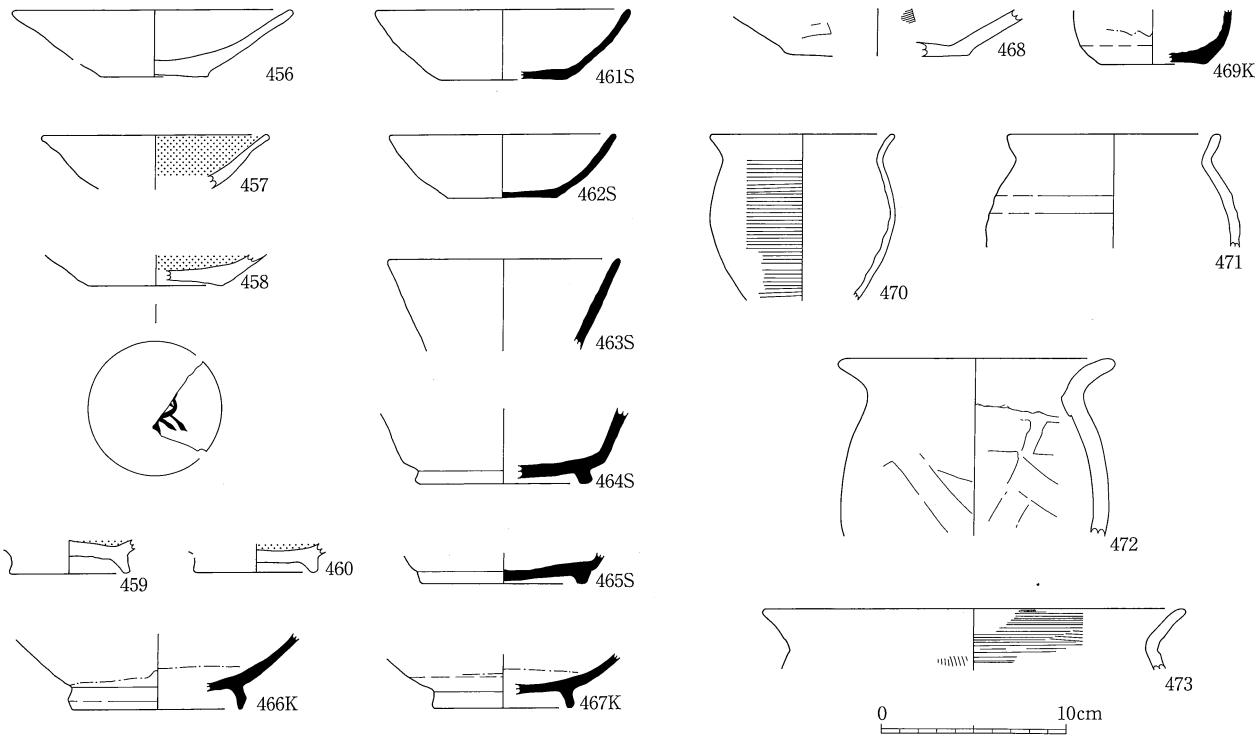
A区検出面（443～449）



B区検出面（450～455）

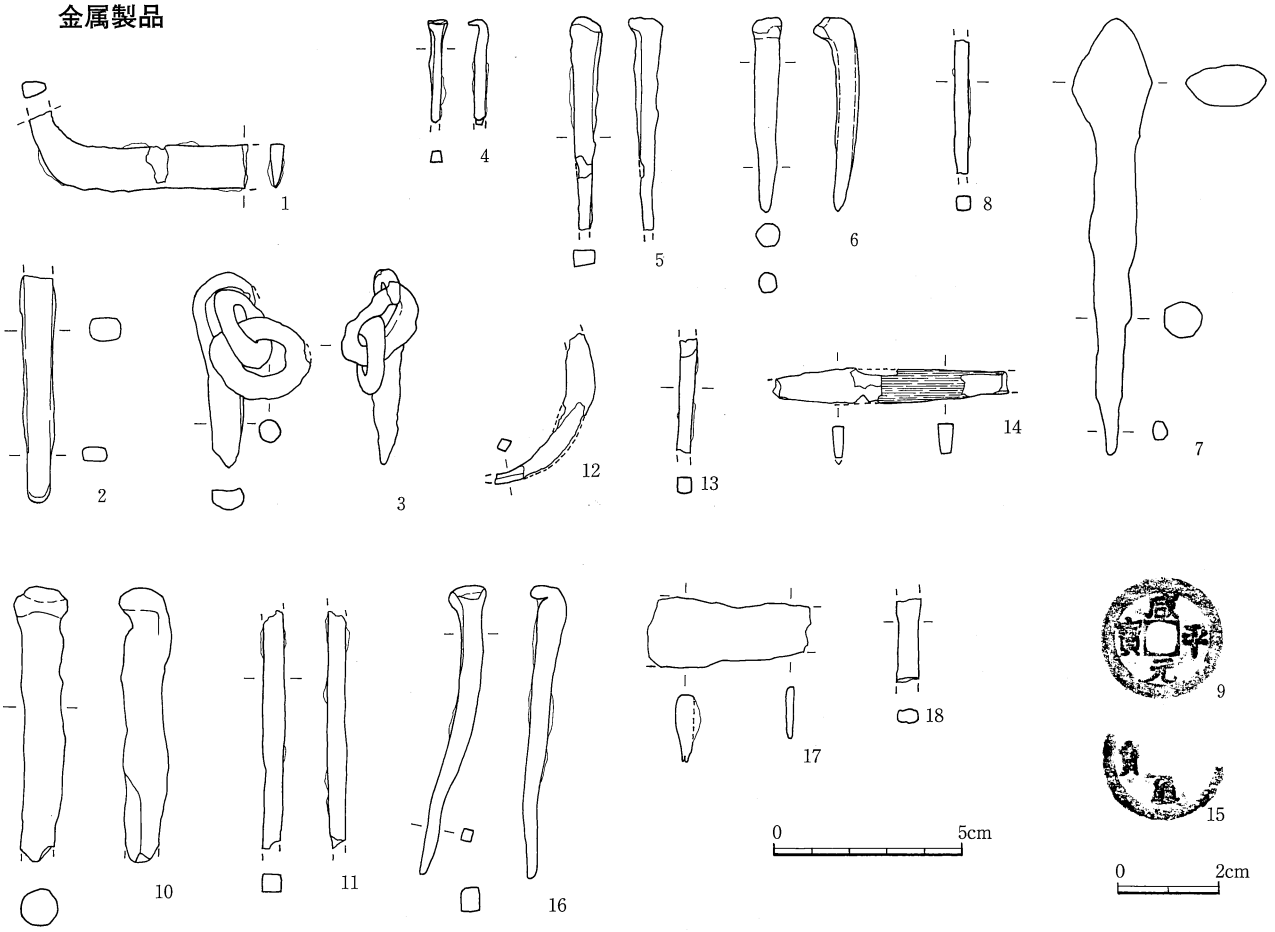


C区検出面（456～473）

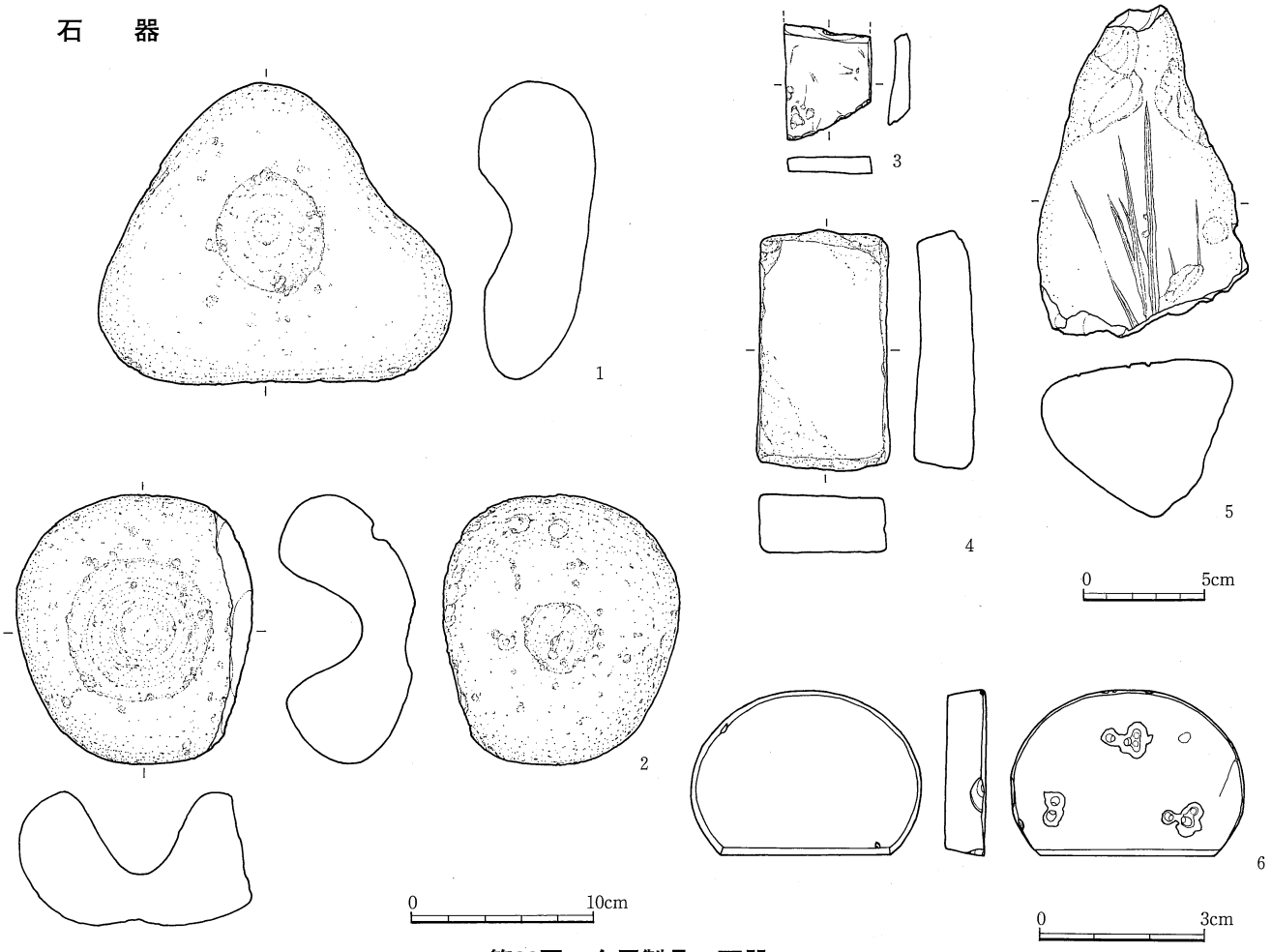


第25図　土器・陶磁器(11)

金属製品



石　器



第26図　金属製品・石器

写真図版１

A区 全景 北東から撮影

B区 全景 北から撮影

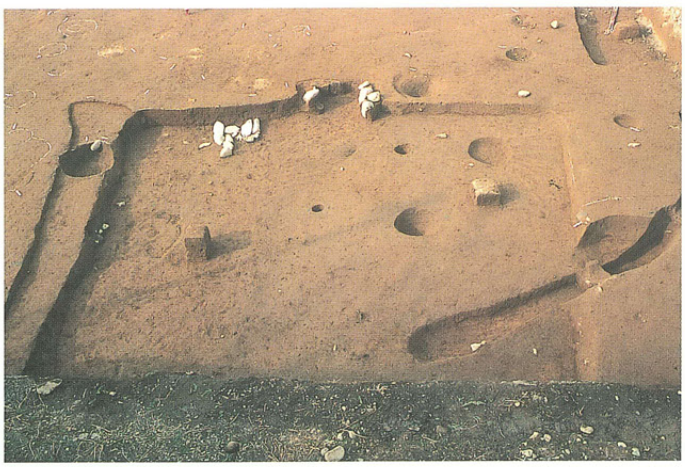
C区 全景 北から撮影

A 区 検出状況

A 区 139住 カマド遺物出土状況 1

A 区 139住 カマド遺物出土状況 2

A 区 139住 カマド完掘状況



A 区 139住 完掘状況

A 区 141住 完掘状況

A 区 144住 遺物・炭化物出土状況

A 区 144住 周溝検出状況

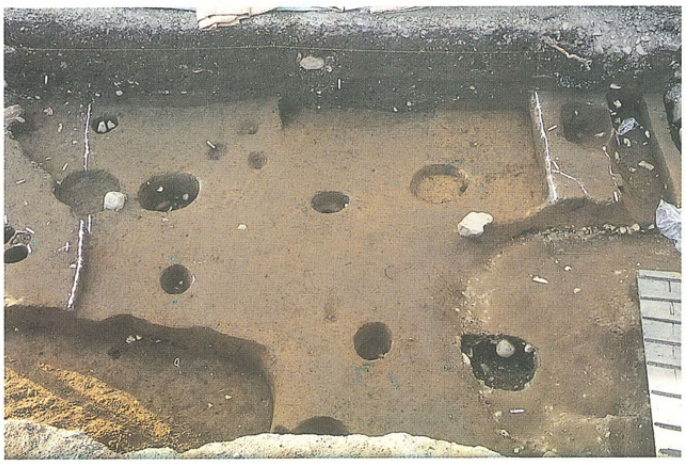
写真図版 3

A 区 142住 土層

B 区 146住 遺物出土状況

B 区 146住 遺物出土状況

B 区 146住 完掘状況



B 区 150住 完掘状況

A 区 154住 カマド・炭化物検出状況

A 区 154住 カマド土層

A 区 154住 完掘状況

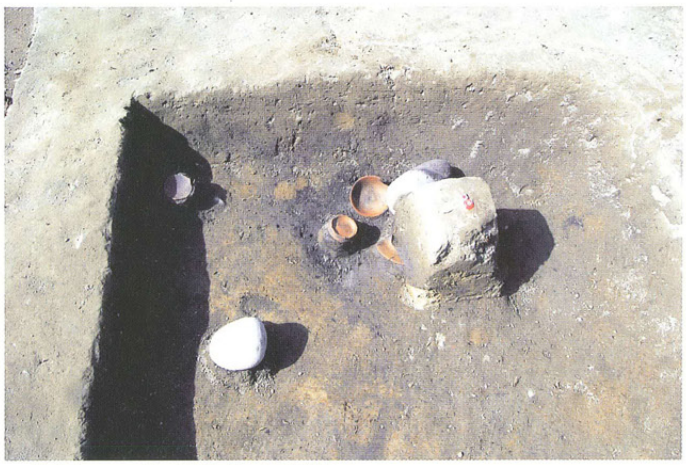
C 区 北側 遺構検出状況

C 区 155住 遺物・礫出土状況

C 区 155住 完掘状況

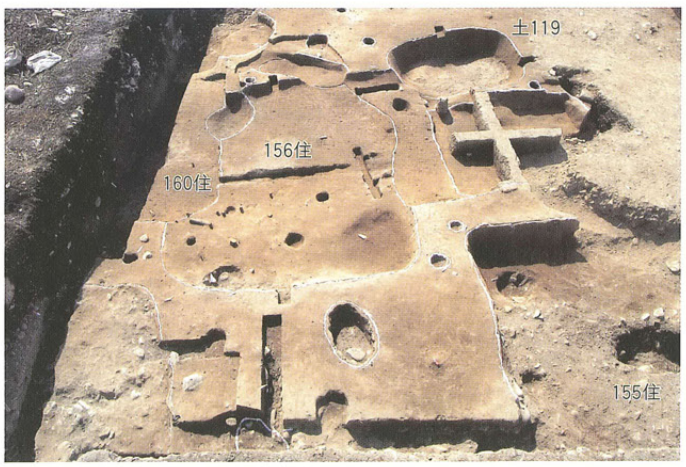
C 区 156住 カマド検出状況

C 区 156住 遺物出土状況 1



C 区 156住 遺物出土状況 2

C 区 156住 完掘状況



C 区 156住周辺部 完掘状況

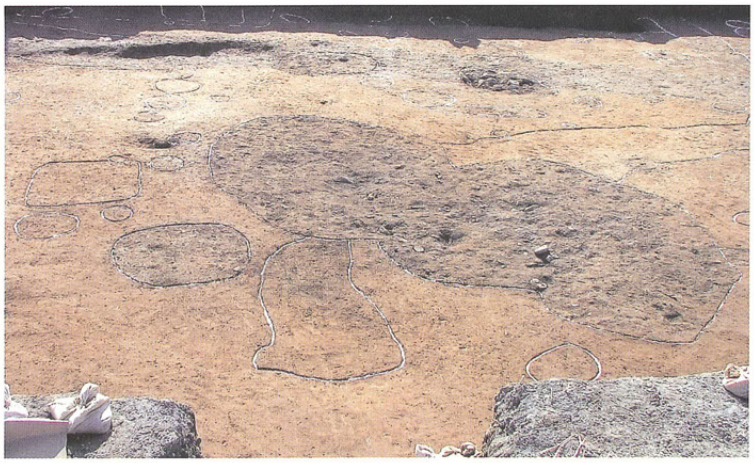
写真図版 5

C 区 157住 炭化物検出状況

C 区 157住 完掘状況

C 区 160住 遺物出土状況

C 区 160住 完掘状況



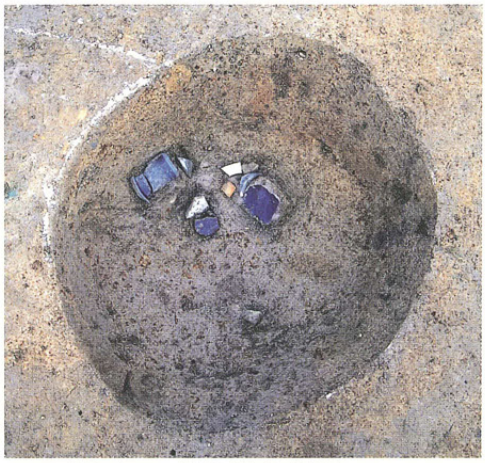
A 区 竪 1 ～竪 3 検出状況

A 区 竪 1 ～竪 3 土層

A 区 竪 2 土層

B 区 竪 5 完掘状況

A 区 土18 完掘状況



A 区 土37 遺物出土状況

B 区 土90 完掘状況

B 区 土90 底面の配石とピット

C 区 土108 遺物出土状況

C 区 土117 遺物出土状況

C 区 土119 遺物出土状況

C 区 土119 完掘状況

C 区 土129 礫出土状況

C 区 土129 遺物出土状況

C 区 土129 完掘状況

C 区 南西部 土層

A 区 溝 7 検出状況

A 区 溝 7 土層

A 区 溝14 遺物出土状況

C 区 溝20 遺物出土状況

7

111

49

116

71

124

72

125

95

131

7

111

49

116

71

124

72

125

95

131

368

392

393

394

395

396

398

399

215緑釉（表）

215緑釉（裏）

107緑釉

323

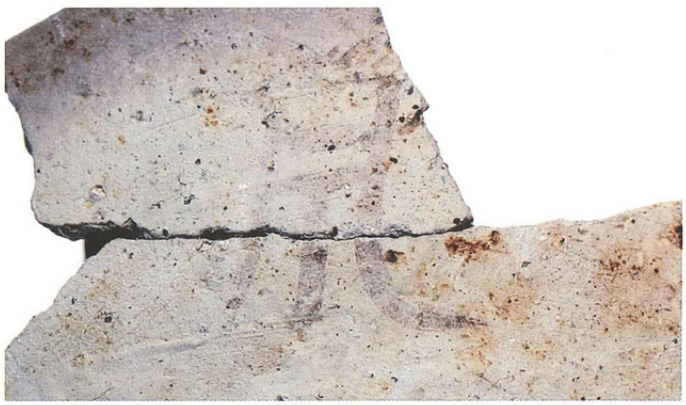
竪2

214緑釉緑彩紋

398底面墨書

175体部外面墨書

263緑釉



193体部外面墨書

264緑釉

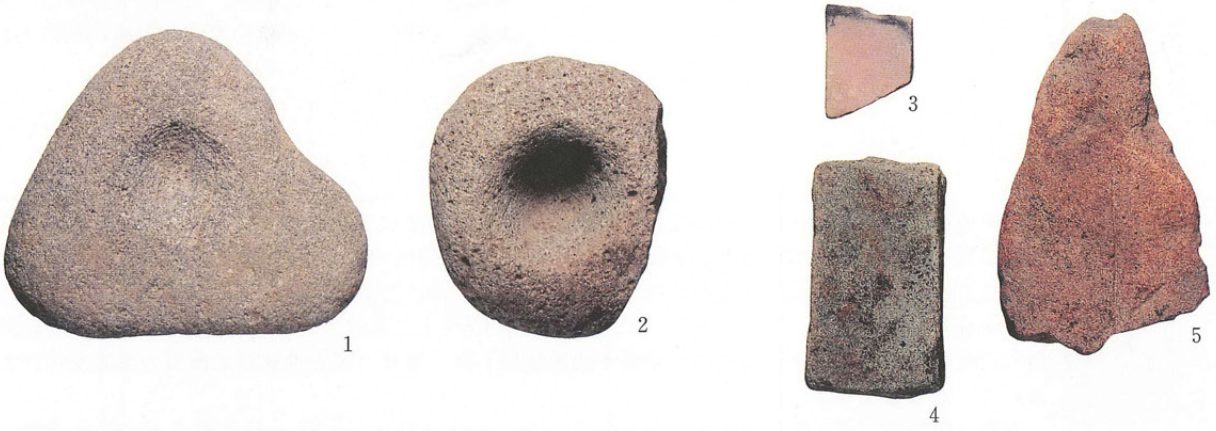
207底面朱墨

C区検出面

156住

108

金属製品



つき臼

砥石

石製帯飾り（丸鞆）

長野県松本市　県町遺跡第14次発掘調査　報告書抄録

ふりがな	ながのけんまつもとし　あがたまちいせき　だい14じはっくつちょうさほうこくしょ
書名	長野県松本市　県町遺跡　第14次発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	松本市文化財調査報告
シリーズ番号	№200
編著者名	関沢　聡、直井雅尚、宮島義和、内田陽一郎、吉井　理
編集機関	松本市教育委員会
所在地	〒390-0874　長野県松本市大手３－８－13(５Ｆ)　TEL　0263-34-3000(代) (記録・資料保管：松本市立考古博物館　〒390-0823　松本市大字中山3738－１　TEL　0263-86-4710)
発行年月日	2009(平成21)年３月31日(平成20年度)

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
あがたまち 県町	ながのけんまつもとし 長野県松本市 あがたちょうめ 県１丁目 1530－４	20202	161	36° 14′ 10″	137° 58′ 40″	H19.12.6 ～ H20.3.27	594.6㎡	マンション 建設工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
県町	集落跡	弥生 古墳 奈良 平安 中世	竪穴住居址 竪穴状遺構 土坑 ピット 溝状遺構 自然流路	21軒 6基 112基 153基 25本 2本	弥生土器 土師器 須恵器 灰釉陶器 緑釉陶器 青磁・白磁 土師質土器 陶磁器 丸鞆（石製） つき臼 曲物底板 金属製品 銭貨	井戸と推定される土坑２基が検出されている。このうち、土129からは黒色土器の杯・皿、石製帯飾り（丸鞆）が出土している。 直径３ｍ以上、深さ1.5ｍ前後で、土師質土器・鎬蓮弁文青磁碗・古瀬戸などが出土する中世の竪穴状遺構が検出されている。

要約

県町遺跡は女鳥羽川と薄川が形成した複合扇状地の扇端部に立地する。調査地点は県町遺跡の北西部に位置し、現在の薄川から800ｍ程離れた、遺跡内でも低い場所に位置している。

主な遺構として、奈良・平安時代の竪穴住居址21軒、井戸と推定される土坑のほか、中世の竪穴状遺構が検出されている。また、遺跡内には弥生～古墳時代に形成された砂礫層と、平安時代以降に起った薄川の氾濫性の堆積層や溝状遺構が複数検出されており、調査地周辺に薄川の氾濫がたびたび及んでいたことがうかがえる。

遺物は緑釉陶器が比較的多く出土しているほか、石製帯飾り（丸鞆）・転用硯などの特殊遺物が出土している。

松本市文化財調査報告№200
長野県松本市

県町遺跡

―第14次発掘調査報告書―

発行日　平成21年３月27日
発　行　松本市教育委員会
〒390－0874
長野県松本市大手３－８－13(５Ｆ)
印　刷　電算印刷株式会社